

令和2－3年度

府中市
美術館
年報

ANNUAL
REPORTS
OF
FUCHU
ART
MUSEUM

April 2020-March 2022

目次

沿革	4
1. 展覧会事業	
1 企画展広報物・図録及び出版物	5
2 企画展一覧	15
3 常設展一覧	43
2. 作品及び資料	
1 新収蔵作品	10
2 作品貸出状況	43
3 図書及びその他の資料	46
3. 教育普及事業	
1 公開制作	47
2 アートスタジオ	52
3 ワークショップ	54
4 美術鑑賞教室	55
5 教員研修会	55
6 団体鑑賞支援	56
7 大学等連携事業	56
4. ボランティア活動	58
5. 市民文化の日	58
6. 市民ギャラリー	
1 利用一覧	59
2 市民ギャラリーにおける主催・共催事業	59
7. 出版・広報	
1 出版物	60
2 ホームページ	60
8. 調査・研究	60
9. 利用者数一覧	61
10. 関係法規等	
1 関係法規	62
2 組織	67
3 各種委員会	67
11. 利用案内	68

沿革

1983(昭和58)年

4月 昭和44年、51年の長期計画に続いて、総合計画に「美術館の建設」が盛り込まれる。

1986(昭和61)年

4月 文化振興基金に10億円を目標に美術品購入のための積み立てを開始。

8月 市民参加による第一次文化懇談会から「美術文化の核となる美術館建設」の提言を受ける。

1991(平成3)年

3月 市民参加による第二次文化懇談会が美術館建設を提言。

9月 市民参加による美術館建設検討協議会が「府中市美術館の基本構想について」を答申する。

1994(平成4)年

12月 文教委員会に美術館建設予定地を都立府中の森公園とすること、東北地方の個人が所有する近代洋画のコレクションを一括購入することが報告され、交渉が了承される。

1996(平成8)年

6月 文教経済委員会が、8度にわたる市民関係団体との懇談会を踏まえて修正された基本計画を了承。

1997(平成9)年

3月 文教経済委員会に、基本設計を報告。市議会が実施設計及び建設工事の予算を可決。

11月 東京都が美術館の設置を許可(公園施設設置許可)。

12月 建設工事着工。

1998(平成10)年

6月 洋画家牛島憲之の作品111点が遺族から府中市に寄贈される。

1999(平成11)年

9月 「府中市美術館条例」が市議会でも可決、施行される。

2000(平成12)年

6月 建設工事竣工。

10月14日 府中市美術館開館。

2004(平成16)年

10月 府中市制施行50周年記念「牛島憲之と昭和前期の絵画―抽象と具象のあいだ」展を開催。

2009(平成21)年

11月 府中市制施行55周年記念「ターナーから印象派へ『光のなかの自然』」展を開催。

2010(平成22)年

9月 開館10周年記念展「バルビゾンからの贈りもの―至高なる風景の輝き」を開催。

2014(平成26)年

5月 府中市制施行60周年記念「東京・ソウル・台北・長春―官展にみるそれぞれの近代美術」展を開催。

9月 府中市制施行60周年記念「生誕200年 ミレー展―愛しきものたちへのまなざし」を開催。

2018(平成30)年

3月 コレクションの充実のため美術品購入基金が新たに設置される。

9月 エントランスロビーの天井改修補強工事等を実施。翌年3月まで休館。

2019(平成31・令和元年)

5月 府中市制施行65周年記念「棟方志功展」を開催。

9月 府中市制施行65周年記念「おかえり『美しき明治』」展を開催。

2020(令和2)年

12月 開館20周年記念「メイド・イン・フチュウ 公開制作の20年」展を開催。

2021(令和3)年

9月 開館20周年記念「動物の絵 日本とヨーロッパ ふしぎ・かわいい・へそまがり」展を開催。

1 展覧会事業

1 | 企画展広報物・図録及び出版物

1. 東京近郊のんびり散歩 [令和2年6月2日-7月5日]



美術展

東京近郊のんびり散歩

江戸時代から現代まで

2020年6月2日(火) — 7月5日(日)

開催時間 — 午前10時～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 日 — 月曜日
観 覧 料 — 一般200円(150円)、高校生・大学生100円(80円)、小学生・中学生50円(30円)
※1) 1歳以上5歳未満は入場料無料。※本館学芸員より観覧券手帳等を対象の方は無料。※府中市内の小中学生は「府中っ子学芸員パスポート」で無料。
主 催 — 府中市美術館

5月29日(土)から7月5日(日)に予定していた企画展「この展覧会は、展覧会準備を十分にできない状況であることから、やむなく開催を中止いたします。マスクの着用など感染防止対策へのご協力をお願いいたします。状況に応じて開催日や開催期間に変更が生じる場合があります。ご来館の際は、当館のホームページ等で最新の情報をご確認ください。ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を申し上げますようお願いいたします。

府中市美術館
Fuchu Art Museum
東京都府中市清見町1-3
www.city.fuchu.tokyo.jp/art/ 電話:0426-5541-8600
FAX:0426-5541-8600

[ポスター]

2. ひらいてみよう 美術の扉 [令和2年7月18日-9月6日]



ひらいてみよう
Let's Open the Doors to Art

美術の扉

2020 7/18(土) >>> 9/6(日)

開催日: 7月18日(土)～9月6日(日) 開催期間: 午前10時～午後5時(入場は午後4時30分まで)
観覧料: 小学生・中学生 70円(50円) / 高校生・大学生 200円(150円) / 一般 400円(300円)
※1) 1歳以上5歳未満は入場料無料。 ※本館学芸員より観覧券手帳等を対象の方は無料。
※ 府中市内の小中学生は「府中っ子学芸員パスポート」で無料。 ※ 1歳以上5歳未満は入場料無料。
※ 開催期間中は本館常設展示室も休館。観覧券手帳は7月18日、2020年7月19日(日)に限り受付いたします。

府中市美術館 Fuchu Art Museum 東京都府中市清見町1-3
TEL:0426-5541-8600 http://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/

[チラシ]



ひらいてみよう
Let's Open the Doors to Art

美術の扉

とびら いっしょ ひら
扉と一緒に開いて、
まぐひん せかい
作品の世界に
とこ
飛び込んでみましょう!

[ワークブック]
編集・発行: 府中市美術館

3. 日本の美術を貫く 炎の筆「線」 [令和2年9月19日-11月23日]



[チラシ]



[図録]
編集・発行：府中市美術館

4. 開館20周年記念 メイド・イン・フチュウ 公開制作の20年 [令和2年12月5日-令和3年2月28日]



[チラシ]

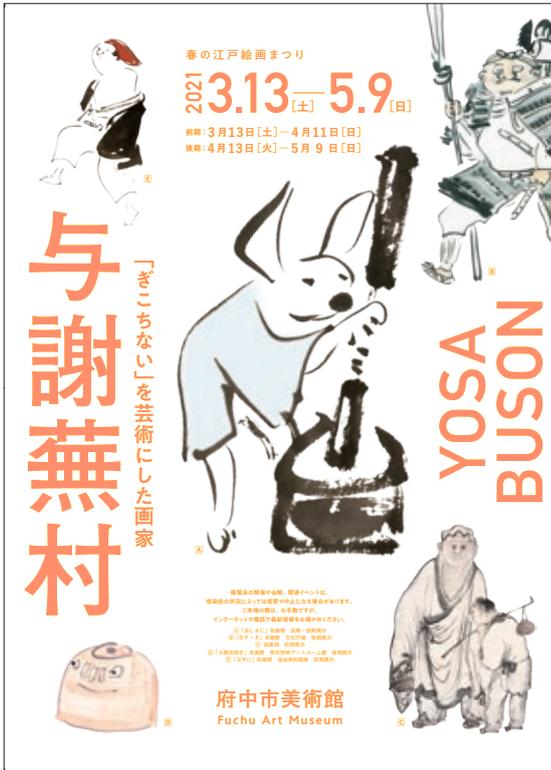


[図録]
編集・発行：府中市美術館



[記録集]
編集・発行：府中市美術館

5. 与謝蕪村「ごちない」を芸術にした画家 [令和3年3月13日-5月9日]



[チラシ]

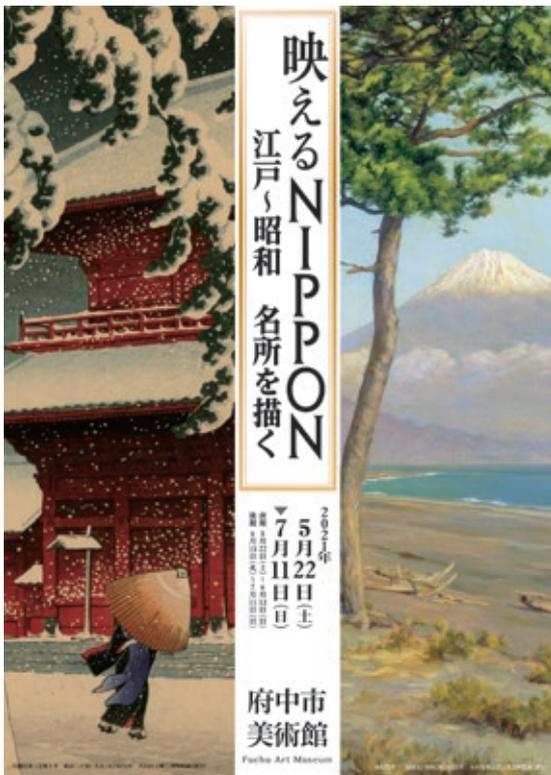


[図録兼書籍]
著・編集:府中市美術館 発行:東京美術



[ワークシート]
編集・発行:府中市美術館

6. 映えるNIPPON 江戸～昭和 名所を描く [令和3年5月22日-7月11日]



[チラシ]



[図録]
編集・発行:府中市美術館

7. いっしょに遊ぼう! ぱれたんとむら田 [令和3年7月24日-9月5日]



[チラシ]



[ワークブック]
編集・発行：府中市美術館

8. 開館20周年記念 動物の絵 日本とヨーロッパ ふしぎ・かわいい・へそまがり [令和3年9月18日-11月28日]



[チラシ]

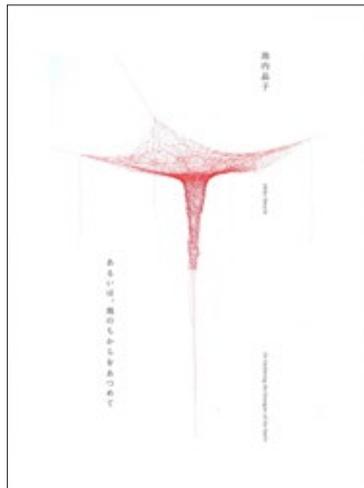


[図録兼書籍]
編集：府中市美術館
発行：講談社

9. 池内晶子 あるいは、地のちからをあつめて [令和3年12月18日-令和4年2月27日]



[チラシ]



[図録]
編集・発行：府中市美術館

10. ふつうの系譜「奇想」があるなら「ふつう」もあります-京の絵画と敦賀コレクション [令和4年3月12日-5月8日]



[チラシ]



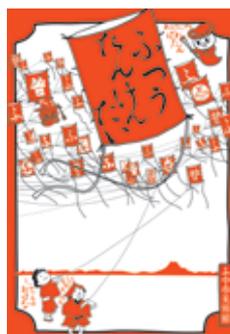
ふつうの系譜

「奇想」があるなら「ふつう」もあります

京の絵画と敦賀コレクション



[図録]
編集・発行：府中市美術館



[ワークシート]
編集・発行：府中市美術館

2 | 作品及び資料

1 | 新収蔵作品

データの記載順序は下記の通り

所蔵品番号

作者名および生没年

資料名 作者自身の命題や適当な来歴名称がなく、当館が便宜的に付けたものには*印を付した。

作者名(英文)

資料名(英文)

材質

法量 縦×横、()内はイメージサイズを記載した。

制作時期

款記・印章

その他特記事項

取得年度および取得方法

令和2年度購入



2284
正宗得三郎
明治16年(1883)-昭和37年(1962)
初夏の山

MASAMUNE Tokusaburo
Early Summer Mountains
キャンバス、油彩
73.0cm×91.0cm
制作年不詳
画面左下：T.Massamune
令和2年度 購入



2285
小山田二郎
大正3年(1914)-平成3年(1991)
鳥女

OYAMADA Jiro
Bird Woman
キャンバス、油彩
145.0cm×97.0cm
昭和35年(1960)
令和2年度 購入



2286
O JUN
昭和31年(1956)-
其ノ児-crown

O JUN
That Child - Crown
紙、アクリル、顔料、ガラス、鉄
170.0cm×119.0cm×5.0cm
平成20年(2008)
「公開制作41 O JUN 眼の、前に」
(府中市美術館、2008年)にて制作
令和2年度 購入



2287
O JUN
昭和31年(1956)-
此ノ児-camellia

O JUN
This Child - Camellia
紙、アクリル、顔料、ガラス、鉄
170.0cm×119.0cm×5.0cm
平成20年(2008)
「公開制作41 O JUN 眼の、前に」
(府中市美術館、2008年)にて制作
令和2年度 購入



2288
金田実生
昭和38年(1963)-
浸透と蒸発

KANEDA Mio
Osmosis and Evaporation
紙、油彩
155.0cm×169.0cm
平成25年(2013)
令和2年度 購入



2289
金田実生
昭和38年(1963)-
ここから見渡す

KANEDA Mio
Looking around from Here
紙、油彩
155.0cm×163.0cm
平成25年(2013)
令和2年度 購入

令和2年度寄贈



2290
牛島憲之
明治33年(1900)-平成9年(1997)
かちどきの渡し(築地にて)

USHIJIMA Noriyuki
Kachidoki Ferry (At Tsukiji)
キャンバス、油彩
32.0cm×41.0cm
制作年不詳
画面左下: Ushijima
令和2年度 松尾彦代司氏寄贈



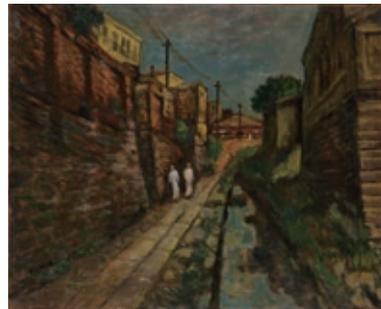
2291
平澤熊一
明治41年(1908)-平成元年(1989)
台北

HIRASAWA Kumaichi
Taipei
板、油彩
24.0cm×33.0cm
昭和8-12年(1933-37)頃
画面左下: kuma
令和2年度 平澤三之助氏寄贈



2292
平澤熊一
明治41年(1908)-平成元年(1989)
台北

HIRASAWA Kumaichi
Taipei
板、油彩
24.2cm×33.0cm
昭和8-12年(1933-37)頃
画面左下: kuma
令和2年度 平澤三之助氏寄贈



2293
平澤熊一
明治41年(1908)-平成元年(1989)
台湾 台北市 大稻埕

HIRASAWA Kumaichi
Twatutia, Taipei City, Taiwan
キャンバス、油彩
53.2cm×65.4cm
昭和8-12年(1933-37)頃
画面左下: kuma
令和2年度 平澤三之助氏寄贈



2294
平澤熊一
明治41年(1908)-平成元年(1989)
国立病院入口風景

HIRASAWA Kumaichi
View of the Entrance of the
National Hospital
キャンバス、油彩
65.2cm×80.3cm
昭和29年(1954)
画面左下: kuma
令和2年度 平澤三之助氏寄贈



2295
平澤熊一
明治41年(1908)-平成元年(1989)
抽象の構成

HIRASAWA Kumaichi
Abstract Composition
キャンバス、油彩
45.8cm×48.0cm
制作年不詳(1950-60年代)
画面左下: kuma
令和2年度 平澤三之助氏寄贈



2296
平澤熊一
明治41年(1908)-平成元年(1989)
赤い実と生き物たち

HIRASAWA Kumaichi
Red Fruits and Creatures
キャンバス、油彩
53.0cm×65.0cm
制作年不詳(1960年代)
画面右下:kuma
令和2年度 平澤三之助氏寄贈



2297
平澤熊一
明治41年(1908)-平成元年(1989)
老木

HIRASAWA Kumaichi
Old Tree
キャンバス、油彩
45.8cm×27.0cm
制作年不詳(1960年代)
画面右下:kuma
令和2年度 平澤三之助氏寄贈



2298
平澤熊一
明治41年(1908)-平成元年(1989)
空を見上げる鳥

HIRASAWA Kumaichi
Birds Looking up at the Sky
キャンバス、油彩
65.8cm×49.8cm
制作年不詳(1960-70年代)
画面右下:kuma
令和2年度 平澤三之助氏寄贈



2299
平澤熊一
明治41年(1908)-平成元年(1989)
我家の訪客たち

HIRASAWA Kumaichi
Visitors to Our Home
キャンバス、油彩
90.5cm×117.0cm
昭和50年(1975)
画面左下:1975 kuma
令和2年度 平澤三之助氏寄贈

令和3年度購入



2300
司馬江漢
延享4年(1747)-文政元年(1818)
蘭人観桜図

SHIBA Kokan
Westerners Viewing Cherry Blossoms
絹本淡彩 一幅
26.2cm×21.8cm
寛政年間(1789-1800)頃
画面左上:Zoo tat Kerssen boom
画面右上:江漢峻写
(白文方印)司馬峻写
(白文方印)君岳
令和3年度 購入



2301
兄島善三郎
明治26年(1893)-昭和37年(1962)
松

KOJIMA Zenzaburo
Pinetrees
キャンバス、油彩
115.5cm×80.7cm
昭和13年(1938)頃
令和3年度 購入



2302
海老原喜之助
明治37年(1904)-昭和45年(1970)
スキーヤー

EBIHARA Kinusuke
Skiers
キャンバス、油彩
65.0cm×80.0cm
昭和5年(1930)
画面左下:Ebihara. 30
令和3年度 購入



2303
関根伸夫
昭和17年(1942)-令和元年(2019)
位相-大地1

SEKINE Nobuo
Phase - Mother Earth 1
アルシユ紙、シルクスクリーン
100.0cm×200.0cm
(87.0cm×190.0cm)
昭和61年(1986)
画面右下:H. seki '86
令和3年度 購入



2304
関根伸夫
昭和17年(1942)-令和元年(2019)
位相 - 大地2

SEKINE Nobuo
Phase - Mother Earth 2
アルシュ紙、シルクスクリーン
79.0cm×59.5cm
(75.0cm×56.0cm)
昭和61年(1986)
画面右下: H. seki '86
令和3年度 購入



2305-2426
鷹野隆大
昭和38年(1963)-
F市.2009.

TAKANO Ryudai
F City. 2009.
ゼラチン・シルバー・プリント 122点
各27.9cm×35.6cmまたは35.6cm×27.9cm
平成21年(2009)
「公開制作46 鷹野隆大 記録
と記憶とあと何か」(府中市美術
館、2009年)にて制作
令和3年度 購入

令和3年度寄贈



2427
ジャック、シャルル=エミール
1813年-1894年
羊小屋

Charles-Emile Jacquu
Sheep and Poultry in a Barn
板、油彩
20.0cm×25.5cm
19世紀後半
画面左下: Ch. Jacquu
令和3年度 村野猛氏寄贈



2428
五姓田芳柳(二世)
元治元年(1864)-昭和18年(1943)
菊と鶏*

GOSEDA Horyu II
Chrysanthemum and Chickens
キャンバス、油彩
36.5cm×28.8cm
明治43年(1910)
画面右下: GOSEDA
令和3年度 寄贈



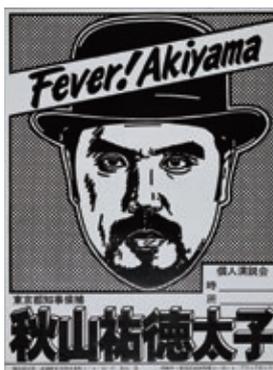
2429
宮本十久一
明治34年(1901)-昭和57年(1982)
三味線の女

MIYAMOTO Tokuchi
Woman with a Shamisen
紙本着色
83.6cm×62.9cm
大正8年(1919)頃
画面右下: 十久一(朱文方印)
令和3年度 西原明子氏寄贈



2430
秋山祐徳太子
昭和10年(1935)-令和2年(2020)
東京都知事立候補ポスター
「TOKYOラブソング」

AKIYAMA Yutokutaishi
Poster for Tokyo Gubernatorial
Election
紙、印刷
36.1cm×25.7cm
昭和50年(1975)
令和3年度 ギャラリー 58寄贈



2431
秋山祐徳太子
昭和10年(1935)-令和2年(2020)
東京都知事立候補ポスター
「Fever! Akiyama」

AKIYAMA Yutokutaishi
Poster for Tokyo Gubernatorial
Election
紙、印刷
40.0cm×30.0cm
昭和54年(1979)
令和3年度 ギャラリー 58寄贈



2432
秋山祐徳太子
昭和10年(1935)-令和2年(2020)
東京都知事選ポスター
「都市を芸術する!都市の
肥満を撃つ!」

AKIYAMA Yutokutaishi
Poster for Tokyo Gubernatorial
Election
紙、印刷
42.0cm×39.2cm
昭和54年(1979)
令和3年度 ギャラリー 58寄贈



2433
秋山祐徳太子
昭和10年(1935)-令和2年(2020)
選挙運動用通常葉書

AKIYAMA Yutokutaishi
Postcard for Tokyo
Gubernatorial Election
はかき、印刷
14.8cm×10.0cm
昭和50年(1975)
令和3年度 ギャラリー 58 寄贈



2434
松浦寿夫
昭和29年(1954)-
夏時間

MATSUURA Hisao
Summer Time
綿布、アクリル
181.8cm×227.3cm
平成18年(2006)-令和2年(2020)
令和3年度 松浦寿夫氏寄贈



2435
松浦寿夫
昭和29年(1954)-
中庭の微風

MATSUURA Hisao
Breeze in a Courtyard
綿布、アクリル
181.8cm×227.3cm
令和2年(2020)
令和3年度 松浦寿夫氏寄贈



2436-2475
鷹野隆大
昭和38年(1963)-
F市.2009.

TAKANO Ryudai
F City. 2009.
ゼラチン・シルバー・プリント 40点
各27.9cm×35.6cmまたは35.6cm×27.9cm
平成21年(2009)
「公開制作46 鷹野隆大 記録
と記憶とあと何か」(府中市美術
館、2009年)にて制作
令和3年度 鷹野隆大氏寄贈

令和2年度

1. 東京近郊のんびり散歩
[令和2年6月2日-7月5日]
2. ひらいてみよう 美術の扉
[令和2年7月18日-9月6日]
3. 日本の美術を貫く 炎の筆「線」
[令和2年9月19日-11月23日]
4. 開館20周年記念 メイド・イン・フチュウ 公開制作の20年
[令和2年12月5日-令和3年2月28日]
5. 与謝蕪村「ぎこちない」を芸術にした画家
[令和3年3月13日-5月9日]

令和3年度

6. 映えるNIPPON 江戸～昭和 名所を描く
[令和3年5月22日-7月11日]
7. いっしょに遊ぼう! ばれたんとむら田
[令和3年7月24日-9月5日]
8. 開館20周年記念 動物の絵 日本とヨーロッパ ふしぎ・かわいい・へそまがり
[令和3年9月18日-11月28日]
9. 池内晶子 あるいは、地のちからをあつめて
[令和3年12月18日-令和4年2月27日]
10. ふつうの系譜 「奇想」があるなら「ふつう」もあります-京の絵画と敦賀コレクション
[令和4年3月12日-5月8日]

1. 東京近郊のんびり散歩

[令和2年6月2日-7月5日]

*新型コロナウイルス感染症の流行拡大による第1回緊急事態宣言の発出のため4月4日、4月5日、4月8日から6月1日まで臨時休館とした。令和2年5月23日から7月5日まで開催予定であった開館20周年記念「ここは武蔵野 描かれた『むさしの』、400年をめぐる旅」展は、展覧会準備を十分に行えない状況であったため開催を中止し、本展覧会を拡大常設展として開催した。

開催主旨：

本展覧会の開催時、緊急事態宣言が解除されたとはいえ、いまだ移動が制限されるなど、それまでの日常生活を取り戻すことが難しい状況にあった。それでも来館者に美術館でのひとときをのんびりと楽しんでもらえるよう、明治時代から現代までの東京とその近郊を描いた作品によって、東京近郊の散策を展示室で疑似体験できる内容とした。明治期の小林清親や井上安治の名所浮世絵や、不同舎による武蔵野スケッチ、大正から昭和初期にかけてモダンな都市文化を描く作品、多摩地域の画家の作品等で構成し、最後のコーナーでは平成21年（2009）に府中市美術館での公開制作で撮影された鷹野隆大による府中市内のスナップ写真を展示した。来館

者からは館の再開を歓迎する声が聞かれ、美術館が活動を継続することの意義が再確認される機会となった。

観覧料：

一般200円（150円）、高校生・大学生100円（80円）、小学生・中学生50円（30円）*（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

82点

入場者数：

1,410名（開催日数：30日、1日平均47名）

印刷物：

[ポスター] B2判

関連記事：

「懐かしい東京の風景巡る」読売新聞 2020年6月27日

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	小林清親	武蔵百景之内 目くろいゑんひう蔵	明治17年(1884)	紙本木版	記載がないものは すべて府中市美術館蔵
2	小林清親	武蔵百景之内 王子稲荷社	明治17年(1884)	紙本木版	
3	小林清親	武蔵百景之内 隅田川水神森	明治17年(1884)	紙本木版	
4	小林清親	武蔵百景之内 鴻ノ台市川乃遠景	明治17年(1884)	紙本木版	
5	小林清親	武蔵百景之内 池上本門寺	明治17年(1884)	紙本木版	
6	小林清親	武蔵百景之内 道灌山	明治17年(1884)	紙本木版	
7	小林清親	赤坂紀伊国坂	明治13年(1880)	紙本木版	
8	小林清親	九段馬かけ	明治13年(1880)	紙本木版	
9	小林清親	浅草寺年乃市	明治14年(1881)	紙本木版	
10	小林清親	お茶の水螢	明治13年(1880)	紙本木版	
11	小林清親	明治十四年一月廿六日出火 浜町より写兩國大火	明治14年(1881)	紙本木版	
12	小林清親	川口鍋釜製造図	明治12年(1879)	紙本木版	
13	井上安治	東京名所図	明治14-20年(1881-87)	紙本木版	
14	小山正太郎	猿橋	明治期	紙、鉛筆	
15	鹿子木孟郎	根津権現	明治27年(1894)	紙、水彩	
16	鹿子木孟郎	駒込動坂上り口	明治25年(1892)	紙、鉛筆	
17	鹿子木孟郎	北豊島郡田畑谷田橋	明治25年(1892)	紙、鉛筆	
18	鹿子木孟郎	赤羽風景	明治27年(1894)	紙、木炭、淡彩	
19	鹿子木孟郎	十条村民家台所	明治26年(1893)	紙、鉛筆	
20	鹿子木孟郎	南豊島郡渋谷村	明治26年(1893)	紙、鉛筆	
21	鹿子木孟郎	北多摩郡小川村	明治26年(1893)	紙、鉛筆	
22	鹿子木孟郎	吉祥寺村	明治26年(1893)	紙、鉛筆	
23	鹿子木孟郎	北多摩郡府中駅	明治26年(1893)	紙、鉛筆	
24	鹿子木孟郎	府中 鶏争穀	明治26年(1893)	紙、鉛筆	
25	吉田博	是政	明治29年(1896)	紙、鉛筆	
26	吉田博	中神	明治27年(1894)	紙、鉛筆	
27	鹿子木孟郎	二子渡頭	明治28年(1895)	紙、鉛筆	
28	鹿子木孟郎	武蔵南多摩郡図師	明治28年(1895)	紙、鉛筆	

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
29	満谷国四郎	馬のいる渡船場	明治-大正期	紙、鉛筆、淡彩	
30	鹿子木孟郎	水車小屋	明治期	紙、鉛筆、水彩	
31	吉田博	御岳、奥の院	明治期	紙、鉛筆、淡彩	
32	吉田博	石橋	明治期	紙、鉛筆、淡彩	
33	吉田ふじを	河原と橋	明治35年(1902)	紙、鉛筆、淡彩	
34	沼辺強太郎	茶店のある道	明治期	紙、水彩	
35	チャールズ・ワーグマン	街道風景	明治9年(1876)か	キャンバス、油彩	
36	五姓田義松	旧東海道馬入茅ヶ崎間左富士山	明治期	キャンバス、油彩	
37	高橋由一	墨水桜花輝耀の景	明治7年(1874)	キャンバス、油彩	
38	五百城文哉	小金井の桜	明治期	キャンバス、油彩	
39	佐久間文吾	長房村風景	明治22年(1889)	キャンバス、油彩	
40	沼辺強太郎	宿場風景	明治期	キャンバス、油彩	
41	渡辺文三郎	富士遠望	明治期	キャンバス、油彩	
42	アルフレッド・イースト	富士山	明治期	キャンバス、油彩	
43	五姓田義松	修善寺風景	明治期	紙、水彩	
44	丸山晚霞	川のある風景	明治-大正期	紙、水彩	
45	吉田博	雨上がり <small>の</small> 少年のいる風景	明治36年(1903)	紙、水彩	
46	吉田博	府中	明治期	紙、水彩	
47	中川八郎	風景(東京)	明治-大正期	紙、水彩	
48	三宅克己	多摩川	明治41年(1908)	紙、水彩	
49	大下藤次郎	青梅附近	明治38年(1905)	紙、水彩	
50	水木伸一	上野の森	大正4年(1915)	キャンバス、油彩	
51	牧野虎雄	向日葵の園	昭和4年(1929)	キャンバス、油彩	
52	河野通勢	田端	大正4年(1915)	紙、インク、コンテ	
53	村山槐多	代々木風景	大正7年(1918)	紙、コンテ	
54	長谷川利行	カフェの入口	昭和5年(1930)	キャンバス、油彩	
55	長谷川利行	モナミの少女	昭和12年(1937)	キャンバス、油彩	府中市美術館寄託
56	吉井忠	少女(都市)	昭和16年(1941)	キャンバス、油彩	
57	松本竣介	ビルの横	昭和11年(1936)	板、油彩	
58	松本竣介	建物	昭和20年(1945)	紙、インク	
59	藤野龍	競馬	昭和14年(1939)	キャンバス、油彩	
60	中西利雄	府中競馬場	昭和9年(1934)	キャンバス、水彩	
61	織田一磨	新宿ステーション	昭和5年(1930)	紙、石版	
62	太田三郎	カフェーの女	大正3年(1914)	紙、木版	
63	恩地孝四郎	「新東京百景」ダンス場景	昭和5年(1930)	紙、木版	
64	前川千帆	「新東京百景」明治座	昭和5年(1930)	紙、木版	
65	稲垣知雄	博物館前	昭和3年(1928)	紙、木版	
66	谷中安規	祭(九段坂)	昭和8年(1933)	紙、木版	
67	倉田三郎	梅雨期之郊外風景	大正12年(1923)	板、油彩	
68	児島善三郎	水温む	昭和22年(1947)	キャンバス、油彩	
69	河野通勢	画房裏風景	昭和18年(1943)	キャンバス、油彩	
70	木村荘八	窓外風景	昭和27年(1952)	板、油彩	
71	正宗得三郎	庭前小景	大正8年(1919)	キャンバス、油彩	
72	正宗得三郎	鎮守の森	昭和29年(1954)	キャンバス、油彩	
73	松村健三郎	紫陽花	昭和56年(1981)	キャンバス、油彩	
74	藤野龍	武蔵野	昭和23年(1948)	キャンバス、油彩	
75	戸嶋靖昌	林(調布市虎狛神社)	昭和47年(1972)	キャンバス、油彩	
76	保多棟人	平久保の権	昭和56年(1981)	キャンバス、油彩	
77	増永直樹	六月の花園	昭和期	紙、水彩	
78	藪野健	府中 多摩川かぜのみち	平成16年(2004)	紙、水彩、インク、パステル	
79	関野準一郎	多摩川富士	昭和61年(1986)	紙、木版	
80	竹田源太郎	深大寺門前茶屋	昭和37年(1962)	紙、木版	
81	棟方末華	分倍河原古戦場の碑	昭和期	紙、木版	
82	鷹野隆大	F市.2009.	平成21年(2009)	ゼラチンシルバー・プリント	個人蔵/府中市美術館

2. ひらいてみよう 美術の扉

[令和2年7月18日-9月6日]

開催主旨：

「作品を見る」ということへ漠然とした距離感を感じている方々を対象に、作品と自分とを隔てる扉を開くように、作品鑑賞を楽しむとはどんなことなのかを体感していただくことを目的として企画した。展示は順を追って鑑賞の深度が深まるように「見る」、「感じる」、「想像する」の三つのパートで構成した。また、言語による解説ではなく、鑑賞者自身が体を動かす、感じることを通じて鑑賞体験を深めることを目指した。

展示会冒頭には、屏風の作品を畳敷きのスペースで鑑賞する特設コーナーを設け、作品、そして作品鑑賞の世界へと誘導した。

最初の「見る」では、大型作品を見る立ち位置を変えて見えてくるものを探す、作品をレイヤーごとに分解して実作品と比較する、作品にくっついて見ることによって作品の細部までじっくり鑑賞するという3つのコーナーを設置し、様々な作品の見方を体験する場を提供した。

次の「感じる」では、音や香りを感じながら作品を鑑賞する場を提供し、視覚以外の感覚をも刺激しながら作品を見ることで、作品の世界を膨らませる体験を提供した。

最後の「想像する」では、五感への直接の体験提供からさらに一歩進んで、作品を自分なりに構成するコーナーや作品の中の登場人物の台詞や作品タイトルを想像するコーナーを設け、様々な角度から作品の背後に広がる世界を想像してもらうことを目指した。

展示会鑑賞に際しては鑑賞ガイドとなるワークブックを作成、来館者に配布した。また、三つ目の「想像する」のパートでは、作品の世界を想像する絵日記風のものや、作品の登場人物が話している内容を想像する吹き出しをつけたものなどワークシートを作成し、会場で来館者に記入、その場で共有できるように掲出も行った。記入されたワークシートには、企画者の想定を上回る様々な想像が寄せられた。

観覧料：

一般400円(320円)、高校生・大学生200円(160円)、小学生・中学生70円(50円)* ()内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

34点

入場者数：

5,215名(開催日数:44日、1日平均119名)

印刷物：

[ワークブック] A5判16頁 [ポスター] B2判 [チラシ] A4判

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
■ 見る					
1	堂本印象	浜の幸		紙本着色	四曲一隻
2	遠藤彰子	光景	昭和61(1986)年	キャンバス、油彩	
3	藪野健	よみがえる日	平成10(1998)年	キャンバス、油彩	
4	小林清親	武蔵百景之内 池上本門寺	明治17(1884)年	紙本木版	
5	笹島喜平	中河原の富士	昭和53(1978)年	紙、木版拓刷	
6	川上澄生	横浜山手之図	大正12(1923)年	紙、木版	
7	関野準一郎	赤い風車 新宿	昭和26(1951)年	紙、銅版	
8	河内良介	部屋	平成12(2000)年	紙、鉛筆	
9	五姓田義松	修善寺風景		紙、水彩	
10	高橋由一	墨水桜花輝耀の景	明治7(1874)年	キャンバス、油彩	
11	長谷川繁	(タイトルなし)	平成16(2004)年	キャンバス、油彩	
12	浅野竹二	街角	昭和46(1971)年	紙、木版	
■ 感じる					
13	富田有紀子	719	平成17(2005)年	キャンバス、油彩	
14	富田有紀子	505	平成15(2003)年	キャンバス、油彩	
15	富田有紀子	507	平成15(2003)年	キャンバス、油彩	

記載がないものは
すべて府中市美術館蔵

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
16	富田有紀子	512	平成15(2003)年	キャンバス、油彩	
17	富田有紀子	723	平成17(2005)年	キャンバス、油彩	
18	川村悦子	黄いろい花	平成29(2017)年	キャンバス、油彩	
19	牧野虎雄	向日葵の園	昭和4(1929)年	キャンバス、油彩	
20	大久保作次郎	新緑の谷間		キャンバス、油彩	
21	神谷徹	morrow	平成18(2006)年	キャンバス、油彩	
22	倉田三郎	庭隅	昭和25(1950)年	キャンバス、油彩	
23	正宗得三郎	鎮守の森	昭和29(1954)年	キャンバス、油彩	
24	牛島憲之	残夏	昭和21(1946)年	キャンバス、油彩	府中市美術館寄託
■ 想像する					
25	阿部展也	R・13	昭和45(1970)年	キャンバス、アクリル	
26	浅野竹二	1993/9/28-1	平成5(1993)年	キャンバス、油彩	
27	北岡文雄	卓上静物(A)	昭和24(1949)年	紙、木版	
28	山田正亮	Work D.277	昭和52-53(1977-78)年	キャンバス、油彩	
29	郭仁植	WORK II	昭和62(1987)年	紙、銅版 6点組	
30	靛島信彦	Night	平成14(2002)年	キャンバス、アクリル	
31	前田政雄	小笠原母島	昭和14(1939)年	紙、木版	
32	浅野竹二	猫と鳥	昭和52(1977)年	紙、木版	
33	清水登之	チャイルド洋食店	大正13(1924)年	キャンバス、油彩	
34	川口起美雄	build a canal	平成29(2017)年	板、アクリル	

3. 日本の美術を貫く 炎の筆「線」

[令和2年9月19日-11月23日]

※新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、令和2年9月19日から11月23日まで開催予定であった開館20周年記念「動物の絵 日本とヨーロッパ ふしぎ・かわいい・へそまがり」展は、展覧会準備を十分に行えない状況であったため開催を中止し、本展覧会を開催した。

開催主旨：

美術作品は、すべて一本の「線」から生まれる。一本の線は、長短、太い細い、濃い淡い、色、強弱、スピード感などによって無限の表情を持ち、まるで一つの生き物のようだ。そして始まりと終わりがあることで、我々の人生のようですらある。古くは縄文土器の火焰模様躍動感あふれる線が現れており、生き生きとした「線」は、現代ますます多彩さを増しておりまさに日本の美術を貫いている。

書も絵も書画同源とされるように、優れた線は書にも当然現れる。水墨画もかすれやぼかしの筆の表情がなければ成り立たない。また全く気を抜いたように描かれる文人画も実は洒落な筆線の味わいのひとつだ。さらに明治時代に鉛筆が輸入されると小山正太郎や鹿子木孟郎らは「一本の線」を大切にしよう画塾の生徒たちに指導し、「道路山水」が生まれた。

絵画ばかりではなく、飯塚琅玕齋らの竹細工には、自然と技術を一体化

させている。全身を使ってダイナミックに描く白髪一雄、世界に誇る漫画家たちの描線、ボールペンによる線など「線」の多彩さは枚挙にいとまがない。絵の中の一本の「線」に注目し、その入りから終わりまでの勢いに我々の心眼をなぞらせれば、画家たちの気迫、息遣い、画家の個性が直感できる。様々な表情の線を様々な分野から162点を紹介した。

観覧料：

一般500円（400円）、高校生・大学生250円（200円）、小学生・中学生100円（80円）*（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

162点

入場者数：

6,295名（開催日数：57日、1日平均110名）

印刷物：

[カタログ] B5判変形252頁 [ポスター] B2判 [チラシ] A4判

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1		漁網	不詳	麻糸	児嶋画廊
2		火焰型土器(野首遺跡)	縄文時代中期後半	土器	十日町市博物館
3		縄文土器	縄文時代中期前半	土器	茅野市尖石縄文考古館
4		縄文土器(和田遺跡)	縄文時代中期	土器	茅野市尖石縄文考古館
5		縄文土器(聖石遺跡)	縄文時代中期後半	土器	茅野市尖石縄文考古館
6		縄文土器「深鉢」	縄文時代中期	土器	府中市郷土の森博物館
7		縄文土器「浅鉢」	縄文時代中期	土器	府中市教育委員会
8		縄文土器「鉢」	縄文時代中期	土器	府中市教育委員会
9		大刀の「銀象嵌鏝」 【府中市指定文化財】	古墳時代(6世紀末頃)	銀、鉄	府中市郷土の森博物館
10		大刀の「銀象嵌鞘尻金具」 【府中市指定文化財】	古墳時代(7世紀半ば頃)	銀、鉄	府中市教育委員会
11		高安寺出土唐草文「軒平瓦」	不詳	瓦	府中市教育委員会
12		緑釉陶器「椀」	不詳	陶器	府中市教育委員会
13		初期伊万里染付花蝶図皿	江戸前期	陶器	府中市郷土の森博物館 (後藤恒雄コレクション)
14		肥前磁器・瓶「中屋」の食器	江戸時代	陶器	府中市教育委員会
15		しめ縄(サイノカミ付属)	現代	藁	府中市郷土の森博物館
16	「綴プロジェクト」による高精密複製品	原本:「雪村周継筆《龍虎図》 クリーブランド美術館蔵」	1500年頃	墨、紙	早雲寺(箱根)
17	丸山晚霞	溪谷と山嶺之麗花	1930(昭和5)年	水彩、紙	東御市丸山晚霞記念館
18	不詳	大津絵		墨、彩色、紙	児嶋画廊
19	谷文晁	画学斎図藁	1830(文政12)年頃	墨、紙	個人蔵
20	白隠慧鶴	猿猴捉月図	不詳	墨、紙	早稲田大学會津八一記念博物館
21	仙厓義梵	達磨図	1834(天保5)年	墨、紙	早稲田大学會津八一記念博物館
22	東嶺圓慈	半身達磨	不詳	墨、紙	早稲田大学會津八一記念博物館
23	仙厓義梵	富士見人物図	不詳	墨、紙	早稲田大学會津八一記念博物館
24	仙厓義梵	四王寺覽古(虚白院遠望)	1837年	墨、紙	児嶋画廊
25	仙厓義梵	布袋図	1750年頃	墨、紙	早稲田大学會津八一記念博物館
26	仙厓義梵	収穫図	不詳	墨、紙	早稲田大学會津八一記念博物館
27	中原南天棒	円相	1902(明治35)年	墨、紙	執行草舟コレクション

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
28	中原南天棒	棒図	1918(大正7)年	墨、紙	執行草舟コレクション
29	中原南天棒	行き帰り図	1924(大正13)年	墨、紙	執行草舟コレクション
30	中原南天棒	行き帰り図	1924(大正13)年	墨、紙	執行草舟コレクション
31	中原南天棒	達磨	1920(大正9)年	墨、紙	執行草舟コレクション
32	中原南天棒	廓然無聖	1917(大正6)年	墨、紙	執行草舟コレクション
33	中原南天棒	たぬき	1910(明治43)年	墨、紙	執行草舟コレクション
34	中原南天棒	狐	1905(明治38)年頃	墨、紙	執行草舟コレクション
35	中原南天棒	瓢箪	1924(大正13)年	墨、紙	執行草舟コレクション
36	中原南天棒	雪達磨	1922(大正11)年	墨、紙	執行草舟コレクション
37	洪川宗温	達磨	1849(嘉永2)年	墨、紙	早稲田大学會津八一記念博物館
38	惟精宗馨	断臂図	1922(大正11)年	墨、紙	早稲田大学會津八一記念博物館
39	司馬江漢	生花図	江戸時代後期	日本画、絹本	府中市美術館
40	横山大観	清涼	1940(昭和15)年	墨画、絹本	早稲田大学會津八一記念博物館
41	安田靱彦	不動明王(下絵)	1943(昭和18)年頃	墨、紙	執行草舟コレクション
42	安田靱彦	箕をもつ宮人	1965(昭和40)年	着彩、紙	執行草舟コレクション
43	安田靱彦	伎楽面	1969(昭和44)年頃	着彩、紙	執行草舟コレクション
44	安田靱彦	益良男	1941(昭和16)年頃	着彩、絹本	執行草舟コレクション
45	安田靱彦	日本武尊	1943(昭和18)年頃	着彩、紙	執行草舟コレクション
46	土田麦僊	牽牛花	1929(昭和4)年頃	日本画、絹本	新潟県立近代美術館
47	安田靱彦	佐久良比東	1939(昭和14)年	日本画、絹本	新潟県立近代美術館
48	大和守金藏	銘「烏丸」【府中市指定文化財】	1661(寛文元)年	太刀	大國魂神社
49	飯塚琅玕齋	花籃	不詳	竹	灯屋
50	飯塚琅玕齋	花籃 銘「亭々」	不詳	竹、籐	灯屋
51	飯塚琅玕齋	花籃	1947(昭和22)年	竹	灯屋
52	飯塚琅玕齋	花籃 銘「メ」	不詳	竹、束編み	灯屋
53	飯塚琅玕齋	花籃	不詳	竹	灯屋
54		手付花籃	不詳	竹	灯屋
55	山下巧竹齋	竹根手付き花籃	不詳	鳳尾竹	灯屋
56		天然木手付き花籃	不詳	竹	灯屋
57	本間一秋	掛花籠 銘「乃」	不詳	竹	灯屋
58		大掛花(籃)	不詳	籐	灯屋
59	飯塚琅玕齋	玄白居	1940年代	墨、紙	灯屋
60	棟方志功	華嚴譜「風神の柵」	1937(昭和12)年	木版、紙	日本民藝館
61	棟方志功	鐘溪頌「朝菊の柵」	1945(昭和20)年	木版、裏彩色、紙	日本民藝館
62	棟方志功	再誕の喜び	1962(1967年摺)	木版、裏彩色、紙	日本民藝館
63	棟方志功	観音経曼荼羅「阿修羅」	1938(昭和13)年	木版、裏彩色、紙	日本民藝館
64	棟方志功	東北経鬼門譜	1937(昭和12)年	木版、紙	日本民藝館
65	棟方志功	東北経鬼門譜	1937(昭和12)年	木版、紙	日本民藝館
66	棟方志功	東北経鬼門譜	1937(昭和12)年	木版、紙	日本民藝館
67-68	棟方志功	青衣妃、黄衣妃	不詳	墨、彩色、紙	南砺市立福光美術館
69	棟方志功	御施無畏	1970(昭和45)年頃	墨、彩色、紙	個人蔵
70	棟方志功	チャ	1973(昭和48)年	油彩、ボード	石井頼子
71	棟方志功	志功	1973(昭和48)年	油彩、ボード	石井頼子
72	高橋由一	墨水桜花輝耀の景	1874(明治7)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
73	川村清雄	ヴェニス	1906(明治39)年	油彩、板	府中市美術館
74	五姓田義松	パリの風景	1883(明治16)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
75	本多錦吉郎	景色	1898(明治31)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
76	青木繁	少女群舞	1904(明治37)年	油彩、板	府中市美術館
77	青木繁	落葉路	1902(明治35)年	紙、鉛筆、淡彩	東御市梅野記念絵画館
78	鹿子木孟郎	本郷区根津 寺遠望	1893(明治26)年	鉛筆、紙	府中市美術館
79	鹿子木孟郎	府中 鶏争穀	1893(明治26)年	鉛筆、紙	府中市美術館
80	鹿子木孟郎	根津権現	1894(明治27)年	水彩、紙	府中市美術館
81	鹿子木孟郎	横向きの男	1893(明治26)年	木炭、紙	府中市美術館
82	石川寅治	老武者	1895(明治28)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
83	鹿子木孟郎	シヨールをまとう女	1906-07(明治39-40)年頃	油彩、キャンバス	府中市美術館
84	小出檜重	帽子のある静物	1923(大正12)年	油彩、キャンバス	西宮市大谷記念美術館
85	海老原喜之助	スキーヤー	1930(昭和5)年	油彩、キャンバス	個人蔵
86	林武	椅子による裸婦	1935(昭和10)年	油彩、キャンバス	西宮市大谷記念美術館
87	伊藤慶之助	黒衣女性	1937(昭和12)年	油彩、キャンバス	西宮市大谷記念美術館
88	會津八一	日吉館 横看板	1930(昭和5)年	木	早稲田大学會津八一記念博物館
89	會津八一	日吉館 看板題字	1929(昭和4)年	墨、紙	早稲田大学會津八一記念博物館
90	會津八一	観仏三昧	1940(昭和15)年	墨、紙	早稲田大学會津八一記念博物館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
91		棟方志功所蔵の「土偶」	縄文時代中期	土器	石井頼子
92	棟方志功	華厳	1952(昭和27)年	墨、紙	日本民藝館
93	棟方志功	不生	1958(昭和33)年	墨、紙	日本民藝館
94	會津八一	おほてらの	不詳	墨、紙	早稲田大学會津八一記念博物館
95	棟方志功	愛用の筆	不詳	竹、毛	石井頼子
96	熊谷守一	大蛙	1960(昭和35)年	墨、紙	豊島区立熊谷守一美術館
97	熊谷守一	無一物	1975(昭和50)年	墨、紙	個人蔵
98	熊谷守一	唯我独尊	不詳	墨、紙	豊島区立熊谷守一美術館
99	熊谷守一	野菜	不詳	色墨、墨、紙	個人蔵
100	熊谷守一	松林	1925(大正14)年頃	油彩、板	豊島区立熊谷守一美術館
101	熊谷守一	松原湖	1938(昭和13)年	油彩、板	豊島区立熊谷守一美術館
102	村山槐多	スキと人	1914(大正3)年	墨、紙	府中市美術館
103	井上長三郎	サンチョ	不詳	油彩、キャンバス	府中市美術館
104	長谷川利行	白い背景の人物	1937(昭和12)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
105	正宗得三郎	磯馴松(仏浦)	1955(昭和30)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
106	正宗得三郎	撃壤図	1957(昭和32)年	著色絹本	府中市美術館
107	児島善三郎	松図	1938(昭和13)年頃	油彩、キャンバス	個人蔵
108	児島善三郎	松	1938(昭和13)年頃	油彩、キャンバス	個人蔵
109	児島善三郎	瀬戸の松	1937(昭和12)年	墨、紙	児嶋画廊
110	児島善三郎	溪流	1938(昭和13)年	墨、彩色、紙	児嶋画廊
111	梅原龍三郎	台湾風景	1933(昭和8)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
112	菅野圭介	蔵王雪山	1955(昭和30)年頃	油彩、キャンバス	東御市梅野記念絵画館
113	木田金次郎	積丹半島の荒磯「茶津海岸」	1961(昭和36)年頃	油彩、キャンバス	個人蔵
114	山口長男	無題:人物三人	不詳	墨彩	執行草舟コレクション
115	山口長男	無題:線	不詳	墨、紙	執行草舟コレクション
116	山口長男	宙	1980(昭和55)年	油彩、ボード	府中市美術館
117	麻生三郎	立てる人	1976(昭和51)年	鉛筆、紙	府中市美術館
118	麻生三郎	赤い壁と人	1962(昭和37)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
119	戸嶋靖昌	林(調布市虎狛神社)	1972(昭和47)年	油彩、キャンバス	府中市美術館(地域美術寄贈)
120	保多棟人	平久保の椎	1981(昭和56)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
121	高森明	鳥(B)	1972(昭和47)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
122	飯島一次	堂塔	1965(昭和40)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
123	江田豊	女たち	1964(昭和39)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
124	岡本太郎	黒い生き物	1961(昭和36)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
125	小山田二郎	鳥女	1960(昭和35)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
126	小山田二郎	娘	不詳	油彩、キャンバス	府中市美術館
127	小山田二郎	手	1955-60(昭和30-35)年頃	油彩、合板	府中市美術館
128	李禹煥	線より	1980(昭和55)年	油彩、岩絵具、キャンバス	世田谷美術館
129	吉原治良	黒地に赤い円	1965(昭和40)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
130	鴨居玲	裸婦	1978(昭和53)年頃	水彩、鉛筆、パステル、紙	東京オペラシティアートギャラリー
131	長谷川潔	裸婦(春):水浴の女	1973(昭和48)年	ドライポイント(ダイヤモンド刻)、紙	東京オペラシティアートギャラリー
132	近藤竜男	無題	1970(昭和45)年	油彩、キャンバス	M&T KONDO美術財団
133	近藤竜男	デッサン	1970(昭和45)年	油彩、キャンバス	M&T KONDO美術財団
134	近藤竜男	67.41. J	1967(昭和42)年	油彩、キャンバス	M&T KONDO美術財団
135	近藤竜男	Three Diagonal Stripes Green-80.10	1980(昭和55)年	油彩、キャンバス	M&T KONDO美術財団
136	津高和一	転移	1961(昭和36)年	油彩、キャンバス	西宮市大谷記念美術館
137	白髪一雄	長義	1961(昭和36)年	油彩、キャンバス	東京オペラシティアートギャラリー
138	白髪一雄	作品	1963(昭和38)年	油彩、キャンバス	西宮市大谷記念美術館
139	白髪一雄	貫流	1973(昭和48)年	油彩、キャンバス	東京オペラシティアートギャラリー
140	白髪一雄	遊墨 壱	1989(平成元)年	油彩、キャンバス	東京オペラシティアートギャラリー
141	谷岡ヤスジ	ポスター	1980(昭和55)年頃	オフセット、紙	個人蔵
142	岡本一平	新水也空 銅幸四郎	1929(昭和4)年	墨、紙	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
143	岡本一平	新水也空 大盃三郎長兵衛	1929(昭和4)年	墨、紙	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
144	浅野竹二	唄う女	1968(昭和43)年	木版、紙	府中市美術館
145	稲垣知雄	バナナ	1952(昭和27)年	木版、紙	府中市美術館
146	稲垣知雄	尾長猫	1958(昭和33)年	木版、紙	個人蔵
147	稲垣知雄	赤羽練兵場2	1926(昭和元)年	木版、紙	府中市美術館
148	谷岡ヤスジ	「のんびり物語」恐竜の話	1980(昭和55)年頃	墨、紙	個人蔵
149	谷岡ヤスジ	「のんびり物語」カニの話	1980(昭和55)年頃	墨、紙	個人蔵
150	谷岡ヤスジ	「ド忠犬ハジ公」第8話	1980(昭和55)年頃	墨、紙	個人蔵
151	O Jun	拳兵図『彼女の軍隊-小児の夢の仔』より	2010(平成22)年	鉛筆、紙、ガラス、鉄	国立国際美術館
152	丸田恭子	マイナスの質量	1995(平成7)年	油彩、キャンバス	個人蔵

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
153	鷺見和紀郎	重力の為のパヴァーヌ	1992(平成4)年	鑄造ブロンズ	府中市美術館
154	桃田ちひろ	死に死に死に死んで死の終りに冥し	2020(令和2)年	ボールペン、紙	個人蔵
155	桃田ちひろ	生まれ生まれ生まれ生まれて生の始めに暗く	2020(令和2)年	ボールペン、紙	個人蔵
156		「鏡獅子」後シテ獅子の精の鬘	不詳	毛(ヤク)・絹・綿・留金	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
157	片岡仁左衛門(13世)、 松本幸四郎(8世)、 尾上松緑(2世)、 尾上梅幸(7世)	「菅原伝授手習鑑」(車引)押隈	1975(昭和50)年11月	化粧、紙	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
158	小倉宗衛	能面 般若	平成時代	彩色、木	大國魂神社
159	小倉宗衛	能面 大国	平成時代	彩色、木	大國魂神社
160	小倉宗衛	能面 悪尉戀見	平成時代	彩色、木	大國魂神社
161	木下晋	正眼	2009(平成21)年	鉛筆、紙	府中市美術館
162	O Jun	「花・TV・コップ」より星飛雄馬の図	1998(平成10)年	ガッシュ、紙	国立国際美術館

4. 開館20周年記念 メイド・イン・フチュウ 公開制作の20年

[令和2年12月5日-令和3年2月28日]

開催主旨:

府中市美術館の公開制作プログラムは、全国的にみてもユニークな取り組みで、館内常設の制作室に美術家を通い、作品を作るプロセスを公開している。ここでは市民とのさまざまな交流が、そして数多くの作品が、生まれてきた。

開館20年の節目に開催する本展覧会は、当プログラムの活動成果の総括を目的として、府中市美術館で制作され誕生した作品を紹介した。それらは、既に当館に収蔵されたり、作家や現在の所蔵者から借用したり、また再制作・再構成を依頼したりして、集められた。絵画、彫刻、インスタレーション、写真、メディアアートほか、幅広いジャンルにわたり、21世紀頭の20年の美術表現の写しとなった。プログラムを振り返りながら、私たちの時代の美術の特質に触れる機会となった。

あわせて、制作の過程を記録した映像や写真を展示した。また会期中には、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、出品作家によるトークや公開制作を行った。作品を軸に、つくる人と見る人がさまざまな交流し、その動く時間のなかに展覧会を体験してもらうことで、公開制作プログラムのエッセンスを伝えることを試みたものであった。

カタログには、80回の公開制作の全記録と論考等を取めた。また会場写真等を掲載した記録集も刊行した。

観覧料:

一般700円(560円)、高校生・大学生350円(280円)、小学生・中学生150円(120円)* ()内は20名以上の団体料金

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
I ハイライト 「メイド・イン・フチュウ」の作品たち (展示ロビー、企画展示室3)					
1	児玉幸子	脈動一溶ける視覚	2020	ミクストメディア(LED、木、マイコン)	作家蔵
2	三沢厚彦、O JUN、 衣川明子、伊藤誠、 小林孝亘、狩野哲郎	府中の森のアニマルルーム	2020	油彩、樟 / 油彩、キャンバス ほか	作家蔵
3	篠原有司男	ボクシングペインティング	2001	墨、キャンバス	府中市美術館
4	横尾忠則	夜の足音	2011	油彩、布	作家蔵
5	横尾忠則	圧縮された風景	2011	油彩、布	作家蔵
6	横尾忠則	バルビゾンへ	2011	油彩、布	作家蔵
7	サンドラ・ラモス	水槽	1997	アクリル、キャンバス	古澤久美子
8	サンドラ・ラモス	島の歴史	1997	アクリル、ビーズ、トランクケースほか	府中市美術館
9	サンドラ・ラモス	無意識への扉	2001	鏡、貝、銀紙、版画	サンドラ・ラモス氏寄贈 古澤久美子
10	金田実生	道、または夜道	2018	木炭、紙	個人蔵
11	金田実生	今はまだその時ではない-5月11日	2018	水彩、紙	作家蔵
12	金田実生	結び目をほどく	2018	油彩、紙	作家蔵
13	金田実生	泥と水	2018	油彩、水溶性クレヨン、オイルパステル、紙	作家蔵
14	金田実生	真昼のリズム	2018	油彩、紙	作家蔵
15	金田実生	(ドローイング)	2018	水彩、紙ほか	作家蔵
16	大小島真木	万物の眠り、大地の血管	2018-2020	ラッカー、アクリル、油性色鉛筆、石、珊瑚、貝、 陶、板、紙、布、板	作家蔵
II 公開制作アーカイブ (企画展示室2)					
17	開発好明	ドラゴンヘッド(赤ドラゴン)、関連資料	2008-	ダンボールほか	作家蔵
18		公開制作記録写真、動画	2000-2020		

III 公開制作の20年 現代の表現とむきあって

III-I どのように伝えるのか?—多様なメディアによる、21世紀の美術家たちの表現 (企画展示室2、3)

主催:

府中市美術館

出品点数:

70点

入場者数:

3,606名(開催日数:66日、1日平均55名)

印刷物:

[カタログ] A4判変型272頁 [記録集] A4判変型32頁

[ポスター] B2判 [チラシ] A4判(4種)

関連イベント:

[公開制作] 大小島真木(美術家)、12月5日、6日、企画展示室(221名)

[アーティストトーク] 高嶋英男(美術家)、12月6日、市民ギャラリー(22名)

[対談]

前沢知子(美術家)・開発好明(美術家)、12月20日、企画展示室(25名)

大小島真木(美術家)・丸山晶崇(デザイナー)、1月30日、企画展示室(22名)

袴田京太郎(彫刻家)・利部志穂(彫刻家)、2月7日、企画展示室(35名)

関連記事:

「大小島真木 公開制作は進化する『メイド・イン・府中 公開制作の20年』展より」『芸術新潮』2021年2月号

白坂由里「『つくる』ことに向きあう場を美術館のなかに」artscape 2021年2月15日(https://artscape.jp/focus/10167034_1635.html)

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
19	富永敦也	Love Stone Project - Fuchu	2018	石	個人蔵
20	斎藤ちさと	気泡研究(風景バージョン)	2005	DVD、プロジェクション	府中市美術館
21	開発好明	ファニーチャー関連資料	2012	紙、ほか	作家蔵
22	開発好明	ファニーチャー	2020	家具、段ボール、展示台、ワゴン、電灯ほか	作家蔵
23	池田光宏	Blue Moment/メイド・イン・フチュウ。V	2014-2020	アクリル、紙、プロジェクション	作家蔵
24	バンドウジロウ	基本的人権	2020	シルクスクリーン、Tシャツ	作家蔵
25	バンドウジロウ	日本国憲法第97条	2015	アクリル、布、紐	作家蔵
26	西館朋央	残響	2015	塗料、木	作家蔵
27	鷹野隆大	F.市 2009	2009	ゼラチン・シルバープリント	府中市美術館
28	前沢知子	私の作品を聞かせてください	2002	プロジェクター、音声再生機器、色紙、鉛筆ほか	作家蔵
29	富士朋子	入れない場所—作業中	2014	色紙	作家蔵
30	富士朋子	入れない場所—千円札〔表〕	2015	色紙	作家蔵
31	富士朋子	入れない場所—千円札〔裏〕	2015	色紙	作家蔵
32	富士朋子	入れない場所—府中の森公園	2015	色紙	作家蔵
33	富士朋子	入れない場所—調布飛行場	2015	色紙	作家蔵
III-II 「彫刻」へのアプローチ (企画展示室3)					
34	鷺見和紀郎	《ペインティング・スカルプチャー》のための模型	2004	木、紙ほか	作家蔵
35	鷺見和紀郎	《ペインティング・スカルプチャー》のための模型	2020	木、紙ほか	作家蔵
36	高嶋英男	からっぽに満たされる	2020	陶、釉薬、箔	作家蔵
37	黒川弘毅	eros No.35	2003	ブロンズ	府中市美術館
38	黒川弘毅	eros No.36	2003	ブロンズ	府中市美術館
39	黒川弘毅	eros No.37	2003	ブロンズ	府中市美術館
40	黒川弘毅	eros No.38	2003	ブロンズ	府中市美術館
41	袴田京太郎	《ハルガ》のためのドローイング	2008	水彩、紙	作家蔵
42	袴田京太郎	《ハルガ》関連資料	2008	発砲スチロール、樹脂ほか	作家蔵
43	利部志穂	レクイエム ひかりの時、新たな野生の地	2010-2020	廃材	作家蔵
44	高山陽介	無題(頭部41)	2015-2016	樟、アクリル塗料、新聞紙、空き缶、パーチクルボード、油性塗料	作家蔵
45	高山陽介	彫刻で熱中している自分 17	2016	木版画(新聞紙、水溶性インク)、額	作家蔵
46	高山陽介	彫刻で熱中している自分 18	2016	木版画(新聞紙、水溶性インク)、額	作家蔵
III-III 「絵画」への情熱 (企画展示室3、常設展示室*岩本拓郎、O JUN作品)					
47	中ザワヒデキ	脳波ドローイング#6,8,13,14	2006	インク、紙	府中市美術館 鍛冶充浩氏寄贈
48	松浦寿夫	夏時間	2006-2020	アクリル、キャンバス	作家蔵
49	呉 亜沙	Invitation	2008	油彩、キャンバス	作家蔵
50	太郎千恵蔵	ポロス	2002	油彩、キャンバス	府中市美術館 太郎千恵蔵氏寄贈
51	長谷川繁	ビニール袋・キノコ(雲)	2010	油彩、キャンバス	府中市美術館 長谷川繁氏寄贈
52	原田郁	もうひとつの世界、10年目の地図	2019	アクリル、キャンバス	作家蔵
53	坂本佳子	LOST VIEW	2005	アクリル、布、パネル	府中市美術館 坂本佳子氏寄贈
54	O JUN	其ノ見 -crown	2008	アクリル、顔料、紙、ガラス、鉄	府中市美術館
55	O JUN	此ノ見 -camellia	2008	アクリル、顔料、紙、ガラス、鉄	府中市美術館
56	山口啓介	睡蓮を巡って 海を渡る叙事詩	2019	アクリル、水彩、紙	作家蔵
常設展示室に展示					
57	岩本拓郎	SOU-04-F(R.P.)	2004	油彩、キャンバス	府中市美術館 岩本拓郎氏寄贈
58	岩本拓郎	SOU(P.S.)	2004	油彩、キャンバス	府中市美術館 岩本拓郎氏寄贈
59	岩本拓郎	SOU-F(O.G.)	2004	油彩、キャンバス	府中市美術館
60	O Jun	天神二号水源	2008	油彩、キャンバス	府中市美術館 O JUN氏寄贈
関連展示 公開制作作家の作品たち (常設展示室)					
61	山口啓介	枯野と幼年期の終わり	2000	エッチング、紙	府中市美術館 寺田小太郎氏寄贈
62	鷺見和紀郎	重力のためのバヴァース	1992	ブロンズ	府中市美術館
63	中ザワヒデキ	Gray Painting #1(シアン、マゼンタ、イエローによる)	2006	合成樹脂、アルミパネル	府中市美術館
64	中ザワヒデキ	Gray Painting #4(シアン、マゼンタ、イエローによる)	2006	合成樹脂、アルミパネル	府中市美術館
65	中ザワヒデキ	Gray Painting #8(シアン、マゼンタ、イエローによる)	2006	合成樹脂、アルミパネル	府中市美術館 鍛冶充浩氏寄贈
66	恒松正敏	変容6	1996	油彩、テンペラ、板	府中市美術館 寺田小太郎氏寄贈
67	田中みぎわ	風のきよら	2004	墨、パネル、紙(2面)	府中市美術館
68	曾谷朝絵	Washbowl	2000	油彩、パネル	府中市美術館
69	曾谷朝絵	Door	2003	油彩、キャンバス	府中市美術館 曾谷朝絵氏寄贈
70	三田村光土里	Beyer	2002	写真ライボックス、タイプCプリントほか	府中市美術館 三田村光土里氏寄贈

5. 与謝蕪村「ぎこちない」を芸術にした画家

[令和3年3月13日-5月9日]

*本展覧会は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大によるまん延防止等重点措置による開館自粛要請のため4月25日から5月9日まで臨時休館とし、会期中途中で閉幕となった。

開催主旨:

江戸時代中期の俳人、与謝蕪村は画家でもあった。池大雅とともに日本の文人画の大成者とされ、特に「謝寅」の署名を用いた晩年の作品には、俳諧の世界と不可分ともいえる、最小限の描写とそこから生まれる余情、そして理由のないおかしみのようなものを味わうことができる。

中国の文人における南宗画の考え方、すなわち素朴な表現の中に高い精神性を表現しようという理念、また、俳諧における、立派なものではない、ささやかなもの、おかしなものに味わいを見出す感覚が、蕪村に働きかけたのは言うまでもない。そういう視点から改めて蕪村の作品を見渡すと、晩年の作品に限らず、若い頃から描いてきた中国絵画のさまざまなスタイルを取り入れた作品などにも、終始「ぎこちなさ」が堂々と打ち出されていることが分かる。まるで現代における「ヘタウマ」のように、わざと「上手くない」ところを見せることの面白さを意識して描いた作品が数多く見られるのだ。

当館では、これまで「かわいい」「へそまがり」をテーマとする展覧会を開催してきたが、本展覧会でもそんな当館なりのアプローチを試みた。「ぎこちなさ」は日本絵画の大きな創作の精神の一つであると指摘した「へそまがり日本美術」展（2019年）を、さらに深める機会ともなった。

観覧料:

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、小学生・中学生150円（120円）*（ ）内は20名以上の団体料金

主催:

府中市美術館

出品点数:

103点

入場者数:

10,994名（開催日数:37日、1日平均297名）

印刷物:

[カタログ] B5判変形252頁 [ポスター] B2判 [チラシ] A4判二つ折り4頁

関連イベント:

[展覧会講座「与謝蕪村『ぎこちない』を芸術にした画家」] 金子信久（当館学芸員）、4月3日、府中市生涯学習センター講堂（135名）
[子ども向けイベント「ぶそん探検隊!」] 会期中随時（5,382名）

関連記事:

南伸坊「与謝蕪村はよさのわかる絵描きだった」『てんと虫』2021年3月号
南伸坊「与謝蕪村はよさのわかる絵描きだった」『express』2021年3月号
千葉恵理子「与謝蕪村『ヘタウマ』の滋味」朝日新聞 2021年3月31日
石川健次「Art Scene」『サンデー毎日』2021年4月18日

関連放送:

「府中市美術館『与謝蕪村展“ぎこちない”を芸術にした画家』～江戸三大俳人・蕪村の趣ある絵画 ヘタウマの元祖、ここにあり!?～」『ぶらぶら美術・博物館』 #376 BS日テレ 2021年4月20日

出品作品

No. 作家名	作品名	制作時期	技法・材質	所蔵	文化財指定
1 与謝蕪村	方士求不死薬図屏風	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	施薬寺	京都府指定文化財
2 与謝蕪村	山水花鳥人物図押絵貼屏風	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	京都府立丹後郷土資料館寄託	
3 与謝蕪村	「雪の日々」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
4 与謝蕪村	田楽茶屋図屏風	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	京都府立丹後郷土資料館寄託	
5 与謝蕪村	山水図屏風	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	寧楽美術館	
6 与謝蕪村	風虎図屏風	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
6 与謝蕪村	風虎図屏風	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
7 与謝蕪村	倣王叔明山水図屏風	宝暦10年(1760)	紙本墨画淡彩	京都国立博物館	
8 与謝蕪村	寒山拾得図	宝暦8年(1758)	絹本墨画淡彩		
9 与謝蕪村	採薬図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
10 与謝蕪村	林和靖図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
11 与謝蕪村	山中採芝図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
12 与謝蕪村	狗子図	江戸時代中期(18世紀)	統本着色		
13 与謝蕪村	山水図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画		
14 与謝蕪村	梅石図	江戸時代中期(18世紀)	絹本墨画淡彩		
15 与謝蕪村	蘇鉄図屏風	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画	妙法寺	重要文化財
16 与謝蕪村	山水図	宝暦10年(1760)	絹本着色		
17 与謝蕪村	東坡宝山昼眠図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色	京都国立博物館寄託	
18 与謝蕪村	野馬図屏風	宝暦13年(1763)	統本着色	京都国立博物館	
19 与謝蕪村	寒林双馬図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		
20 与謝蕪村	秋山高隠図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		
21 与謝蕪村	春景人物図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		

No.	作家名	作品名	制作時期	技法・材質	所蔵	文化財指定
22	与謝蕪村	山水人物図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		
23	与謝蕪村	春風騎旅図	明和8年(1771)	絹本着色		
24	与謝蕪村	緑樹清隠図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
25	与謝蕪村	夏景山水図	安永4年(1775)	絹本着色		
26	与謝蕪村	冬景山水図	江戸時代中期(18世紀)	絹本墨画淡彩		
27	与謝蕪村	山水人物図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		
28	与謝蕪村	梅華書屋図	江戸時代中期(18世紀)	絹本墨画淡彩		
29	与謝蕪村	虎図	宝暦11年(1761)	絹本着色	滴水軒記念文化振興財団(府中市美術館寄託)	
30	与謝蕪村	酔老図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
31	与謝蕪村	福祿寿図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		
32	与謝蕪村	三星酔婦図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		
33	与謝蕪村	山水花鳥人物図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		
34	与謝蕪村	十宣帖	明和8年(1771)	紙本墨画淡彩	公益財団法人川端康成記念会	国宝
35	与謝蕪村	人家山水図押絵貼屏風	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
36	与謝蕪村	柳陰渡舟図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
37	与謝蕪村	松林流泉図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
38	与謝蕪村	漁父図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
39	与謝蕪村	深林孤屋図	天明2年(1782)	紙本墨画淡彩		
40	与謝蕪村	一路寒山図	安永6年(1777)	紙本墨画		
41	与謝蕪村	「春の夜や」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
42	与謝蕪村	奥の細道図屏風	安永8年(1779)	紙本墨画淡彩	公益財団法人山形美術館(長谷川コレクション)	重要文化財
43	与謝蕪村	芭蕉像	安永8年(1779)	紙本墨画淡彩	金福寺	
44	与謝蕪村	文台	天明2年(1782)	木製	金福寺	
45	与謝蕪村	重硯箱	天明2年(1782)	木製	金福寺	
46	与謝蕪村	「日の春を」画賛	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		
47	与謝蕪村	太祇馬提灯図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	早稲田大学會津八一記念博物館	
48	与謝蕪村	「女俱して」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
49	与謝蕪村	「我門や」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
50	与謝蕪村	「鮎くれて」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
51	与謝蕪村	「四五人に」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	文化庁	重要文化財
52	与謝蕪村画・加藤暁台賛	「忘れ花」画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
53	与謝蕪村	「ゆふかほや」画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画		
54	与謝蕪村	「ゆふかほの」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
55	与謝蕪村	「我門や」自画賛扇面	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
56	与謝蕪村	「たちはなの」自画賛扇面	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
57	円山応挙画・与謝蕪村賛	「銭亀や」画賛扇面	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	文化庁	重要文化財
58	円山応挙画・与謝蕪村賛	「己か身の」画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画		
59	呉春画・与謝蕪村賛	「沓おとす」画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
60	呉春画・与謝蕪村賛	「よい夢の」画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画		
61	呉春画・与謝蕪村賛	「女俱して」画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
62	呉春画・与謝蕪村賛	「月光西に」画賛	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		
63	呉春画・加藤暁台賛	「土甘し」画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画		
64	呉春	牧馬図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		
65	上田公長	桃林謝日図	江戸時代後期(19世紀)	絹本着色	公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館	
66	横井金谷	草廬三顧山水図	江戸時代中期-後期(18-19世紀)	紙本着色	滋賀県立琵琶湖文化館	
67	紀樞亭	五老図	文化2年(1805)	紙本着色	滋賀県立琵琶湖文化館	
68	与謝蕪村著・呉春画	新花摘 *写真展示	寛政9年(1797)刊	版本	早稲田大学図書館	
69	加藤逸人	虫の声 *写真展示	文化11年(1814)刊	版本	早稲田大学図書館	
70	与謝蕪村	寒山拾得図	天明元年(1781)	紙本着色	文化庁	重要文化財
71	与謝蕪村	「西吹は」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画		
72	与謝蕪村	「西吹は」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画		
73	与謝蕪村	「西吹は」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画		
74	与謝蕪村	寒山拾得図	安永7年(1778)	紙本着色		
75	与謝蕪村	松林帰樵図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色	公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館	
76	与謝蕪村	郭子儀図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色	文化庁	重要文化財
77	与謝蕪村	後赤壁賦・帰去来辞図	江戸時代中期(18世紀)	紙本着色	公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館	
78	与謝蕪村・呉春	白箸翁・元政身延詣図	江戸時代中期(18世紀)	紙本着色	公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館	
79	与謝蕪村	「又平に」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館	
80	与謝蕪村	「雪月花」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館	
81	与謝蕪村	「火桶炭団を」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	東京黎明アートルーム	
82	与謝蕪村	「四五人に」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
83	与謝蕪村	「みしか夜の」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	京都国立博物館寄託	

No.	作家名	作品名	制作時期	技法・材質	所蔵	文化財指定
84	与謝蕪村	「花すゝき」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	文化庁	重要文化財
85	与謝蕪村	薄に鹿図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色	愛知県美術館	
86	与謝蕪村	「居直りて」自画賛扇面	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画		
87	与謝蕪村	安永三年春興帖 *写真 展示	安永3年(1774)刊	版本	早稲田大学図書館	
88	与謝蕪村	「涼しさに」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
88	与謝蕪村	「涼しさに」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
89	与謝蕪村	夏淡訪友図	明和8年(1771)	絹本着色		
90	与謝蕪村	驟雨渡橋図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色		
91	与謝蕪村	山水図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
92	与謝蕪村	「春の海」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
92	与謝蕪村	「春の海」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
93	与謝蕪村	「岩くらの」自画賛	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	愛知県美術館	
94	与謝蕪村	寒林曉霽図	宝暦9年(1759)	紙本墨画淡彩		
94	与謝蕪村	寒林曉霽図	宝暦9年(1759)	紙本墨画淡彩		
95	与謝蕪村	鳶鴉図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	公益財団法人北村文華財団北村美術館	重要文化財
96	与謝蕪村	風雨鳶・雪中鳥図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩		
97	与謝蕪村	晩秋遊鹿図屏風	江戸時代中期(18世紀)	紙本着色	公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館	重要美術品
98	与謝蕪村	山野行楽図屏風	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	東京国立博物館	重要文化財
99	与謝蕪村	富岳列松図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画淡彩	愛知県美術館	重要文化財
100	与謝蕪村	月下観梅図	江戸時代中期(18世紀)	紙本着色		
101	与謝蕪村	柳塘文人図	江戸時代中期(18世紀)	紙本着色		
102	与謝蕪村	春野行楽図屏風	安永8年(1779)	紙本墨画淡彩		
103	与謝蕪村	山水図屏風	江戸時代中期(18世紀)	紙本金地墨画淡彩	京都国立博物館寄託	

6. 映えるNIPPON 江戸～昭和 名所を描く

[令和3年5月22日-7月11日]

*本展覧会は、令和3年5月22日より開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大によるまん延防止等重点措置による開館自粛要請のため4月25日から5月31日まで臨時休館とし、6月1日より開催した。

開催主旨：

名所と呼ばれる風景は古くから様々に描き出され、人々に伝達されてきた。名所を描き伝えることは、制作意図や表現媒体、伝達方法を様々に変えながら現代に至るまで続けられている。本展覧会においては、特定の場所を描き伝えてきた絵画、版画、写真、ポスターなどを広い意味で近代における「名所絵」と位置づけ、そのイメージがどのように継承されてきたのか、複製などを繰り返しながらどのように伝播してきたのかを紹介した。

展覧会は4つのパートで構成した。「第0章 歌川広重の《名所江戸百景》」では江戸時代末期に描かれた連作浮世絵風景版画「名所江戸百景」を取り上げ、手前にある対象を大きく描いた極端な遠近表現などの構図上の特徴が、その後の名所表現にも継承されたものであることを示した。

続く「第1章 新たな視線、受け継がれる表現」では、明治期の表現に着目し、開化の新名所を描いた開化絵、名所を写した写真とそれとはほぼ同じ構図で描かれた絵画作品を展示した。また、明治期にもたらされた新たな表現技術を取り込んだ小林清親による光線画をこの時代を代表する風景描写として呈示した。

「第2章 名所を描く、名所を伝える」では、大正から昭和初期に描かれた名所の風景を展示した。昭和期に日本全国を旅して描いた川瀬巴水による新版画、この時期に制定された国立公園を描いた油彩画、そしてポスターやパンフレット、鳥瞰図などの観光宣伝グラフィックなどを通じ、新たな名所のイメージがいかに描かれ定着していったのかを紹介した。

最後の「第3章 風景へのまなざし、画家たちのまなざし」では、富士山と民家という日本の定番ともいべき風景イメージを描き続けた、和田英作と向井潤吉の作品から、両者が風景表現にあたってどのような絵作りを行っていたのかを紹介した。

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、小学生・中学生150円（120円）*（）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

110点

入場者数：

6,079名（開催日数：36日、1日平均169名）

印刷物：

[カタログ] B5判160頁 [ポスター] B2判 [チラシ] A4判二つ折り4頁

関連記事：

大野拓生「古今東西『映える』風景求めて-名所広めた 高い写実性」朝日新聞 2021年6月22日

高橋咲子「既存イメージと格闘」毎日新聞 2021年6月30日

「キーワードは“映え”！」『美術の窓』2021年7月号

若山満大「今日に続く、起点としてのイメージ」

web版美術手帖 2021年8月25日

関連放送：

『わたしの芸術劇場』TOKYO MX 2021年6月19日

出品作品

No.	作家名	作品名	制作時期	技法・材質	所蔵
0章 歌川広重の《名所江戸百景》					
1	歌川広重	名所江戸百景 王子瀧の川	安政3(1856)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
2	歌川広重	名所江戸百景 日暮里諏訪の台	安政3(1856)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
3	歌川広重	名所江戸百景 浅草金龍山	安政3(1856)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
4	歌川広重	名所江戸百景 隅田川水神の森真崎	安政3(1856)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
5	歌川広重	名所江戸百景 ハツ見のはし	安政3(1856)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
6	歌川広重	名所江戸百景 両国橋大川ばた	安政3(1856)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
7	歌川広重	名所江戸百景 高輪うしまち	安政4(1857)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
8	歌川広重	名所江戸百景 水道橋駿河台	安政4(1857)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
9	歌川広重	名所江戸百景 深川洲崎十萬坪	安政4(1857)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
10	歌川広重	名所江戸百景 上野山内月のまつ	安政4(1857)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
11	歌川広重	名所江戸百景 神田明神曙之景	安政4(1857)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
12	歌川広重	名所江戸百景 大はしあたけの夕立	安政4(1857)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
13	歌川広重	名所江戸百景 亀戸梅屋舗	安政4(1857)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
14	歌川広重	名所江戸百景 深川萬年橋	安政4(1857)年	紙、木版	神奈川県立歴史博物館
1章 新たな視線、受け継がれる表現					
1-1 開化絵					
15	橋本貞秀	横浜本町景港崎街新廓	万延元(1860)年	紙、木版	ガスミュージアム
16	歌川国輝(二代)	東都築地保互留館海岸庭前之図	明治元(1868)年	紙、木版	ガスミュージアム
17	歌川国輝(二代)	第一大区従京橋新橋迄煉瓦石造 商家蕃昌貴賤敷澤盛景	明治6(1873)年	紙、木版	ガスミュージアム
18	歌川広重(三代)	東京海運橋兜町為換座五階造り図	明治6(1873)年	紙、木版	ガスミュージアム

No.	作家名	作品名	制作時期	技法・材質	所蔵
19	歌川広重(三代)	東京駿河町国立銀行繁栄図	明治6(1873)年	紙、木版	ガスミュージアム
20	歌川国政(四代)	東京名所 宝町三井富士遠景	明治7(1874)年	紙、木版	ガスミュージアム
21	歌川芳虎	東京駿河町三ツ井正写之図	明治7(1874)年	紙、木版	ガスミュージアム
22	歌川芳虎	東京名所 京橋之景	明治8(1875)年	紙、木版	ガスミュージアム
23	歌川芳虎	東京海運橋第一国立銀行之全図 並 二近門の市中一覽の図	明治9(1876)年	紙、木版	ガスミュージアム
24	歌川国政(四代)	東京吾妻橋新築落成之図	明治20(1887)年	紙、木版	ガスミュージアム
1-2 西洋画法と写真					
25	ファーサリ商会	写真帖 JAPAN	明治20年代	アルバム:アルビュメン・ プリント、手彩色	東京都江戸東京博物館
26	高橋由一	墨水桜花輝耀の景	明治7(1874)年	キャンバス、油彩	府中市美術館
27	高橋由一	江の島図	明治9~10(1876~77)年	キャンバス、油彩	神奈川県立近代美術館
28	高橋由一	不忍池	明治13(1880)年頃	キャンバス、油彩	愛知県美術館
29	五百城文哉	小金井の桜	明治期	キャンバス、油彩	府中市美術館
30	平木政次	富士	明治30(1897)年	キャンバス、油彩	静岡県美術館
31	五姓田義松	富士	明治38(1905)年	キャンバス、油彩	静岡県立美術館
32	五姓田義松	旧東海道馬入茅ヶ崎間左富士山	明治期	キャンバス、油彩	府中市美術館
33	渡辺文三郎	富士遠望	明治期	キャンバス、油彩	府中市美術館
34	渡辺文三郎	日光神橋	明治期	紙、水彩	府中市美術館
35	小杉未醒	日光	明治期	紙、水彩	府中市美術館
36	YOKOTSUKA	東照宮・石鳥居と五重塔	明治期	紙、水彩	小杉放菴記念日光美術館
37	河久保正名	東照宮・奥社参道	明治後期	紙、水彩	小杉放菴記念日光美術館
1-3 小林清親の光線画					
38	小林清親	東京新大橋雨中図	明治9(1876)年	紙、木版	ガスミュージアム
39	小林清親	海運橋(第一銀行雪中)	明治9(1876)年頃	紙、木版	ガスミュージアム
40	小林清親	愛宕山の図	明治11(1878)年	紙、木版	ガスミュージアム
41	小林清親	滝野川池の橋	明治11(1878)年頃	紙、木版	府中市美術館
42	小林清親	高輪牛町臈月景	明治12(1879)年	紙、木版	静岡県立美術館
43	小林清親	本町通夜雪	明治13(1880)年	紙、木版	静岡県立美術館
44	小林清親	お茶の水螢	明治13(1880)年	紙、木版	府中市美術館
45	小林清親	天王寺下衣川	明治13(1880)年	紙、木版	府中市美術館
46	小林清親	大川岸一之橋遠景	明治13(1880)年	紙、木版	府中市美術館
47	小林清親	神田八雲神社暁	明治13(1880)年	紙、木版	静岡県立美術館
48	小林清親	千ほんくい両国橋	明治13(1880)年	紙、木版	ガスミュージアム
49	小林清親	柳原夜雨	明治13(1880)年	紙、木版	府中市美術館
50	小林清親	駿河町雪	明治13(1880)年	紙、木版	府中市美術館
51	小林清親	梅若神社	明治13~14(1880~81)年	紙、木版	ガスミュージアム
52	小林清親	日本橋夜	明治14(1881)年	紙、木版	静岡県立美術館
53	小林清親	新橋ステーション	明治14(1881)年頃	紙、木版	ガスミュージアム
2章 名所を描く、名所を伝える					
2-1 川瀬巴水の新版画					
54	川瀬巴水	東京十二題 深川上の橋	大正9(1920)年	紙、木版	東京都江戸東京博物館
55	川瀬巴水	東京十二月 谷中の夕映	大正10(1921)年	紙、木版	東京都江戸東京博物館
56	川瀬巴水	天草より見たる温泉ヶ嶽	大正11(1922)年	紙、木版	東京都江戸東京博物館
57	川瀬巴水	東京二十景 芝増上寺	大正14(1925)年	紙、木版	大田区立郷土博物館
58	川瀬巴水	東京二十景 池上市之倉(夕陽)	昭和3(1928)年	紙、木版	大田区立郷土博物館
59	川瀬巴水	東京二十景 馬込の月	昭和5(1930)年	紙、木版	大田区立郷土博物館
60	川瀬巴水	目黒不動堂	昭和6(1931)年	紙、木版	東京都江戸東京博物館
61	川瀬巴水	清洲橋	昭和6(1931)年	紙、木版	大田区立郷土博物館
62	川瀬巴水	春の雪(京都清水)	昭和7(1932)年	紙、木版	愛知県美術館
63	川瀬巴水	The Miyajima Shrine in Snow	昭和7(1932)年	紙、木版	大田区立郷土博物館
64	川瀬巴水	小金井の夜桜	昭和10(1935)年	紙、木版	東京都江戸東京博物館
65	川瀬巴水	西伊豆 木負	昭和12(1937)年	紙、木版	大田区立郷土博物館
66	川瀬巴水	東海道風景選集 田子の浦の夕	昭和15(1940)年	紙、木版	愛知県美術館
67	川瀬巴水	東海道風景選集 日本橋(夜明)	昭和15(1940)年	紙、木版	大田区立郷土博物館
68	川瀬巴水	宮島の月夜	昭和22(1947)年	紙、木版	愛知県美術館
69	川瀬巴水	京都大原三千院	昭和24(1949)年	紙、木版	愛知県美術館
70	川瀬巴水	塩原猿岩	昭和24(1949)年	紙、木版	愛知県美術館
71	川瀬巴水	時雨のあと(京都南禅寺)	昭和26(1951)年	紙、木版	愛知県美術館
2-2 国立公園の絵画					
72	画:杉浦非水 制作・発行:国立公園協会、三越	国立公園展覧会	昭和4(1929)年	印刷(ポスター)	日本交通協会
73	中根寛	サロベツ原野より利尻礼文を望む	昭和52(1977)年	キャンバス、油彩	小杉放菴記念日光美術館

No.	作家名	作品名	制作時期	技法・材質	所蔵
74	辻永	双湖台より見たるベンケ・パンケ	昭和 7 (1932) 年	キャンバス、油彩	小杉放菴記念日光美術館
75	大野隆徳	奥入瀬溪流の秋	昭和 7 (1932) 年頃	キャンバス、油彩	小杉放菴記念日光美術館
76	三栖右嗣	小笠原父島から南島・母島を望む	昭和 52 (1977) 年	キャンバス、油彩	小杉放菴記念日光美術館
77	中澤弘光	上高地大正池	昭和 7 (1932) 年	キャンバス、油彩	小杉放菴記念日光美術館
78	奥瀬英三	澗八丁	昭和 10 (1935) 年頃	キャンバス、油彩	小杉放菴記念日光美術館
79	刑部人	鳥取砂丘	昭和 45 (1970) 年	キャンバス、油彩	小杉放菴記念日光美術館
80	岡田又三郎	足摺岬	昭和 50 (1975) 年	キャンバス、油彩	小杉放菴記念日光美術館
81	黒田重太郎	九十九島	昭和 31 (1956) 年	キャンバス、油彩	小杉放菴記念日光美術館
82	山本貞	仲間川原生林	昭和 52 (1977) 年	キャンバス、油彩	小杉放菴記念日光美術館
3-3 観光宣伝グラフィック					
83	画:吉田初三郎 制作・発行:妹尾舎翠堂	箱根名所図絵	大正6-7 (1917-18)年頃	印刷(パンフレット)	神奈川県立歴史博物館
84-1	画:吉田初三郎 制作・発行:鉄道省	鉄道旅行案内	大正 13 (1924) 年	印刷(書籍)	個人蔵
84-2	画:吉田初三郎 制作・発行:鉄道省	鉄道旅行案内	大正 13 (1924) 年	印刷(書籍)	東京都江戸東京博物館
84-3	画:吉田初三郎 制作・発行:鉄道省	鉄道旅行案内	大正 14 (1925) 年	印刷(書籍)	東京都江戸東京博物館
85	画:吉田初三郎 制作・発行:大阪毎日新聞社	日本鳥瞰近畿東海大図絵	昭和 2 (1927) 年	印刷(パンフレット)	東京都江戸東京博物館
86	吉田初三郎	神奈川県鳥瞰図	昭和 7 (1932) 年	絹本彩色	神奈川県立歴史博物館
87	画:吉田初三郎 制作・発行:神奈川県観光連合会	神奈川県観光図絵	昭和 9 (1934) 年	印刷(パンフレット)	神奈川県立歴史博物館
88	画:金子常光 制作・発行:横浜市中興会	伸び行く大横浜	昭和 8 (1933) 年	印刷(パンフレット)	神奈川県立歴史博物館
89	画:吉田初三郎 制作・発行:川崎市役所	川崎市(絵葉書)	不詳	印刷(絵葉書)	神奈川県立歴史博物館
90	画:不詳 制作・発行:鉄道省	富士裾野めぐり	大正 14 (1925) 年	印刷(ポスター)	日本交通協会
91	画:不詳 制作・発行:鉄道省	房総めぐり	大正 14 (1925) 年頃	印刷(ポスター)	日本交通協会
92	画:藤澤龍雄 制作・発行:秩父鉄道株式会社、 東京鉄道局	春の長瀨	大正 14 (1925) 年頃	印刷(ポスター)	日本交通協会
93	画:不詳 制作・発行:不詳	温泉郷 上州吾妻	大正 14~昭和 6 (1925~31) 年頃	印刷(ポスター)	日本交通協会
94	画:吉田初三郎 制作・発行: 小田原急行鉄道株式会社	小田原急行電車開通記念	昭和 2 (1927) 年	印刷(ポスター)	東京都江戸東京博物館
95	画:吉村二郎 制作・発行:成田町、 成田鉄道会社、東京鉄道局	三里塚の桜と成田山詣	昭和 3 (1928) 年	印刷(ポスター)	日本交通協会
96	画:廣瀬貫川 制作・発行:箱根振興会、 箱根温泉旅館組合、 富士屋自動車株式会社、 箱根遊船株式会社、 小田原電鉄電車部・自動車部、 東京鉄道局	真紅の箱根へ…	大正後期~昭和初期	印刷(ポスター)	日本交通協会
97	画:梶本一洋 制作・発行:京都市観光課	京都へ	昭和 8~9 (1933~34) 年	印刷(ポスター)	日本交通協会
98	画:不詳 制作・発行:仙台鉄道局	新緑の十和田	昭和前期	印刷(ポスター)	東京都江戸東京博物館

3章 風景へのまなざし、画家たちのまなざし

3-1 富士と和田英作

99	和田英作	富士	明治 32 (1899) 年	キャンバス、油彩	府中市美術館
100	和田英作	富士	明治 42 (1909) 年	キャンバス、油彩	三重県立美術館
101	和田英作	富士	大正 7 (1918) 年頃	キャンバス、油彩	河口湖美術館
102	和田英作	三保富士	昭和 28 (1953) 年	キャンバス、油彩	小杉放菴記念日光美術館

3-2 民家と向井潤吉

103	向井潤吉	春陽富士	昭和 40 (1965) 年	キャンバス、油彩	個人蔵(世田谷美術館寄託)
104	向井潤吉	聚落	昭和 41 (1966) 年	キャンバス、油彩	世田谷美術館
105	向井潤吉	草原六月	昭和 42 (1967) 年	キャンバス、油彩	世田谷美術館
106	向井潤吉	秋風の中の水車	昭和 44 (1969) 年	キャンバス、油彩	世田谷美術館
107	向井潤吉	六月の田園	昭和 46 (1971) 年	キャンバス、油彩	世田谷美術館
108	向井潤吉	微雨	昭和 49 (1974) 年	キャンバス、油彩	世田谷美術館
109	向井潤吉	爽緑の丘	昭和 51 (1976) 年	キャンバス、油彩	世田谷美術館
110	向井潤吉	遅れる春の丘より	昭和 61 (1986) 年	キャンバス、油彩	世田谷美術館

7. いっしょに遊ぼう! ぱれたんとむら田

[令和3年7月24日-9月5日]

開催主旨:

絵の国の妖精ぱれたんとむら田の案内で、府中市美術館の所蔵品を楽しむ展覧会。シリーズ10回目の本展覧会は、「10のクイズにちょうせん!」「むら田道場」「絵の国記念写真」「絵の国めいろ」の4つのコーナーを設けた。ロビーにはぬり絵を楽しむ「ぱれたん島」や、ぱれたん工作の展示コーナーを設置。新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、例年のぱれたんシリーズ同様の楽しい体験を提供する展覧会となった。

観覧料:

一般400円(320円)、高校生・大学生200円(160円)、
小学生・中学生70円(50円)* ()内は20名以上の団体料金

主催:

府中市美術館

出品点数:

17点

入場者数:

8,459名(開催日数:38日、1日平均223名)

印刷物:

[ワークブック] B5横判16頁 [ポスター] B2判 [チラシ] A4判

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	堀込幸枝	float	平成18(2006)年	キャンバス、油彩	記載のないものは すべて府中市美術館蔵
2	浅野竹二	近畿名勝 姫路城	昭和29(1954)年	紙、木版	
3	ラヴィエイユ、ウジェーヌ	魚釣り	19世紀後半	板、油彩	
4	印藤真植	子供の遊び	明治時代後期	キャンバス、油彩	
5	小林清親	武蔵百景之内 道灌山	明治17(1884)年	紙本木版	
6	正宗得三郎	静物(スイカ・いちじく・プラム・ぶどう)		キャンバス、油彩	
7	江田豊	象	平成10(1998)年	紙、油彩、水彩	
8	藪野健	建築家の夢	昭和52(1997)年	キャンバス、油彩	
9	岩永てるみ	リヨンへ	平成30(2018)年	紙、顔料	
10	川村悦子	黄いろい花	平成29(2017)年	キャンバス、油彩	
11	富田有紀子	985	平成26(2014)年	キャンバス、油彩	
12	前田舜敏	VILLA	昭和55(1980)年	キャンバス、油彩	
13	富田菜摘	九平次	平成28(2016)年	金属廃材、ミクストメディア	
14	富田菜摘	ブン	平成28(2016)年	金属廃材、ミクストメディア	
15	牛島憲之	残夏	昭和21(1946)年	キャンバス、油彩	府中市美術館寄託
16	松村景文	猫図	江戸時代後期(19世紀)	紙本着色	府中市美術館寄託
17	森一鳳	豆兎図	江戸時代後期(19世紀)	紙本着色	府中市美術館寄託

8. 開館20周年記念 動物の絵 日本とヨーロッパ ふしぎ・かわいい・へそまがり

[令和3年9月18日-11月28日]

※開館20周年記念「動物の絵 日本とヨーロッパ ふしぎ・かわいい・へそまがり」(令和2年9月19日-11月23日)は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で展覧会準備を十分に行えない状況であったため、開催を延期し、令和3年度に本展覧会を開催した。

開催主旨:

府中市美術館の開館20周年を記念するものとして開催した。当館は「美術における東と西」を活動の柱の一つとして、作品収集事業、展覧会事業などを行なってきた。本展覧会は、当館の20年間の活動の積み重ねの上に実現されたものである。

当館では、これまでに二度、江戸時代の動物絵画の展覧会を開催し、日本の動物表現の歴史の深さと豊かさを紹介してきた。本展覧会では、更に西洋にも視点を広げ、日本とヨーロッパ双方の「動物を描く」という営みに目を向け、両者の違いや共通点を洗い出すことで、それぞれの特徴と魅力をご覧いただいた。

日本は動物絵画の伝統に恵まれた国である。人も動物も等しく大切な命と説く仏教のもと、数多くの動物の絵がのびやかに生み出されたためである。一方、西洋では動物を人よりも劣った存在とみなすキリスト教の教義や、人間を描くことを第一とする芸術観が長く支配的であったため、動物を主役とした絵は多くない。文化的にも宗教的にも異なる背景を持つ日本とヨーロッパの動物絵画を同じ空間に並べ、見渡すことで東西のさまざまな時代のさまざまな作品を、より深く多角的に楽しむことのできる展覧会となった。

観覧料:

一般1,000円(800円)、高校生・大学生500円(400円)、小学生・中学生200円(150円)* ()内は20名以上の団体料金

主催:

府中市美術館、東京新聞

後援:

在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

協力:

日本航空、ルフトハンザ カーゴ AG

出品点数:

183点

入場者数:

38,320名(開催日数:62日、1日平均618名)

印刷物:

[カタログ] B24取判274頁 [ポスター] B2判 [チラシ] A4判二つ折り4頁

関連イベント:

[展覧会講座]

「動物の絵 日本とヨーロッパ—日本の絵を中心に」金子信久(当館学芸員)、10月24日、府中市生涯学習センター講堂(180名)

「動物の絵 日本とヨーロッパ—西洋の絵を中心に」音ゆみ子(当館学芸員)、11月7日、府中市生涯学習センター講堂(143名)

関連記事:

千葉恵理子「家光のレアな絵 長野の男性所有」朝日新聞 2020年11月5日

「Lovely名画 動物園つくっちゃいました」『和楽』2021年8・9月号

千代祥平「ほっとなび『ぜんぶ 動物の絵』」東京新聞 2021年8月2日

「心ときめく今月の名作 vol.13『雪中狗子図』 案内人:音ゆみ子」『ノジュール』2021年10月号

松本亮平「温故知新 第九回 群獣図に学ぶ」『盆栽世界』2021年11月号増刊

「府中市美術館で開催中『動物の絵』展 このサルの謎」東京新聞 2021年10月4日

輪湖雅江「ニッポンカルチャーに夢中!」『クロワッサン』2021年10月10日

西田健作「美の履歴書717 長谷川湊二郎『猫』」朝日新聞 2021年10月12日

金子信久「動物の絵 日本とヨーロッパ—注目の一点 上 伊藤若冲《象と鯨図屏風》」東京新聞 2021年10月14日

音ゆみ子「動物の絵 日本とヨーロッパ—注目の一点 中 ギュスターヴ・モロー《一角獣》」東京新聞 2021年10月22日

聞き手:音ゆみ子「上野動物園園長・福田豊氏に聞く『動物の絵 日本とヨーロッパ』」東京新聞 2021年10月23日

音ゆみ子「動物の絵 日本とヨーロッパ—注目の一点 下 円山応挙《雪柳犬子図》」東京新聞 2021年10月24日

杉全美帆子「<おとなのための美探訪> 府中市美術館 ひたすら楽しい! 動物の絵」東京新聞 2021年11月9日

大野瑞絵「日本と西洋にみる動物絵画」『with PETs』2022年1月号

『小学館の図鑑 NEO アート 図解はじめての絵画』小学館 2023年2月

関連放送:

「江戸の生き物語」『日立 世界ふしぎ発見』TBS 2021年10月30日

「府中市美術館『動物の絵 日本とヨーロッパ』～日本の仏教観・禅の心がかわいい動物画を育んだ!? 応挙・若冲・宗達、徳川家光の新発見名画も～」『ぶらぶら美術・博物館』#388 BS日テレ 2021年10月26日

出品作品

No.	作家名	作品名	員数	技法・材質	制作時期	所蔵
1		涅槃図	1幅	絹本着色	鎌倉時代(13世紀)	
2		涅槃図	1幅	絹本着色	室町時代(15世紀)	
3		八相涅槃図	1幅	絹本着色	享保12年(1727)	西来寺(名古屋市)
4	伊藤若冲	象と鯨図屏風	6曲1双	紙本墨画	寛政7年(1795)	MIHO MUSEUM
5	狩野永泰	放生図	1幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	
6	上田公長	雪中 熊図	1幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	

No.	作家名	作品名	員数	技法・材質	制作時期	所蔵
7	小川芋銭	芭蕉句意 居守	1幅	紙本墨画淡彩	昭和12年(1937)	茨城県近代美術館
8	森一鳳	狐狸図	2幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀)	
9	長沢蘆雪	牧童図	2幅	紙本墨画淡彩	江戸時代中期(18世紀後半)	
10	長沢蘆雪	蛙図	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代中期(18世紀後半)	
11	松本奉時	蛙図	1幅	紙本墨画	江戸時代中期(18世紀後半)	
12	葛飾北斎	雪中鷺図	1幅	紙本着色	天保14年(1843)	滴水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
13	甫雪等禅	呖々鳥図	1幅	紙本墨画	室町時代(16世紀)	
14	尾形光琳	竹虎図	1幅	紙本墨画	江戸時代中期(18世紀前半)	京都国立博物館
15	永瀬雲山	竜虎図	2幅	絹本着色	江戸時代後期—明治時代(19世紀)	
16	岸勝	猿の坐禅図	1幅	絹本墨画	江戸時代後期—明治時代(19世紀)	
17	吉村孝敬	蜘蛛・鷹・熊図	3幅	絹本着色	天保4年(1833)	
18	アンジェロ・マルティ ネッティ	鹿と猪のある静物	1面	キャンバス、油彩	19世紀	山寺 後藤美術館
19	ルーラント・サーフェリー	神の救済に感謝するノア	1面	板、油彩	1625年	ランス美術館
20	ガブリエル・フォン・ マックス	骸骨の前の猿	1面	キャンバス、油彩	1900年頃	
21	ポール・ゴーギャン	小屋の前の犬、タヒチ	1面	キャンバス、油彩	1892年	ポーラ美術館
22	ポール・ゴーギャン	テ・アトゥア(神々)	1枚	紙、木版	1899年頃	ランス美術館
23	ポール・ゴーギャン	微笑	1枚	紙、木版	1899年	ランス美術館
24	ポール・ゴーギャン	女、動物、葉	1枚	紙、木版	1898年頃	ランス美術館
25	ポール・ゴーギャン	引越し	1枚	紙、木版	1899年頃	ランス美術館
26	ポール・ゴーギャン	愛せよさらば幸いならん	1枚	紙、木版	1898年頃	ランス美術館
27	フランツ・マルク	眠る羊飼いの女	1枚	紙、木版	1912年	町田市立国際版画美術館
28	リヒャルト・ゼーヴァルト	牧人	1枚	紙、木版、彩色	1919年	宮城県美術館
29	コンラート・フェリクス ミュラー	詩と絵でつづるドタバタABC	2枚	紙、木版	1925年	町田市立国際版画美術館
30	藤田嗣治	授乳の聖母	1面	キャンバス、油彩	1964年	ランス美術館
31		鳥獣戯画	50枚	紙本墨画	明治時代—昭和時代(20世紀)	
32	上田耕冲	鳥獣戯画	1巻	絹本着色	江戸時代後期—明治時代(19世紀)	
33	伊藤若冲	河豚と蛙の相撲図	1幅	紙本墨画	江戸時代中期(18世紀後半)	京都国立博物館
34	遠藤日人	蛙の相撲図	1幅	紙本着色	天保4年(1833)	
35	河鍋暁斎	蛙の股潜り図	1幅	絹本墨画淡彩	江戸時代後期—明治時代(19世紀 後半)	
36	山野守嗣	猫と鼠の行列図	1幅	絹本墨画淡彩	江戸時代後期(19世紀)	
37	春木南溟	虫合戦図	1幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀中頃)	滴水軒記念文化振興財団
38	小寺稲泉	秋叢戯虫	1幅	紙本墨画淡彩	大正時代—昭和時代(20世紀前半)	
39	歌川国芳	きん魚づくし ほんぼん	1枚	中判錦絵	天保13年(1842)頃	
40	歌川国芳	金魚づくし いかだのり	1枚	中判錦絵	天保13年(1842)頃	
41	桂ゆき	作品	1面	紙、板、油彩	昭和40年(1965)	福岡市美術館
42	桂ゆき	狐と狸	1面	紙、板、油彩	昭和48年(1973)	下関市立美術館
43	桂ゆき	雀の学校	1面	紙、板、油彩	昭和48年(1973)	下関市立美術館
44	フランシスコ・デ・ゴヤ	祖父の代まで(『気まぐれ』より)	1枚	紙、アクアチント	1799年	町田市立国際版画美術館
45	クリストフ・エエ	人まね猿の版画集	2枚	紙、エッチング	18世紀	ランス美術館
46	J・J・グランヴィール	当世風変身譚	1冊	書籍	1869年 *初版は1829年刊	町田市立国際版画美術館
47	ウォルター・クレイン	美女と野獣	1冊	書籍	1874年刊	町田市立国際版画美術館
48	リチャード・ドイル	妖精の国で	1冊	書籍	1870年刊	町田市立国際版画美術館
49	原在照	三猿図	1幅	絹本着色	安政7年(1860)	
50	豊田随可	旭丹頂・月黒鶴図	2幅	紙本着色	江戸時代中期(18世紀)	愛媛県美術館寄託
51	筒井政憲	亀群遊図	1幅	絹本着色	文政3年(1820)	
52	長谷川雪旦	群鹿図	1幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	
53	長沢蘆雪	十二支図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	滴水軒記念文化振興財団
54	狩野安信	牡丹猫・菖兔図	2幅	絹本着色	江戸時代前期(17世紀)	
55	原在明	虎耳草と猫図	1幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	滴水軒記念文化振興財団
56	筑陽	寿星図	1幅	紙本墨画	安土桃山時代—江戸時代前期(16世 紀—17世紀)	
57	曾我蕭白	遊鯉図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	
58		ピーター・バラ動物寓意集(複製)	1冊	書籍	1300—10年頃	
59	アルブレヒト・デューラー	アダムとエヴァ	1枚	紙、エングレーヴィング	1504年	上原美術館
60	リエール・ペラン	横たわるデュテ	1面	キャンバス、油彩	1778年	ランス美術館
61		春日鹿曼茶羅図 重要文化財	1幅	絹本着色	鎌倉時代(14世紀)	奈良国立博物館
62		鹿図屏風	6曲1双	紙本金地着色	江戸時代前期(17世紀)	春日大社
63	曾我二直庵	鷹図屏風	6曲1双	紙本金地墨画	江戸時代前期(17世紀)	
64	狩野栄信	月に波兔図	3幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	

No.	作家名	作品名	員数	技法・材質	制作時期	所蔵
65	中村芳中	蝦蟇鉄拐図	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代中期—後期 (18世紀後半—19世紀前半)	
66	司馬江漢	オランダ馬図	1面	絹本油彩	江戸時代中期(18世紀後半)	府中市美術館寄託
67	西郷孤月	春暖	1幅	絹本着色	明治30年(1897)	東京藝術大学
68	元信印	鳳凰と孔雀図	1幅	紙本着色	室町時代(15世紀後半—16世紀)	
69	結城素明	鳳凰之図	2幅	絹本着色	大正14年(1925)	宮内庁三の丸尚蔵館
70	アルブレヒト・デュラー	子羊の前の選ばれし者たち(『黙示録』より)	1枚	紙、木版	1498年頃	町田市立国際版画美術館
71	ギュスターヴ・モロー	一角獣	1面	キャンバス、油彩	1885年頃	ギュスターヴ・モロー美術館
72	オディロン・ルドン	ベガサスにのるミュージズ	1面	キャンバス、油彩	1907—10年	群馬県立近代美術館
73	マルク・シャガール	翼のある馬	1面	キャンバス、油彩	1962年	吉野石膏コレクション(山形美術館寄託)
74	狩野栄信	百鳥図屏風	1幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	永青文庫
75		鳥のコンサート	1面	キャンバス、油彩	17世紀	ナント美術館
76	谷文晁	百鳥図	6曲1双	紙本着色	江戸時代中期—後期 (18世紀後半—19世紀前半)	立花家史料館
77	長沢蘆雪	春景群鳥図	1幅	絹本着色	寛政10年(1798)	
78	石川孟	犀図	1幅	絹本着色	江戸時代中期—後期 (18世紀後半—19世紀前半)	摘水軒記念文化振興財団
79	ヤン・ヨンスン	動物図譜	1冊	書籍	1660年刊	府中市美術館
80	司馬江漢	洋馬図・象図屏風	2曲1隻	絹本油彩	江戸時代中期(18世紀後半)	
81	司馬江漢	ライオン図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
82	原焯	虎図	1幅	絹本着色	寛政5年(1793)	
83	森狙仙	手長猿図	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代後期(19世紀前半)	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
84	片山楊谷	白虎図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	
85	土方稲嶺	虎図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	摘水軒記念文化振興財団
86	狩野養信	牡丹に猫図	1幅	紙本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
87	松村景文	珊瑚黄鳥図	1幅	絹本着色	文政5年(1822)	
88	谷文晁	駱駝図	1幅	絹本着色	文政8年(1825)	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
89	窪田雪鷹	駱駝図	1幅	紙本着色	文政6年(1823)	
90	上田公長	駱駝図	1幅	紙本着色	文政6年(1823)	
91	ヨハン・ヤーコプ・ シヨイヒツァー	神聖自然学	8冊のうち 1冊 書籍	43.0 × 27.5		町田市立国際版画美術館
92	伝雪村周継	竹虎図	1幅	紙本墨画	室町時代(16世紀)	東京藝術大学
93	俵屋宗達	巢父図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀)	
94	長沢蘆雪	牧童図	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代中期(18世紀後半)	
95	尾形光琳	鷺図	1幅	紙本墨画	江戸時代中期(18世紀前半)	
96	鈴木其一	蘆雁図	1幅	絹本墨画	江戸時代後期(19世紀前半)	
97	伊藤若冲	鶏図	1幅	紙本墨画	江戸時代中期(18世紀後半)	
98	伊藤若冲	鶏図	1幅	紙本墨画	江戸時代中期(18世紀後半)	
99	北鼎如蓮	鯉図	1幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
100	松井慶仲	虎図	1幅	紙本墨画	江戸時代後期(19世紀前半)	
101	鎌形蕙斎	鳥獣略画式	1冊	版本	近代 *初版は寛政9年(1797)刊	
102	フェリックス・ブラックモン	疑問符	1枚	紙、エッチング	1909年	町田市立国際版画美術館
103	ゲルハルト・マルクス	猫	1枚	紙、木版	1921年	宮城県美術館
104	マリノ・マリーニ	騎手	1面	キャンバスに紙、油彩	1950年	宮城県美術館
105	ポール・ジューズ	座る白熊	1面	カルトン、油彩	20世紀前半	ランス美術館
106	ポール・ジューズ	木の上で横たわる黒豹	1面	板、リトグラフ、油彩、金	1914年頃	ランス美術館
107	森狙仙	群獣図巻	2巻	絹本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	摘水軒記念文化振興財団
108	円山応挙	百兔図	1幅	紙本着色	天明4年(1784)	
109	円山応挙	兔図	1幅	絹本着色	天明5年(1785)	
110	円山応挙	猛虎図	1幅	紙本着色	天明2年(1782)	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
111	森周峰	紅葉鹿図	1幅	絹本着色	江戸時代中期—後期(18世紀後半—19世紀前半)	
112	円山応挙	鯉魚図	1幅	絹本着色	天明元年(1781)	
113	円山応挙	鯉魚図	1幅	絹本着色	天明2年(1782)	
114	葛飾北斎	河豚と大根図	1幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	
115	橋本閑雪	唐犬	2曲1隻	絹本着色	昭和11年(1936)	大阪市立美術館
116	歌川国芳	猫と遊ぶ娘	1枚	団扇絵	弘化2年(1845)頃	

No.	作家名	作品名	員数	技法・材質	制作時期	所蔵
117	歌川国芳	七婦久人 寿老人	1枚	大判錦絵	弘化4年(1847)―嘉永元年(1848)頃	
118	歌川国芳	妙でんす十六利勘 降那損者	1枚	大判錦絵	弘化3年(1846)頃	
119	原在明	猫図	1幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	
120	狩野探幽	黒田忠之像	1幅	紙本着色	江戸時代前期(17世紀)	福岡市美術館(黒田資料)
121	小林古径	郊野	1幅	絹本着色	大正8年(1919)	愛媛県美術館
122	北川民次	ロバ	1面	キャンバス、油彩	昭和3年(1928)	愛媛県美術館
123	長谷川湊二郎	猫と毛糸	1面	キャンバス、油彩	昭和5年(1930)	
124	長谷川湊二郎	猫	1面	キャンバス、油彩	昭和41年(1966)	宮城県美術館
125	小倉遊亀	径	1面	板(ホモゲンホルツ)、着色	昭和41年(1966)	東京藝術大学
126	アンリ=ニコラ・ヴァン・ゴープ	あら、こんなところに!	1面	キャンバス、油彩	1804年	ランス美術館
127	テオデュール・リボ	犬を連れて少女	1面	キャンバス、油彩	1865年	ランス美術館
128	シャルル・アルマン・トマ	荷車を引く犬	1面	キャンバス、油彩	1874年	ランス美術館
129	ジャン=フランソワ・ミレー	バター作りの女	1面	キャンバス、油彩	1870年	吉野石膏コレクション(山形美術館寄託)
130	ピエール・ボナール	犬を連れて女性	1面	板、油彩	1906年	ランス美術館
131	オーギュスト・ルノワール	庭で犬を膝にのせて読書する少女	1面	キャンバス、油彩	1874年	吉野石膏コレクション(山形美術館寄託)
132	藤田嗣治	猫を抱く少女	1面	キャンバス、油彩	1949年	名古屋市美術館寄託
133	マリー・ローランサン	猫と女あるいは娼婦のプリンセス	1面	キャンバス、油彩	1920年	マリー・ローランサン美術館
134	マリー・ローランサン	マティナルとコケット	1枚	紙、鉛筆・色鉛筆	1944年頃	マリー・ローランサン美術館
135	マリー・ローランサン	お嬢さんのようなりザ	1枚	紙、鉛筆・色鉛筆	1944年頃	マリー・ローランサン美術館
136	テオフィル・アレクサンドル・スタンラン	冬、クッションの上の猫	1枚	紙、リトグラフ	1919年	町田市立国際版画美術館
137	パブロ・ピカソ	仔羊を連れてボール、画家の息子、二歳	1面	キャンバス、油彩	1923年	ひろしま美術館
138	田中一村	竹雀図	1幅	絹本着色	昭和時代(20世紀後半)	
139	夏目漱石	柿鳥図	1幅	紙本着色	大正時代(20世紀前半)	
140	伊藤若冲	亀図	1幅	紙本墨画	寛政3年(1791)	
141	伊年印	虎図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀)	
142	岡田半江	瑞竜図	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代後期(19世紀前半)	
143	長沢蘆雪	獅子の子落とし図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	
144	マリヌス・ファン・レイメルスワーレ派	聖ヒエロニムス	1面	板、油彩	16世紀	ランス美術館
145	アルブレヒト・デューラー	書斎の聖ヒエロニムス	1枚	紙、エングレーヴィング	1514年	国立西洋美術館
146	ティツィアーノ・ヴェチェリオ	荒野で読書するヒエロニムス	1枚	紙、エッチング	1565年	町田市立国際版画美術館
147		聖ヒエロニムスの悔悟	1枚	紙、木版、彩色	16世紀前半	町田市立国際版画美術館
148	徳川家光	兎図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀前半)	
149	徳川家光	枯木梟図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀前半)	久能山東照宮博物館
150	徳川家光	木兎図	1巻	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀前半)	下関市立歴史博物館寄託
151	徳川家光	木兎図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀前半)	
152	徳川家光	枯木に木兎図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀前半)	
153	徳川家光	木兎図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀前半)	養源寺(東京都文京区)
154	徳川家光	鳳凰図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀前半)	徳川記念財団
155	徳川家光	竹に雀図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀前半)	
156	徳川家光	竹に小禽図	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代前期(17世紀前半)	
157	徳川家光	鶏図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀前半)	
158	徳川家綱	枯木うそ鳥図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀後半)	
159	小林一茶	子犬図	1幅	紙本墨画	江戸時代後期(19世紀前半)	
160	上田公長	犬の子図	1幅	紙本墨画	嘉永3年(1850)	
161	仙厓義梵	犬図	1幅	紙本墨画	江戸時代後期(19世紀前半)	福岡市美術館(石村コレクション)
162	仙厓義梵	双狗図	1幅	紙本墨画	江戸時代後期(19世紀前半)	福岡市美術館(小西コレクション)
163	俵屋宗達	狗子図	1幅	紙本墨画	江戸時代前期(17世紀)	
164	伊藤若冲	子犬図	2幅	紙本墨画	江戸時代中期(18世紀)	
165	狩野探信	遊狗図	1幅	絹本着色	江戸時代後期(19世紀前半)	摘水軒記念文化振興財団(府中市美術館寄託)
166	養花翁	小狗図	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代後期―明治時代(19世紀)	立花家史料館
167	円山応挙	時雨狗子図	1幅	絹本着色	明和4年(1767)	府中市美術館
168	円山応挙	藤花狗子図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	
169	円山応挙	雪中三狗子図	1幅	絹本着色	天明6年(1786)	
170	円山応挙	狗子図	1幅	紙本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	高津古文化会館

No.	作家名	作品名	員数	技法・材質	制作時期	所蔵
171	円山応挙	雪中狗子図	1幅	絹本淡彩	安永7年(1778)	
172	円山応挙	雪柳狗子図	1幅	絹本着色	安永7年(1778)	
173	円山応挙	雪中狗子図	1幅	絹本墨画淡彩	天明4年(1784)	
174	円山応挙	狗子図	1幅	絹本着色	寛政4年(1792)	
175	長沢蘆雪	狗子図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
176	長沢蘆雪	狗児図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	
177	長沢蘆雪	菊花子犬図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	
178	長沢蘆雪	狗子遊図	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代中期(18世紀後半)	
179	長沢蘆雪	蓮華子犬図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	
180	長沢蘆雪	張月樵 親子犬図	2幅	紙本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	
181	吉村周圭	秋草遊狗子図	1幅	絹本着色	江戸時代中期(18世紀後半)	
182	喜田華堂	子犬図	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代後期—明治時代(19世紀)	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
183	福田平八郎	狗子	1幅	絹本着色	大正10年(1921)頃	

9. 池内晶子 あるいは、地のちからをあつめて

[令和3年12月18日-令和4年2月27日]

開催主旨:

絹糸を用いて大胆に空間を変容させる現代美術作家・池内晶子の美術館での初個展。

池内（1967年東京都生まれ）は絹糸をつないで帯や紡錘状のかたちをつくり、空間にはりめぐらして、周囲の空気を含みもつ作品を発表してきた。糸のみを用いて造形するミニマムで繊細な作品には一方で、絹糸という天然素材の持つ歴史や文化的背景、展示会場の場所性など、外部との多様な関わりが織り込まれている。池内は1980年代末より活動をはじめ、近年は東京都現代美術館、国立新美術館のグループ展や新潟での芸術祭に参加するなど活躍している。

府中市美術館では、3つの企画展示室の形状にあわせて、現場で糸をはりめぐらせ、新作を作りあげた。少しの風で震えて動くか細い絹糸が空間の隅々まで行き渡り、全体が呼吸をしているような緊張感に満たされた。

池内は調布と稲城で育ち暮らしてきた、多摩地域ゆかりの美術家である。もとより池内は、事前に展示会場のつくりや周辺の地理、歴史的特徴を調べ、周辺の環境に合わせて作品の形状を決めている。今回は、2階の展示室に向かう観客が体験する身体の上下の移動が、美術館の南を流れる多摩川によってつくられた高低差のある地形の特徴に重ねられて、作品が構想された。地域と作品のありようが、幾層にも重なった展示内容となった。

最終日前日のパフォーマンスでは、池内晶子が絹糸を切り、また巻きとって、作品を大きく変化させた。

観覧料:

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、小学生・中学生150円（120円）*（）内は20名以上の団体料金

主催:

府中市美術館

出品点数:

51点

入場者数:

9,260名（開催日数:56日、1日平均165名）

印刷物:

[カタログ] A4判96頁 [ポスター] B2判 [チラシ] A4判

関連イベント:

[アーティスト・トーク]

池内晶子（美術家）、1月16日（80名）、2月5日（70名）、いずれも企画展示室

[パフォーマンス]

池内晶子（美術家）、2月26日、企画展示室（約200名）

関連記事:

「緻密な手の痕跡を感じるアート」『ELLE Japon』2022年2月号

神山亮子「絹糸による繊細でしなやかな空間」新美術新聞 2022年1月1日

高山羽根子「社会の緊張映す 存在の明滅」東京新聞 2022年1月21日

赤塚佳彦「池内晶子 絹糸で空間を芸術に 歴史や時間に形を与える」日本経済新聞 2022年1月25日

大西若人「空間を描く絹糸」朝日新聞 2022年2月22日

小田原のどか「地球を感知する場」『芸術新潮』2022年3月号

関連放送:

『日曜美術館 アートシーン』NHK 2022年1月30日

出品作品

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	Knotted Thread-red-Φ1.4cm-Φ720cm	2021	絹糸	作家蔵
2	Knotted Thread-h220cm(north-south)	2021	絹糸	作家蔵
3	Knotted Thread-red-east-west-catenary-h360cm	2021	絹糸	作家蔵
4	Knotted Thread-red-east-west-catenary-h360cm+h37.5cm	2021	絹糸	作家蔵
5	Knotted Thread-red-east-west-catenary-h360cm+h37.5cm-L	2021	絹糸	作家蔵
6	Untitled	—	鉛筆、水彩、胡粉、紙	gallery 21-yo-j
7	Untitled	—	鉛筆、水彩、胡粉、紙	gallery 21-yo-j
8	Untitled	—	鉛筆、水彩、胡粉、紙	gallery 21-yo-j
9	April 29 & 30, 2016	2016	色鉛筆、紙	作家蔵
10	June 10, 2017	2017	色鉛筆、紙	作家蔵
11	April 30, 201	2016	色鉛筆、紙	作家蔵
12	May, 2016	2016	色鉛筆、紙	作家蔵
13	April 25, 2016	2016	色鉛筆、紙	作家蔵
14	2005	2005	色鉛筆、紙	作家蔵
15	2006	2006	色鉛筆、紙	作家蔵
16	(no date)	—	色鉛筆、紙	作家蔵
17	2012	2012	色鉛筆、紙	作家蔵
18	July 29, 2007	2007	色鉛筆、紙	作家蔵

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
19	Jul.21, 2007	2007	色鉛筆、紙	作家蔵
20	July 17, 2007	2007	色鉛筆、紙	作家蔵
21	2005	2005	色鉛筆、紙	作家蔵
22	2005	2005	色鉛筆、紙	作家蔵
23	Flesh	2005	エッチング	Edition Works
24	Gray	2005	エッチング	Edition Works
25	Yellow Ocher	2005	エッチング、雁皮刷り	Edition Works
26	Light Flesh	2005	エッチング、雁皮刷り	Edition Works
27	Daily Drawings	2011	水彩、鉛筆、糸ほか、ポストカード大の紙 128枚	作家蔵
28	Untitled	1990年代後半	モノタイプ	gallery 21-yo-j
29	January 21, 2021 - July 18, 2021	2021	顔彩、紙	作家蔵
30	October 2013	2013	鉛筆、紙	作家蔵
31	(府中市美術館の展示のためのドローイング)	2021	アクリル、顔彩、マニキュア、糸ほか、紙	作家蔵
32	(no date)	1990年代前半	木炭、紙	作家蔵
33	(コラーージュ、ドローイング)	1990年代後半	雑誌切り抜き、糸、インクほか、紙	作家蔵
34	May 25, 2007	2007	鉛筆、水彩、紙	作家蔵
35	September 2, 2009	2009	口紅、アクリル、紙	作家蔵
36	June 3, 2020	2020	色鉛筆、紙	作家蔵
37	July 9, 2019	2019	コラーージュ、紙	作家蔵
38	February 14, 2020	2020	鉛筆、紙	作家蔵
39	February 2013	2013	色鉛筆、紙	作家蔵
40	Daily Drawings	2021	鉛筆、色鉛筆ほか、ポストカード大の紙	作家蔵
41	Knotted Thread	2017	絹糸、ガラス	gallery 21-yo-j
42	The Cat of the Neighbors Touched Thread One Day in April 2014	2015	絹糸、ガラス	gallery 21-yo-j
43	They Touched Threads on Sep. 24th 2014	2015	絹糸、ガラス	作家蔵
44	Knotted Thread	2017	絹糸、ガラス	作家蔵
45	Untitled	1994	絹糸、ガラス棒、胡粉、木	作家蔵
46	Untitled (green)	—	糸(緑)、箱	gallery 21-yo-j
47	Untitled (blue)	1997	糸(青)	gallery 21-yo-j
48	Winding Silk Thread, June 21, 2003	2003	絹糸、巻芯、ボルト	作家蔵
49	Silk Thread	2003	絹糸、プラスチックケース	作家蔵
50	Untitled	2000	絹糸、書類箱、展示指示書ほか	作家蔵
51	Knotted Thread-white-22knots-north-south	2021	絹糸	作家蔵
資料1	府中市美術館の展示のための資料	2021		作家蔵
資料2	結び目の連なった絹糸	2021再構成	絹糸	作家蔵
資料3	絹糸	—		

10. ふつうの系譜 「奇想」があるなら「ふつう」もあります－京の絵画と敦賀コレクション

[令和4年3月12日-5月8日]

*令和2年3月14日～5月10日に開催した同展が、新型コロナウイルス感染症の影響により途中閉幕したため、令和4年に再度開催した。

開催主旨:

いま、江戸時代の画家の中で、伊藤若冲や曾我蕭白ら「奇想の画家」が人気である。彼らの作品は強烈で奇抜で、心を揺さぶる。しかし考えてみれば、「奇想」という魅力は、「そうではないもの」、つまり「ふつう」があつて初めて成り立つのかもしれない。

実際、若冲や蕭白がセンセーショナルに登場した時代、一方には、誰もが美しいと思うものを描く画家がいた。平安時代に生まれた美に命を与え続けてきた「やまと絵」の流派の画家もいわば、中国伝来の水墨画の良さを浸透させた「狩野派」の画家もいた。また、若冲や蕭白と同じ時代に、同じ京で、未知の美に挑み、彼らに劣らない人気を得た円山応挙や原在中、岸駒らもいる。

敦賀市立博物館には、300点を超える江戸時代から近代にかけての絵画コレクションがあるが、「奇想の画家」たちの作品は一点もなく、いわば「ふつう」の美しさをたたえる作品が徹底的に収集されている。今回、これまで当館でその一部を展示してきた敦賀市立博物館の全面的な協力を得て、同館のコレクションから選りすぐりの105点を紹介した。

観覧料:

一般700円(560円)、高校生・大学生350円(280円)、小学生・中学生150円(120円)* ()内は20名以上の団体料金

主催:

府中市美術館

特別協力:

敦賀市立博物館

出品点数:

105点

入場者数:

10,163名(開催日数:51日間、1日平均199名)

印刷物:

[カタログ] B5判変形252頁 [ポスター] B2判

[チラシ] A4判二つ折4頁

関連イベント:

[講座+対談イベント] 『ふつうの系譜』の歴史と魅力

講座『「ふつうの系譜」の画家たちと敦賀」加藤敦子(敦賀市立博物館学芸員)

講座『「ふつうの美」の輝き」金子信久(当館学芸員)

対談「語って楽しむ『ふつうの系譜』」加藤敦子(敦賀市立博物館学芸員)・金子信久(当館学芸員)

4月10日、府中市生涯学習センター講堂(136名)

[子ども向けイベント「ふつう探検隊!」] 会期中随時

[エントランス展示「新田義貞の光と影」] 会期中随時

関連記事:

橋本麻里「「ふつう」がなければ「奇想」もなかった!?美術史のメインストリーム(=ふつう)を俯瞰する、江戸絵画コレクション」『SIGNATURE』2022年5月号

金子信久「今に問う 完成された美」福井新聞 2022年5月4日

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	伝岩佐又兵衛	妖怪退治図屏風	江戸時代前期(17世紀前半)	紙本金地着色	個人蔵
2	作者不詳	牧童群牛図屏風	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
3	曾我蕭白	狸々と牛図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
4	曾我蕭白	山水図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本墨画	個人蔵
5	曾我蕭白	騎驢人物図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本墨画	個人蔵
6	曾我蕭白	山水図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本墨画	個人蔵
7	曾我蕭白	鍾馗図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
8	土佐光孚	仙洞御所修学寺御幸図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
9	土佐光文	清涼殿前歌舞図	江戸時代後期(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
10	土佐光貞	井出玉川図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
11	土佐光成	七夕図	江戸時代前期(17世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
12	土佐光起	伊勢図	江戸時代前期(17世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
13	土佐光起	菊鶉図	江戸時代前期(17世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
14	土佐光芳	藤原定家像	江戸時代中期(18世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
15	板谷広長	業平東下図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
16	土佐光孚	花丸文様屏風	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本金地着色	敦賀市立博物館
17	冷泉為恭	忠孝図	江戸時代後期(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
18	冷泉為恭	高台・日・月図	江戸時代後期(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
19	冷泉為恭	童子読書図	江戸時代後期(19世紀)	紙本墨画	敦賀市立博物館
20	冷泉為恭	春日禰宜内記朝臣像	江戸時代後期(19世紀)	紙本墨画	敦賀市立博物館
21	冷泉為恭	五位鷲図	江戸時代後期(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
22	田中訥言	鶴包丁図	文化8(1811)年	紙本墨画淡彩	敦賀市立博物館
23	浮田一蕙	隅田川図	江戸時代後期(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
24	狩野探幽	観音・鯉図	江戸時代前期(17世紀後半)	絹本淡彩	敦賀市立博物館
25	狩野探幽	朝陽鷹図	寛文6(1666)年	絹本着色	敦賀市立博物館
26	狩野探幽	山水図	江戸時代前期(17世紀後半)	絹本淡彩	敦賀市立博物館
27	狩野常信	東方朔・獅子・諫鼓図	江戸時代前期-中期 (17世紀後半-18世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
28	狩野栄信	菊慈童・菊図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
29	狩野養信	日月岩波図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
30	狩野永岳	楼閣山水図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
31	円山応挙	西王母・寿老図	安永5(1776)年	絹本着色	敦賀市立博物館
32	円山応挙	相生松図	寛政4(1792)年	絹本着色	敦賀市立博物館
33	円山応挙	紅葉白鹿図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
34	円山応挙	狗子図	安永7(1778)年	絹本淡彩	敦賀市立博物館
35	円山応挙	狗子図	安永7(1778)年	絹本淡彩	個人蔵
36	円山応挙	猛虎図	天明2(1782)年	紙本着色	公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
37	源琦	菊慈童図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
38	源琦	藍采和図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画淡彩	敦賀市立博物館
39	源琦	伊勢大輔図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
40	森狙仙	藤下遊猿図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
41	森狙仙	蜂猿図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
42	長沢蘆雪	雪中鴛鴦図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
43	長沢蘆雪	老子図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本淡彩	敦賀市立博物館
44	長沢蘆雪	紅葉狗子図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
45	松村景文	月・山桜小禽・山茶花鴛鴦図	天保8(1837)年	絹本着色	敦賀市立博物館
46	中村西溪	猛虎図	天保2(1831)年	紙本着色	敦賀市立博物館
47	松村景文	合歓花小禽図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
48	呉春	柳枝小禽図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
49	原在中	二見浦富士図	天保元(1830)年	絹本着色	敦賀市立博物館
50	原在中	天橋立図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
51	原在中	富士三保松原図	文政11(1828)年	絹本着色	敦賀市立博物館
52	原在中	富士山図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画淡彩	敦賀市立博物館
53	原在中	養老滝真景図	天保元(1830)年	絹本着色	敦賀市立博物館
54	原在中	海上飛鶴図	天保8(1837)年	絹本着色	敦賀市立博物館
55	原在中	嵐山図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
56	原在中	山州嵐山真景図	文政12(1829)年	絹本着色	敦賀市立博物館
57	原在中	風雪三顧図	天明6(1786)年	絹本着色	敦賀市立博物館
58	原在中	柳樹駿馬図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
59	原在明	桜鞠・紅葉鞠図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
60	原在明	氷室山水図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
61	岸駒	巖上双鶴図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
62	岸駒	花鳥図	天明元(1781)年	絹本着色	敦賀市立博物館
63	岸駒	白蓮翡翠図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
64	岸駒	南極老人図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
65	岸駒	富士山図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	敦賀市立博物館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
66	岸駒	松下福祿寿図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本淡彩	敦賀市立博物館
67	岸駒	猛虎図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本墨画	敦賀市立博物館
68	岸駒	寒山拾得図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
69	岸連山	竜虎図	弘化4(1847)年	紙本墨画	敦賀市立博物館
70	岸竹堂	群鳥図	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	絹本着色	敦賀市立博物館
71	岸良	猛虎嘯風図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画淡彩	敦賀市立博物館
72	岸礼	百福図	明治6(1873)年	紙本淡彩	敦賀市立博物館
73	幸野樸嶺	舟鈴図	明治14(1881)年	絹本着色	敦賀市立博物館
74	幸野樸嶺	雪中清水寺	明治時代(19世紀後半)	紙本淡彩	敦賀市立博物館
75	幸野樸嶺	嵐山雪景図	明治時代(19世紀後半)	絹本淡彩	敦賀市立博物館
76	幸野樸嶺	敗荷鴛鴦図	明治時代(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
77	塩川文麟	柳汀飛蛭図	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	絹本墨画金彩	敦賀市立博物館
78	谷口香嶠	賊兵襲多治見国長邸図	明治25(1892)年	絹本着色	敦賀市立博物館
79	高谷篁圃	三美人図	明治時代-大正時代 (19世紀後半-20世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
80	鈴木松年	朝陽蟻軍金銀搬入図	明治時代-大正時代 (19世紀後半-20世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
81	梅戸在貞	三保之松原図屏風	明治時代-大正時代 (19世紀後半-20世紀前半)	紙本金彩	敦賀市立博物館
82	土佐光貞	粟に鶉図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
83	土佐光貞	吉野・竜田図	享和2(1802)年	絹本着色	敦賀市立博物館
84	土佐光起	花籠図	江戸時代前期(17世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
85	田中訥言	嵐山図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
86	狩野雅信	菊花図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
87	張月樵	花鳥図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
88	原在正	七草図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
89	浮田一蕙	雪中狼図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本淡彩	敦賀市立博物館
90	原在中	菊に鶏図	天明5(1785)年	絹本着色	敦賀市立博物館
91	岸恭	四季花卉図屏風	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	紙本着色	敦賀市立博物館
92	橋本長兵衛(初代)	仙人図	安土桃山時代-江戸時代前期 (16世紀後半-17世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
93	菊池容斎	関ヶ原合戦図屏風	安政元(1854)年	絹本金地着色	敦賀市立博物館
94	原在中	竜図	天保5(1834)年	絹本墨画金彩	敦賀市立博物館
95	曾我二直庵	雪中山水図	江戸時代前期(17世紀)	紙本墨画金泥	敦賀市立博物館
96	浮田一蕙	徒然草図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
97	曾我二直庵	岩上鷹・柳枝鷹図	江戸時代前期(17世紀)	紙本墨画	敦賀市立博物館
98	狩野探信	紅葉賀図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
99	原在中	関羽図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本墨画	敦賀市立博物館
100	岸竹堂	華嚴滝図	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	絹本墨画	敦賀市立博物館
101	浮田一蕙	十界曼荼羅図	弘化4(1847)年	絹本着色	敦賀市立博物館
102	住吉広賢	楠公千早籠城図	江戸時代後期-明治時代 (19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
103	中島来章	三国志武将図屏風	文政5(1822)年	紙本金時着色	敦賀市立博物館
104	狩野永岳	山水図屏風	慶応3(1867)年	紙本墨画淡彩	敦賀市立博物館
105	岸良	琴棋書画図屏風	江戸時代後期(19世紀)	資本金地着色	敦賀市立博物館

1

3 | 常設展一覧

令和2年度

第1期	令和2年6月2日-7月5日 「江戸から現代まで」
第2期	令和2年7月18日-9月6日 「はなが遊園地」 「牛島憲之と昭和の絵画」
第3期	令和2年9月19日-11月23日 「コレクション名作選 Part I」
第4期	令和2年12月5日-令和3年2月28日 「コレクション名作選 Part II」 「府中・多摩の美術散歩」ほか
第5期	令和3年3月13日-5月9日 「江戸時代から現代まで」 「牛島憲之とその周辺」

令和3年度

第1期	令和3年5月22日-9月5日 「1960年代の美術表現」 「絵のなかであそぶ」 「風景を描く」
第2期	令和3年9月18日-11月28日 「コレクション名作選」
第3期	令和3年12月18日-令和4年2月27日 「『あとき』からの美術」 「府中・多摩の美術探訪」
第4期	令和4年3月12日-5月8日 「江戸時代から現代まで」 「人と風景のスケッチ」 「牛島憲之の世界」

2

2 | 作品貸出状況

展覧会名
会場 会期
貸出作品

令和2年度

「開館50周年 超・名品展」 兵庫県立美術館 令和2年6月2日-6月7日 本多錦吉郎《景色》	群馬県立近代美術館 令和2年9月26日-10月25日 剣持和夫《ドローイング》 剣持和夫《無題》
「奇才 ―江戸絵画の冒険者たち―」 東京都江戸東京博物館 令和2年6月2日-21日 山口県立美術館 令和2年7月7日-8月30日 あべのハルカス美術館 令和2年9月11日-11月8日 墨江武禪《月下山水図》	「大下藤次郎と水絵の系譜」 群馬県立館林美術館 令和2年10月10日-12月13日 島根県立石見美術館 令和2年12月25日-令和3年2月20日 アルフレッド・イースト《富士山》 吉田博《川のある風景》 鹿子木孟郎《野菜図》 鹿子木孟郎《ヴェネツィア風景》 鹿子木孟郎《水汲み》 鹿子木孟郎《野にすわる女》 鹿子木孟郎《クツムシと女》 鹿子木孟郎《砂浜の漁船》 満谷国四郎《舟のある風景》 吉田ふじを《少女と網を持つ少年》 吉田ふじを《桜の門前》 吉田ふじを《鳥居のある風景》
「生誕140年 熊谷守一展 わたしはわたし」 伊丹市立美術館 令和2年6月23日-7月31日 天童市美術館 令和2年9月26日-10月25日 奥田元宋・小由女美術館 令和2年11月3日-12月20日 石川県立美術館 令和3年2月11日-3月14日 熊谷守一《風景》	
「佐賀町エキジビット・スペース 1983-2000 現代美術の定点観測」	

吉田ふじを《鐘楼》
石川欽一郎《八瀬にて》
大下藤次郎《尾瀬》

「牛島憲之展 府中市美術館コレクション」

稲沢市荻須記念美術館 令和2年10月24日-12月6日

牛島憲之《自画像》
牛島憲之《あるサーカス》
牛島憲之《午後》
牛島憲之《貝焼場(午後)》
牛島憲之《五月》
牛島憲之《昼の月》
牛島憲之《春昼》
牛島憲之《田園風景》
牛島憲之《残夏》(寄託)
牛島憲之《邨》
牛島憲之《しろばえ》(寄託)
牛島憲之《貝を焼く工場》
牛島憲之《永代橋》(寄託)
牛島憲之《道》
牛島憲之《樽のある街》(寄託)
牛島憲之《街》
牛島憲之《麦秋の道》
牛島憲之《灯台》
牛島憲之《山の分譲地》
牛島憲之《夏の肖像》
牛島憲之《かま場》
牛島憲之《工場》
牛島憲之《タンクと煙突》
牛島憲之《風景》
牛島憲之《町工場》
牛島憲之《積わら》
牛島憲之《はね橋》
牛島憲之《冬》
牛島憲之《昼の水門》
牛島憲之《北海の漁港》
牛島憲之《灯台のある島》
牛島憲之《夕潮》
牛島憲之《ある日》
牛島憲之《えんとつ・タンク》
牛島憲之《風ぐ》
牛島憲之《裾野富士》
牛島憲之《坂道(神田淡路町)》
牛島憲之《午後》
牛島憲之《岩》
牛島憲之《しろばえ》
牛島憲之《五月の水門》
牛島憲之《郵便局(神田小川町)》
牛島憲之《煙突の風景》

牛島憲之《永代橋》
牛島憲之《風景》
牛島憲之《穂麦の頃》
牛島憲之《風》

「倉重光則+天野純治展 ミニマリズムのゆくえ」

横須賀美術館 令和2年11月4日-12月25日

天野純治《VOICE OF WIND # 04801》

「池袋への道—近世の歴史資料、池袋モンパルナス、森山大道」

豊島区立郷土資料館 令和3年1月23日-2月28日

鹿子木孟郎《北豊島郡高田村》

鹿子木孟郎《滝の川村字田端》

鹿子木孟郎《西ヶ原妙義坂》

鹿子木孟郎《巢鴨》

「筆魂 線の引力・色の魔力 —又兵衛から北斎・国芳まで—」

すみだ北斎美術館 令和3年2月9日-4月4日

葛飾北斎《糸瓜に雀図》(寄託)

北鼎如連《鯉図》(寄託)

安田雷洲《鷹図》

「電線絵画展 —小林清親から山口晃まで—」

練馬区立美術館 令和3年2月28日-4月18日

五姓田義松《旧東海道馬入茅ヶ崎間左富士》

牛島憲之《積わら》

令和3年度

「久野和洋の世界展」

池田20世紀美術館 令和3年6月24日-10月12日

久野和洋《地の風景・道のかたち》

「へそまがり日本美術 禅画からヘタウマまで」

北海道立近代美術館 令和3年7月17日-9月1日

児島善三郎《松》

円山応挙《時雨狗子図》

倉田三郎《正子像》

倉田三郎《果実図》

村山槐多《スキと人》

長沢蘆雪《郭子儀図》(寄託)

狩野山雪《松に小禽・梟図》(寄託)

仙厓義梵《柳に牛図》(寄託)

長沢蘆雪《狗子図》(寄託)

「寺田小太郎いのちの記録 —コレクションよ、永遠に—」

多摩美術大学美術館

前編 令和3年7月10日-9月19日

後編 令和3年10月2日-11月21日

難波田史男《恋の終わり》
難波田史男《北国の旅人》
野田裕示《WORK 1071》
野見山暁治《糸島の木》
前田昌良《Landscape in June: Ishiuchi9》
赤塚裕二《untitled 6197》
アド・ラインハート《10のスクリーンプリント》
村上友晴《A・MU・0088》
李禹煥《With Wind》
鄭相和《89-2-7》
宮崎進《腰掛ける女》
鴨居玲《道化師》
落田陽子《移動する庭》
山本麻由香《Big Foot》
川島秀明《crooked》
呉亜沙《My position -comings and goings-》
富田有紀子《723》
岩尾恵都子《ECO》
太田冬美《移ろいゆくもの》
ベン・ニコルソン《ゴブレットとマグカップ》

「長野県立美術館グランドオープン記念 森と水と生きる」
長野県立美術館 令和3年8月28日-11月3日
山本麻由香《Blue pond》

「開館30周年記念 物語る 遠藤彰子展」
平塚市美術館 令和3年10月2日-12月12日
遠藤彰子《光景》

「丸山晚霞没後80年・開館15周年 水彩の明星 心にしみる淡く
透き通る風景」
令和3年10月30日-12月26日
大下藤次郎《尾瀬》
丸山晚霞《藤澤》
三宅克己《風景》
三宅克己《多摩川》
吉田博《川のある風景》
吉田博《雨上がりの少年のいる風景》
吉田博《府中》

「没後80年 郷愁の画家 丸山晚霞 一師友とその時代」
長野県立歴史館 令和4年1月15日-2月17日
本多錦吉郎《景色》
本多錦吉郎《風景》
鹿子木孟郎《根津権現》
満谷国四郎《舟のある風景》
中川八郎《春の雨》

美術図書室

府中市美術館には、全国的に見ても美術図書室としては有数の規模を誇る、美術に関する資料を集めた図書室がある。ここでは、国内外の古い雑誌のバックナンバーや展覧会カタログを含む、主に近・現代の美術を中心とする文献資料や情報を収蔵しており、無料で公開している。

利用者は検索コンピュータを利用し、図書の自由な検索ができる。図書の貸出は行なっていないが、著作権の問題が生じない範囲内で複写を利用できる。また、企画展の開催にあわせて「展覧会関連本」の紹介コーナーを設けている。

蔵書一覧

		令和元年度以前	令和2年度	令和3年度	蔵書数
受入数(冊)		66,561	1,157	1,042	68,760
内訳	書籍	44,579	902	798	46,279
	雑誌	21,939	255	244	22,438
	その他(DVD、複製本など)	43	0	0	43

3 | 教育普及事業

1 | 公開制作

公開制作は、美術各分野の専門家を招聘し、公開制作室を中心に作品制作をしてもらい、そのプロセスとテクニックを公開する事業である。芸術家と市民が直接ふれあう機会をつくり、一般的な講座等では得られない創造性を媒介とした、生きた学習の場を提供することを目的としている。多岐にわたる美術ジャンル、すぐれた美術作家の中から、教育的な観点、現代的な話題性などを考慮し、ふさわしい作家を紹介している。各作家は、府中に一定期間滞在するか、または通って制作を行う。期間中、作家によってはアーティスト

トークやワークショップなど、観客が参加できるイベントを交え、現代の美術表現の紹介とともに教育普及活動としての複合効果もねらっている。また「公開制作アーカイブ」は、公開制作の記録を整理し、過去の資料とあわせて公開するものである。1プログラム(作家)ごとに、写真、映像、印刷物、書類等をまとめ、美術館活動の記録とするとともに、現代の作品制作の基礎資料の形成を目指している。

令和2年度

公開制作78 児玉幸子「脈動—溶けるリズム」 4/25-9/6
公開制作79 三沢厚彦「府中の森のアニマルルーム」9/18-11/23
公開制作80 L PACK.「アイビス・ア・カップのアトリエ」12/5-2021/2/28
公開制作アーカイブ 3/13-4/4

令和3年度

公開制作81 椛田ちひろ「縫れ、解け、すべては進みながら起こる」4/17-7/11
公開制作82 浅井裕介「種を食べた美術館」7/24-11/28
公開制作83 岩井 優「ハウツー・クリーンアップ・ザ・ミュージアム」12/18-2022/2/27
公開制作アーカイブ 3/12-3/31

公開制作 78

「脈動—溶けるリズム」

アーティスト：児玉幸子

会期：令和2年4月25日-9月6日

制作日：4月25日、5月10日、31日、6月20日、21日、7月5日、26日、8月2日、10日、20日、21日、30日

制作場所：公開制作室

関連イベント：

「ワークショップ」[「センサーを使って身体の動きで変化する映像を制作する」]
児玉幸子 8月20日、21日 市民ギャラリー 12組30名
「アーティストトーク」[「脈動—溶けるリズム」]児玉幸子、加藤有希子(ゲスト講師、埼玉大学准教授、近現代美術史) 8月30日 講座室 34名

制作内容：

児玉幸子は、2000年代よりコンピューターのプログラムにより変化する磁性流体をつくり、日本のメディアアートの一角を担ってきた。作品《突き出す、流れる》(SIGGRAPH Art Gallery 入選、2001年)で、第5回文化庁メディア芸術祭インタラクティブ部門大賞、日本のメディア芸術100選に選ばれる。

公開制作は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言発令下で実施された。美術館は休館となり、幸い近隣に住んでいた児玉は感染症対策を行なった上で制作を進めることに合意、無観客での公開制作という異例のプログラムとなり、プロセスの公開はウェブでの報告が中心となった。

後半に美術館は開館したが、社会全体が未知のウィルスの動向を探る緊張の中で、特に来館者との接触に最大の注意を払ってプログラムが進められた。

公開制作で児玉は、2種類の作品、《接続する二つの山—「見えない渦の山」と「生息地—終わらない彫刻」》と《浸透—溶ける視覚》に取り組ん



だ。前者は、磁性流体がリズムカルに動く彫刻でもあり、後者は、細い窓枠のようなスリットを通して輝くLEDの光の色調が徐々に変化する絵画のような、いずれも動きをはらんだ作品となった。

制作は、配線コードを短く切ったり、フルカラーLED(発光ダイオード)をはんだごてで規則正しく取り付けたりと、地道な作業が続いた。パソコンでのプログラミングも並行して進められ、物と情報が合体してメディアアートが生まれる様子が実感できる内容となった。

ワークショップ：

児玉が開発したモーションセンサーを用いたワークショップ。参加した子どもたちが、児玉が教鞭を執る電気通信大学の学生とともに、身体の動きに合わせて変化するCG映像をつくった。

公開制作 79

「府中の森のアニマルルーム」

アーティスト:三沢厚彦

会期:令和2年9月18日-11月23日

制作日:三沢厚彦による公開制作 9月19日、27日、10月10日、11月7日
ゲストとの公開制作 9月26日(O JUN・画家と)、10月4日(衣川明子・画家と)、10月17日(伊藤誠・彫刻家と)、10月24日(小林孝亘・画家と)、11月1日(狩野哲郎・美術作家と)

制作場所:公開制作室

制作内容:

開館20周年の節目を飾る記念回は彫刻家、三沢厚彦に託された。三沢は、木彫という伝統技法をベースにユーモラスでゆるぎない存在感をもつ動物像をつくり、現在の日本を代表する彫刻家である。

感染状況が落ち着き、9月から11月の公開制作はすべて開館中の美術館で実施することができた。制作室前面をおおうガラスが飛沫防止の役目を担い、観客はガラス越しに外から眺めることで、作家との直接の接触が避けられた。秋にはウェブサイトでの配信事業を立ち上げ、ライブで公開制作の様子を配信することで、リモートでの鑑賞の回路を確保した。

三沢は彫りかけの木材を1体運びこみ、クマの制作に取り掛かった。墨汁でしるしをつけ、彫刻刀で削っていく。館内に心地よい木槌の音が響き、樟(クスノキ)のスパイスでさわやかな香りがただよった。

間に5人のゲストとの共同制作が行われた。画家や彫刻家が1人ずつ訪れて、三沢と緊張感に満ちた楽しい饗宴を繰り広げた。三沢はクマに加えて、ゲストの肖像を粘土による塑像か油絵でつくり、あわせて3体の頭像と2点の油彩画を完成させた。最後に、すべての成果物を公開制作室内に並べた。続けて、12月5日から始まった企画展「メイド・イン・フチュウ 公開制作の20年」に、これらの作品をほぼそのまま、構成を変えて出品した。



配信事業:

ゲストとの公開制作の様子をライブで配信し、その後アーカイブ公開した。
※2020年度末の視聴回数を計上

- ・セッションvol.1 三沢厚彦公開制作 with O JUN 419回
2020年9月26日ライブ配信 5時間13分16秒
2020年9月30日アーカイブ配信 4時間29分18秒
- ・セッションvol.2 三沢厚彦公開制作 with 衣川明子 246回
2020年10月4日ライブ配信 5時間24分51秒
2020年10月5日アーカイブ配信 5時間4分27秒
- ・セッションvol.3 三沢厚彦公開制作 with 伊藤誠 121回
2020年10月17日ライブ配信 5時間27分32秒
2020年10月19日アーカイブ配信 4時間57分52秒
- ・セッションvol.4 三沢厚彦公開制作 with 小林孝亘 111回
2020年10月25日ライブ配信 5時間50秒
2020年10月26日アーカイブ配信 4時間48分49秒
- ・セッションvol.5 三沢厚彦公開制作 with 狩野哲郎 158回
2020年11月1日ライブ配信 5時間23分40秒
2020年11月2日アーカイブ配信 4時間59分54秒

公開制作 80

「アイビス・ア・カップのアトリエ」

アーティスト:L PACK.

会期:令和2年12月5日-令和3年2月28日

制作日:

12月5日、6日、12日、1月9日、10日、24日、30日

制作場所:公開制作室

関連イベント:

[キックオフトーク]「アイビス・ア・カップは何をつくるのか?」12月5日

ゲスト:池田光宏(美術家・2014年公開制作) 18名

[クロージングトーク]「アイビス・ア・カップの思考メソッド」2月28日

ゲスト:フクナガコウジ(デザイナー) 12名



制作内容:

L PACKは1984年生まれの小田桐奨と中嶋哲矢によるユニット。2007年より活動を始め、アート、デザイン、建築、民藝などの思考や技術を横断しながら、最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせて、全国でユニークなプログラムを実行してきた。

今回、公開制作の20年間を振り返る展覧会を2階企画展示室で行う間、1階の公開制作室でプログラムを俯瞰するような公開制作に取り組んでほしいという美術館の要望に、やはりユニークなかたちで応えてくれた。

タイトルにある<アイビス ア カップ>という聞き慣れない響きは、L PACKが府中市美術館のローマ字表記を逆さ読みして造語した。<アイビス ア カップ>=ibihshucufのアルファベットを逆からたどるとfuchushibi=府中市美となる。<アイビス ア カップ>という架空のアーティストが部屋を使うという設定で、つることと公開制作を実行することにそれぞれアプローチした。

L PACKは、来館者や過去の公開制作作家へのアンケートを集めて、架空のアーティストの想像力をふくらませ、<アイビス ア カップ>として、その作品としてドローイング、彫刻作品(習作)、写真コラージュをつくりあげた。不在のアトリエの主な創造性にさまざまに思いをめぐらせることになり、まさに公開制作を俯瞰した公開制作となった。

配信事業:

- ・キックオフトーク「アイビス・ア・カップは何をつくるのか?」 24回
1時間19秒 2021年1月22日アーカイブ公開
- ・公開制作 56回
2021年1月24日ライブ配信 2時間10分58秒
2021年1月25日アーカイブ配信 1時間52分12秒
- ・クロージングトーク「アイビス・ア・カップの思考メソッド」 12回
2021年2月28日14:00～15:00公開(インスタグラムでライブ配信)

公開制作 81

「纏れ、解け、すべては進みながら起こる」

アーティスト: 栢田ちひろ

会期: 令和3年4月17日-7月11日

制作日:

4月17日、24日、5月1日、8日、22日、29日、6月5日、12日、19日、26日

関連イベント:

[ワークショップ]「#fuchulines」 7月3日 市民ギャラリー 12名

[アーティストトーク・演奏会] 7月10日 市民ギャラリー ゲスト: 山口恭子(作曲家)、木村麻耶(琴奏者) 47名

制作内容:

栢田ちひろは、絵画の枠を超えて、「見るができない」ものをかたちにする美術家。絵の具やボールペンなどを用いて色を重ね、現実の影のような深い世界を生み出している。2020年に当館で開催した企画展「日本の美術を貫く炎の筆<線>」に出品した大型作品は、多くの観客の注目を集めた。

公開制作では音楽と絵画の共作を試みた。画家の栢田ちひろと作曲家の山口恭子が、同時進行でそれぞれの制作を進め、途中経過を共有した。コロナ禍で隔離された事態そのままに両者が時間と空間を並走させて、それぞれにゴールを目指すこととなった。

栢田は公開制作室を掃除し、木工により壁を整え、キャンバス地を壁に取り付けた。そこに、グローブをはめた手に絵具をひたして、全身をつかって塗りつけていき、一面モノクロームの絵画を描いた。ボールペンを使った線描作品もつくり、最終的にそれらを組み合わせて空間を構成した。

あいにく感染症拡大防止対策として美術館が休館に入ってしまった。1年前の休館時と同じく、状況を判断し栢田と相談した上で、制作を継続する



ことを決め、栢田は無観客で第3回目から5回目までの制作を行った。前後の制作とワークショップ、トークは開館中の美術館で行った。

ワークショップ:

講師を栢田ちひろ、栢田有理(美術家)がとめ、小学生から一般まで幅広い年齢層が参加した。令和3年度初めての対面式ワークショップで、より広い場所に会場を変更し、普段より時間をかけて準備して、最善の感染症対策で臨んだ。栢田の作品を紹介した後、参加者はリズムや身体の動きをさまざまに変えて線をひいて楽しんだ。

アーティストトーク・演奏会:

栢田が自身の活動と公開制作について振り返ったあと、山口恭子作曲の新作を琴奏者の木村麻耶が初演した。多くの人が琴の音を同じ空間で味わい、コロナ禍での久しぶりの邂逅を喜んだ。

「種を食べた美術館」

アーティスト: 浅井裕介

会期: 令和3年7月24日-11月28日

制作日:

7月24日、25日、30日、31日、8月1日、10月2日、3日、5日、6日、11月5日

作品展示: 11月6日以降

展示期間中の土・日曜・祝日13:00～17:00は、当館普及員によるガイドあり(14名 2867名)

関連イベント:

[ワークショップ]「黄金色の日常」

11日13日 美術館周辺 高校生以上 10名

[アーティストトーク]11日14日 講座室 30名

[公開制作作家派遣連携授業]

・府中第十小学校6年生4クラス 121名 10月18日1・2・3・4校時

配信事業:

・公開制作ライブ配信 10日間の公開制作日

制作内容:

浅井裕介は、土やマスキングテープなど身近な素材を用い、大きな空間を使って奔放に制作する。これまでさまざまな土地を訪れ、場所に返答するように、想像力と詩情豊かに作品をつくってきた。今回は立体作品をつくり、動物から芽が生え木々が茂り、小さな生き物が集まっていった。小さな種が芽をだし、木になり森になるように、豊かな大地へと細かな生き物たちが増えていくイメージが生まれた。浅井が創造する多様な植物や動物たちの姿を通して、生命の世界のかがやきを伝える公開制作となった。

制作にあたって浅井はまず、12mmと18mmの厚手の合板、水色のスタイロフォーム(断熱材)を、たくさん持ち込んだ。ジグソーを使って曲線で切り抜き、ビスや接着剤を使って貼り合わせ、それらを組み合わせた。表面をジェッソや土が混ぜられた塗料で覆い、さらにその上に、茶色いテラコッタ粘土で肉



付けした。床面にはマスキングテープで植物のような文様を描いた。やがてマスキングテープは室外の床やエントランスランスロビーの太い柱に伸びていった。マスキングテープを貼り、ペンで描いていく「マスキングプラント」が、美術館の空間にちらばり、伸びやかに呼吸をしていた。

作業には多くのサポーターが集まり、制作はにぎやかに進んだ。浅井は人々に温かく声をかけ、ものづくりの楽しみを共有していった。

公開制作作家派遣連携授業:

公開制作室と府中第十小学校の教室をオンラインで結び、6年生を対象とした授業を行った。浅井の説明を聞いて、子どもたちが「マスキングプラント」を学校で作った。

ワークショップ:

「黄金色の日常」と題したワークショップでは、カメラも携帯も持たずに、美術館の周辺をゆっくりと散歩し、秋のひとつきを作家と楽しんだ。

「ハウツー・クリーンアップ・ザ・ミュージアム」

アーティスト: 岩井 優

会期: 令和3年12月18日-令和4年2月27日

制作日:

12月18日、19日、26日、1月16日、22日、29日、30日、2月12日、13日、17日、18日

関連イベント:

[キックオフトーク]「ハウツー『ハウツー・クリーンアップ・ザ・ミュージアム』」

12月18日 12名

[アーティストトーク]2月23日 市民ギャラリー 53名

[池内晶子展関連パフォーマンス出演]2月26日 2階企画展示室

[公開制作作家派遣連携授業]

・「ピカピカおそうじ」 2月16日 府中第九小学校第2学年2クラス 53名

・成果作品展示@市民ギャラリー 2月23日-27日

制作内容:

岩井優は、2000年代前半から洗浄や清掃をテーマに定め、映像やインスタレーション、パフォーマンスを制作、発表してきた。公開制作では、岩井は日頃は表に見えない美術館の清掃活動に、色々な角度からスポットライトを当てた。

制作は「ハウツービデオの制作」「特撮映像の制作」「21年分のホコリ調査と採取」を軸に進められた。12月中、岩井は美術館の建物や沿革を調べ、作業計画を練り、必要な材料を揃えた。年初から2月初旬にかけて、ハウツービデオの撮影が6日間行われ、岩井が声かけして集まったボランティアのべ32名が参加した。撮影は、エントランスホールや展示室など一般に公開されているエリアと、地下駐車場や閉架図書室、会議室、機械室、収蔵庫などのバックヤードの両方で行われた。参加者は岩井と同じく清掃スタッフのユニフォームを身につけ、架空の清掃活動を、それらしく真面目に演じた。一方で模型づくりも12月から着々と進み、岩井は石膏板を型取って表面に模様を描き、建築の特徴である石灰岩を再現した。垂直のガラス面や湾曲したパネル



部分も器用に手づくりし、美術館模型を完成させた。2月半ばに模型を市民ギャラリーに移動し、清掃スタッフの1人に出演してもらって、清掃行為が結果として破壊に至ってしまうというプロットの、短い映像を収録した。そしてアーティストトークを終えて迎えた最終日に、3番目の作品のための、20年分のホコリについてのインタビューと採取を行ったのだった。こうして、茶目っ気たっぷりに清掃スタッフになりました岩井の、来館者やスタッフを巻き込んだ2ヶ月半の公開制作が幕を閉じた。

公開制作作家派遣連携授業:

「ピカピカおそうじ」と題し、府中第九小学校第2学年2クラスに授業を行った。正月の儀礼に用いるほうき「たまはばき(玉箒)」に着想した授業で、子どもたちは玉箒の現代版をつくり、パフォーマンスを行った。ほうきの飾りにはLED電球、紙テープやリボン、アルミ箔などを用いた。成果作品を市民ギャラリーで展示した。

2 | アートスタジオ

アートスタジオは、10代の青少年を対象に美術の学習を支援するプログラムとして、「ティーンズスタジオ」の名称で平成19年度にスタートした。

土曜日午後を中心に、若手アーティストである講師の指導とボランティアスタッフのサポートにより、さまざまな表現活動を楽しみ、また学芸員のレクチャーや展覧会を鑑賞する活動を行った。平成24年度からは対象者を広げたワークショップシリーズとして、名称を「アートスタジオ」に改めて再スタート。平成21年度から第1土曜日に誰でも手軽に体験できるオープンプログラムが、平成24年度からは最終土曜日に美術の理論等をレクチャーするトークプログラムが加わった。

2020年以降は、コロナ禍で対面プログラム実施が困難となったため、オンラインでの開催を手探りで開始した。「アートスタジオ☆WEB」として、通信でのワークショップやトークプログラム、プログラム配信を実現した。感染状況を鑑みながら、対面のワークショップも徐々に再開。少人数制、予約制で、助手やボランティアの人数も制限して行った。開催時間を短縮、換気や手指消毒につとめ、また道具や材料を個別に使えるようにした。参加者がひとつの作品を作るといった交流の要素は避けなければならない、プログラム設計にも少なからず影響を与えた。

各事業は概ね次の順序で記載した。

名称、開催日、場所(記載のない場合は創作室)、対象・参加人数(通信の場合は再生回数)、講師名、内容

令和2年度

■アートスタジオ

・夏休み自由工房「つくってみよう!手のひらサイズの小さな世界」

8月22日、23日

小中学生(3年生以下は保護者同伴) 24名

馬場稔郎(彫刻家)・大迫春菜(彫刻家)

内容:木材などを用い、自分の好きなものをミニチュアサイズでつくる。

感染症予防のため少人数制とし、道具の共有を避け、消毒と換気に努めた。

■アートスタジオ トークプログラム

・「美術館の楽しみ方〜最終回 学芸員」

1月25日

オンライン 13名

武居利史(当館学芸員)

内容:2020年2月に予定していた対面トークプログラムをオンラインで実施。

美術館の専門職として働く学芸員やスタッフの役割を考えた。

■アートスタジオ☆WEB

・「トントントン!自然をつかって染めてみよう♪」

8月8日公開

4歳以上(保護者同伴) 236回

渡辺望(アーティスト)

内容:草花の「たたき染め」の技法をつかって布を染める。

・「アマビエを木(かまぼこ板)に描こう」

9月8日公開

4歳以上(保護者同伴) 206回

山内若菜(画家)

内容:台所によくある身近な素材を使ってアマビエを描く。

・「手ぶくろが動物に大変身!“ゆるかわ”ぬいぐるみ」

10月22日公開

4歳以上(保護者同伴) 160回

林瑠璃(テキスタイルデザイナー)

内容:手袋や軍手を使って、動物のぬいぐるみをつくる。

・「和紙でアレンジ!手づくりレターセット」

1月18日公開

4歳以上(保護者同伴) 134回

須恵朋子(画家)

内容:絵の具で着色した和紙をコラージュし、レターセットをつくる。

・「今日のわたしは、こんなきもちで、こんなかお?」

3月11日公開

4歳以上(保護者同伴) 21回

フクシマチヒロ(画家)

内容:身近な物を組み合わせて、自分の気持ちにあったお面をつくる。

令和3年度

■アートスタジオ

・夏休み自由工房「ビックでビック!!昆虫を作ろう」

8月12日、13日、14日、15日

小学3~6年生 44名

馬場稔郎(彫刻家)・大迫春菜(彫刻家)

内容:昆虫をテーマに、実物より大きいサイズで虫を木工で作った。

・「つくって、あそぶ!あそぼくす!」

8月22日

市民ギャラリー

小学生以上 11組21名

山内佑輔・水野明香(山と水の図工室)

内容:図工教育の専門家を講師に迎えて実施。オリジナルツール「あそぼくす」に好きな材料や道具を入れ自分だけの箱を作った。

・「トントントン!自然をつかって染めてみよう」

9月23日

4歳以上(未就学児は保護者同伴) 19名

渡辺望(アーティスト)

内容:前年度の配信プログラムを対面式で実施するプログラムの1回目。美術館の周囲で採取した草花を使い、「たたき染め」をしてバッグをつくった。

・「アマビエを木(かまぼこ板)に描こう」

10月17日

4歳以上(未就学児は保護者同伴) 22名

山内若菜(画家)

内容：配信プログラム内容の対面式での実施第2回。台所にある身近な素材を使ってアマビエを描いた。

- ・「手ぶくろが動物に大変身!“ゆるかわ”ぬいぐるみ」

11月28日 4歳以上(未就学児は保護者同伴) 21名
林瑠璃(テキスタイルデザイナー)

内容：配信プログラム内容の対面式での実施第3回。手袋や軍手を使い動物のぬいぐるみを作った。

- ・「和紙でアレンジ!手づくりレターセット」

1月16日 4歳以上(未就学児は保護者同伴) 13名
須恵朋子(画家)

内容：配信プログラム内容の対面式での実施第4回。絵の具で着彩した和紙をコラージュし、レターセットを作った。

■アートスタジオ☆WEB 通信プログラム

- ・「わたしのなんでだろう?ありえない世界を表現!」

8月2日 オンライン 小学生以上(小学生は保護者同伴) 8名

ひろば100(末永幸歩・竹美咲)

内容：家庭にある身近な物を材料とし、発想に重点をおき、創作活動を楽しんだ。

- ・「今日のわたしは、こんなきもちで、こんななお?」

3月27日 オンライン 小学生以上 7名

フクシマチヒロ(画家)

内容：家にある素材を組み合わせて、さまざまな表情の顔をつくった。

■アートスタジオ☆WEB トークプログラム

- ・「アートでトリップ!コレクションでめぐる地球散歩(全3回)」

オンライン 高校生以上

「第1回 アジア編」11月27日 6名

「第2回 ヨーロッパ編」1月29日 6名

「第3回 アメリカ編」3月26日 7名

武居利史(当館学芸員)

内容：コレクションから海外風景を描いた絵画を選び、学芸員の案内で鑑賞した。

■アートスタジオ☆WEB

- ・「つくって!つなげて!あそんで!ペーパーブロック」

9月9日公開 4歳以上対象

林瑠璃(テキスタイルデザイナー)

内容：厚紙からできたパーツを組み合わせ、立体作品をつくって遊ぶ。

- ・「まちなかパブリックアート探検!～府中公園編～」

10月27日公開 小学生以上対象

武居利史(当館学芸員)

内容：身近な場所にあるパブリックアートを見つけ、ゆっくり鑑賞して楽しむ。

- ・「馬を描こう!馬のからだを理解する」

1月12日公開 中学生以上対象

山内若菜(画家)

内容：描くことを通して、馬への理解を深める。

- ・「馬を描こう!馬の生命感を表現する」

1月12日公開 中学生以上対象

山内若菜(画家)

内容：生き生きとした馬の生命感を描く。

- ・「紙粘土でキラキラ☆ランプシェード」

3月19日公開 小学生以上対象

山口健児(画家)

内容：クリアカップに紙粘土や飾りをつけて季節のランプシェードを作る。

- ・「想像のお庭を作ろう」

3月27日公開 ハサミが使える年齢から対象

杉浦藍(美術作家)

内容：散歩しながら色を探して撮影した写真を素材にして、色紙で植木を作る。

- ・「いろいろ色のカケラをつくろう▲□◆」

3月28日公開 10歳位以上対象

渡辺望(アーティスト)

内容：クレヨンを使って、いろいろな色のカケラをつくる。

- ・「関根伸夫《位相-大地1》—手話で鑑賞する府中市美術館コレクション」

3月29日公開 中学生以上(主に聴覚障害者)対象

講師：武居利史(当館学芸員)、手話：小野寺敏雄(ろう通訳)、協力：手話マップ(木下知威)

内容：関根伸夫《位相-大地1》を手話を交えて作品をじっくり鑑賞する。

3 | ワークショップ

ワークショップは、集まった受講者たちが体験を共有しながら学習するプログラムである。開館以来、講師に絵画、彫刻、現代美術、デザインほか幅広い分野の専門家を招き、さまざまな発見を楽しめるプログラムを展開している。就学前の子どもから成人までの年齢層に対し、それぞれが取り組めるプログラムを準備してきた。親子で参加したり、異年齢の参加者の交流を促したりと、ふだんの生活とはちがう体験の機会を提供している。

ほかに、展覧会事業や公開制作プログラムに関連したワークショップや、外部教育機関や市民団体との連携によるワークショップを開催している。

コロナ禍で対面事業の実施が困難となり、ワークショップの実施数は少なくなった。

令和2年度

・「公開制作関連ワークショップ センサーを使って身体の動きで変化する映像を制作する」

8月20日、21日 市民ギャラリー 12組30名

講師：児玉幸子(メディアアーティスト)

内容：児玉が開発したモーションセンサーを用いたワークショップ。参加した子どもたちが、電気通信大学の学生とともに、身体の動きに合わせて変化するCG映像をつくった。

令和3年度

・「公開制作関連ワークショップ #fuchulines」

7月3日 市民ギャラリー 12名

講師：栢田ちひろ、栢田有理(美術家)

内容：小学生から一般まで幅広い年齢層が参加した。栢田の作品を紹介した後、参加者はリズムや身体の動きをさまざまに変えて線をひいて楽しんだ。

・「公開制作関連ワークショップ 黄金色の日常」

11日13日 美術館周辺 高校生以上 10名

講師：浅井裕介(画家)

カメラも携帯も持たずに、美術館の周辺をゆっくりと散歩し、秋のひとつきを作家と楽しんだ。

4 | 美術鑑賞教室

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館建築と諸施設を訪れ、作品を鑑賞する学習プログラムである。「展示作品の鑑賞を通して、美術作品のよさや美しさ、あらわし方への関心を高め、豊かな情操を養うとともに、自らが主体的に意欲や興味を持って鑑賞する態度を育てる」ことを目的としている。小学校は学年単位の団体鑑賞(図工教員と教育普及担当学芸員が事前に打ち合わせをし、当日は学芸員が館内の案内と作品解説を行い、授業内容の向上を図っている)、中学校は各校の鑑賞計画に基づいて生徒の個別鑑賞に取り組んでいる。

平成11年から継続してきた鑑賞教室にもコロナ禍の影響が及んだ。令和2年度は、緊急事態宣言および感染症対策のため、予定していた22校のう

ち8校の来館による鑑賞教室が中止となった。うち5校については、学芸員が学校に出向き、動画等を用いて鑑賞教室を実施した。また中止となった8校の対象児童には1年間有効の家族招待券を配布した。

令和2年度

府中市立小学校美術鑑賞教室(19校・25回)	小学生1,994名、引率87名
府中市立中学校美術鑑賞教室(9校)	974名

令和3年度

府中市立小学校美術鑑賞教室(21校・29回)	小学生2,102名、引率125名
府中市立中学校美術鑑賞教室(10校)	1,271名

5 | 教員研修会

学校教員を対象にした図工・美術に関する研修会や研究会を開催している。美術館には本物の美術作品があり生きた鑑賞学習が体験でき、関係する作家や学芸員といった人的資源や情報が集積しており、地域の図工・美術教育の研修や研究に貢献している。教育委員会や教員の自主的な研究団体との共催など多様なかたちで受け入れている。研究団体による大会の会場となるなど、府中市内だけでなく東京都や全国の図工・美術教育の教員と連携を図っている。

令和2年度

・府中市教育研究会「美術鑑賞研修」

1回 22名

・中堅教諭社会体験研修

立川市立立川第四中学校 1日 1名

小金井第一中学校 3日 1名

令和3年度

・「中学生のためのギャラリーツアー事前研修会」

7月29日

講師：武居利史(当館学芸員)

府中市立小中学校教員9名

・「中学生のためのギャラリーツアー」

府中市美術館・府中市立小中学校教育研究会図工美術部共催事業

7月30日 常設展示室

主に中学生 約60名、府中市立小中学校教員8名

6 | 団体鑑賞支援

団体鑑賞支援は、府中市立小中学校の美術鑑賞教室を除く、学校教育や社会教育の団体・機関による鑑賞を、学芸員等が解説や指導にあたることで支援する活動を指す。府中市立小中学校において、美術鑑賞教室以外にも学校独自の活動として鑑賞の授業や見学が行われている。また高等学校、特別支援学校など、さまざまな校種において美術館の利用を受け入れている。

令和2年度

- ・府中市立浅間中学校2年生団体鑑賞
9月2日、3日、4日 生徒195名、引率7名
- ・「羽村市生涯学習センターゆとろぎ市民講座」
9月22日 一般16名
武居利史(当館学芸員)
- ・府中市適応指導教室「けやき教室」
10月27日 小学生、中学生児童生徒13名、指導員6名

令和3年度

- ・三鷹市立第一中学校
6月15日 12名

- ・武蔵村山市立第九小学校5年生団体鑑賞
6月29日 児童46名、引率5名
- ・桐朋女子高等学校
7月6日 4名
- ・府中市立浅間中学校2年生団体鑑賞
9月24日、30日 生徒189名、引率5名
- ・立川市地域文化振興財団
11月19日 19名
- ・府中市立府中第十小学校見学事前研修
1月9日、14日、15日、16日、18日、20日、21日 32名
- ・府中市立府中第十小学校3年生団体鑑賞
1月27日 児童109名、引率5名、アート・コミュニケータ21名
- ・中央大学附属中学校・高等学校美術部
3月18日 28名

7 | 大学等連携事業

●博物館実習

平成13年度から開始している。多くの大学からの要望に公平に応えられるよう、各大学1名ずつ受け入れている。なお、令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、受け入れ人数の上限を8名に制限し、実習期間を4日間に短縮した。

令和2年度

実習生 8名 8月18日～21日(4日間)

令和3年度

実習生 8名 8月17日～20日(4日間)

[受け入れ大学名(五十音順)]

青山学院大学、跡見学園女子大学、学習院大学、実践女子大学、清泉女子

大学、多摩美術大学、中央大学、筑波大学、帝京大学、東京学芸大学、東京工芸大学、東京都立大学、東京造形大学、武蔵野美術大学、明星大学

●大学連携事業

令和2年度

- ・「彫刻と対話法IV」
8月25日～29日
主催：武蔵野美術大学
会場：市民ギャラリー
入場者数：167名
- ・千葉大学教育学部 博物館学芸員資格取得コース
12月6日 大学生11名、引率1名
- ・東京都立大学システムデザイン学部
1月10日 オンライン 大学生10名、引率1名

令和3年度

- ・武蔵野大学教育学部教育学科
11月6日 29名、引率1名
- ・中央大学文学部美術史美術館コース
7月11日 33名
- ・十文字女子大学
11月13日 60名
- ・都立大学東京システムデザイン学部 美術博物館実習
12月18日 学生11名、引率1名
- ・千葉大学教育学部 博物館学芸員資格取得コース
1月22日 学生12名、引率1名

●保育連携事業

令和2年度

- ・子育てひろば「はじめてアート」
保育支援課地域支援担当保育士、当館学芸員
8月20日、12月18日 4回、2日
0歳児とその保護者 35組 72名

令和3年度

- ・子育てひろば「はじめてアート」
保育支援課地域支援担当保育士、当館学芸員
4月21日、6月24日、12月24日 6回、3日
0歳児とその保護者対象 36組 62名
8月緊急事態宣言発令、2月まん延防止等重点措置発令により休止

4 | ボランティア活動

開館以来、ボランティア活動は企画展や公開制作などの事業の際、その都度募集して実施してきた。平成18年度からは、市民との協働を推進するため、地域で活動するNPOと連携したボランティアスタッフ育成事業に着手し、年間を通じた登録制ボランティアとして「府中市美術館サポートスタッフ」

を発足させ、平成21年度には「府中市美術館ボランティア」に改称して、活動の充実を図ってきた。

令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ボランティア活動、説明会ともに実施しなかった。

	令和2年度	令和3年度
ボランティア登録者数	303	304

5 | 市民文化の日

開館5周年となる平成17年以降、府中市美術館では毎年10月に開館記念日を設定し、常設展及び企画展の観覧料を無料とすることで、利用者の拡大、広報啓発活動の推進を図ってきた。平成21年度からは、近隣に位置する府中市生涯学習センター、府中の森芸術劇場、そして都立府中の森公園を加えた4施設の共同企画による「府中の森文化まつり」を開催し、観覧無料のほか様々なイベントを開催してきた。

さらに、平成26年度、府中市は10月の第2日曜日を「市民文化の日」とし

て設定し、「府中の森文化まつり」を実施していた4施設もこれに参加した。これは市内9つの文化施設で無料観覧やコンサート、スタンプラリー、アートマーケットなど様々なイベントを開催する事業である。府中市美術館では、常設展・企画展の無料観覧、ミュージアムグッズフェア、過去の展覧会ポスターの無料プレゼント、ワークショップなどを実施し、市民が美術館に親しむ機会となっている。なお令和2年度から、無料観覧日を6日間に拡大した。

	令和2年度	令和3年度
開催日	10月6日-11日	10月5日-10日
参加者数	929	4,351

6 | 市民ギャラリー

1 | 利用一覧

No.	期間	展覧会名
令和2年度		
1	8.25(火)-8.30(日)	彫刻と対話法Ⅳ 重なる可能性の範囲
2	11.3(火・祝)-11.8(日)	第12回牛の会展
3	12.8(火)-12.13(日)	第33回府中油絵同好会展
4	1.19(火)-1.31(日)	複製原画展「ちはやぶるの世界～府中瑞沢高校かるた部編～」
5	3.23(火)-3.28(日)	筑波大学在籍有志による卒業・終了制作展「奔走する群」

No.	期間	展覧会名
令和3年度		
1	4.6(火)-4.11(日)	日本水彩画会東京西支部展
2	7.24(土)-8.9(月)	1960's あこのころの風景
3	9.22(水)-9.26(日)	若葉会展
4	11.2(火)-11.7(日)	くる・めくるアート・コラージュ美・彩 合同展
5	11.9(火)-11.14(日)	日韓美術交流展
6	11.23(火・祝)-11.28(水)	2021年第13回牛の会展
7	1.8(土)-1.16(日)	第64回北多摩地区中学校美術展
8	2.4(金)-2.13(日)	第22回連合区工美術展
9	3.15(火)-3.21(月・祝)	日本水彩画会東京西支部展

2 | 市民ギャラリーにおける主催・共催事業

名称

会期・入場者数

内容

令和2年度

・「彫刻と対話法Ⅳ 重なる可能性の範囲」

8月25日(火)-29日(土) 167名

武蔵野美術大学大学院造形研究科の主催により、同大学院彫刻コースの作品展示を行った。

令和3年度

・「1960's あこのころの風景」

7月24日(土)-8月9日(月) 1,632名

府中市美術館の所蔵作品から、1960年代頃の風景を描いた作品を展示した。

7 | 出版・広報

1 | 出版物

【展覧会図録】

日本の美術を貫く 炎の筆「線」	2,000円
メイド・イン・フチュウ 公開制作の20年	2,300円
メイド・イン・フチュウ 公開制作の20年 展覧会記録集	400円
与謝蕪村 「ぎこちない」を芸術にした画家	2,750円
映えるNIPPON 江戸～昭和 名所を描く	2,200円
動物の絵 日本とヨーロッパ ふしぎ・かわいい・へそまがり	2,970円
池内晶子 あるいは、地のちからをあつめて	2,000円
ふつうの系譜	2,500円

【公開制作リーフレット】

公開制作のコンセプトや制作状況を記録したリーフレット。(A4判6頁) 各50円
公開制作78 児玉幸子「脈動—溶けるリズム」
公開制作79 三沢厚彦「府中の森のアニマルルーム」
公開制作80 L PACK「アイビス・ア・カップのアトリエ」
公開制作81 椋田ちひろ「纏れ、解け、すべては進みながら起こる」
公開制作82 浅井裕介「種を食べた美術館」
公開制作83 岩井 優「ハウツー・クリーンアップ・ザ・ミュージアム」

【府中市美術館だより】

展覧会などの紹介や関連記事を掲載した小冊子。(B5判6-8頁 年2-3回発行)既刊1-55号 1-26号各100円、27号以降無償配布

【府中市美術館研究紀要】

学芸員による研究報告集。(A4判)
既刊 1-23号 各1,000円

【所蔵品ガイドブック】

鷹野隆大作品集「F」 1,500円

2 | ホームページ

開館に合わせ、独自にホームページを開設。企画展、常設展、公開制作、ワークショップ、その他イベントなどの告知を行うと同時に、収蔵品の紹介、市民ギャラリーの利用案内、刊行物などを掲載。平成20年4月に府中市ウェブサイトと統合した。令和2年9月にウェブサイトのデザインをリニューアルした。

URL: <https://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>

8 | 調査・研究

【府中市美術館研究紀要 所収論考一覧】

第23号(令和3年度)
音 ゆみ子「ダーウインの進化論とプリトン・リヴィエールの犬の絵」
大澤真理子「国立公園を描いた絵画について」

9 | 利用者数一覧

(1) 展覧会入場者数

	令和2年度		令和3年度	
	回数	入場者数	回数	入場者数
常設展	5*	21,326	4	72,691
企画展・所蔵品展	4	19,426	5	71,839
合計	9	40,752	9	144,530

*「東京近郊のんびり散歩」を含む

(2) 教育普及事業参加者数

	令和2年度		令和3年度	
	回数	入場者数	回数	入場者数
公開制作	25	17,333	31	38,249
公開制作関連事業	10	1,091	6	316
ワークショップ	4	30	2	22
アートスタジオ	8	794	14	174
企画展講演会等	4	104	4	465
企画展イベント	11	5,322	5	2,554
美術鑑賞教室	36	3,055	39	3,498
教員研修会	3	24	2	77
団体鑑賞支援	5	237	15	475
大学等連携事業	8	270	12	218
ボランティア活動	9	303	1	304
合計	123	28,563	131	46,352

(3) 市民ギャラリー利用者数

	令和2年度		令和3年度	
	回数	入場者数	回数	入場者数
利用者数	5	5,094	9	11,887

(4) 図書室利用者数

	令和2年度	令和3年度
利用者数	2,916	5,798

(5) 全体利用者数

	令和2年度	令和3年度
(1)～(4)の合計	77,325	208,567

10 | 関係法規等

1 | 関係法規

府中市美術館条例

平成11年9月30日

条例第17号

改正

平成14年6月26日条例第15号

平成24年3月20日条例第4号

平成30年3月13日条例第15号

(目的)

第1条 この条例は、市民の心豊かな文化的生活の享受に寄与するとともに、地域社会における美術教育・美術文化の振興を図るため、美術館を設置し、その管理及び運営について必要な事項を定めることを目的とする。

(名称及び位置)

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

府中市美術館 府中市浅間町1丁目3番地

(施設)

第3条 府中市美術館(以下「美術館」という。)には、次の各号に掲げる施設を設ける。

- (1) 常設展示室(牛島憲之作品の展示を含む。)
- (2) 企画展示室
- (3) こども造形室
- (4) 公開制作室
- (5) 市民ギャラリー
- (6) その他必要な施設

(事業)

第4条 美術館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 美術作品及び美術に関する資料(以下「美術作品等」という。)の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- (2) 美術に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 美術に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- (4) 美術に関する指導、助言及び相談に関すること。
- (5) 美術館の施設及び設備の使用に関すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、府中市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が必要と認める事業

(休館日)

第5条 美術館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日(月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日の翌日(その日が日曜日、土曜日又は国民の祝日に当たるときを除く。)
- (3) 1月1日から1月3日まで及び12月29日から12月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(平14条例15・一部改正)

(開館時間)

第6条 美術館の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更することができる。

(観覧)

第7条 常設展示室及び企画展示室に展示されている美術作品等を観覧しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第1に定める観覧料を納入しなければならない。

(特別観覧)

第8条 美術館に収蔵されている美術作品等について学術研究等のため模写、撮影等(以下「特別観覧」という。)をしようとする者は、あらかじめ教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第2に定める特別観覧料を納入しなければならない。

(使用許可)

第9条 美術館の施設のうち市民ギャラリーを使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める使用料を納入しなければならない。

(条件の付与)

第10条 教育委員会は、第7条第1項に規定する観覧の許可、第8条第1項に規定する特別観覧の許可又は前条第1項に規定する市民ギャラリーの使用の許可(以下「観覧等の許可」という。)に際して、必要な条件を付けることができる。

(観覧等の許可の制限)

第11条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、観覧等の許可をしない。

- (1) 公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあるとき。
- (2) 施設又は付属する器具等を損傷するおそれがあるとき。
- (3) その他管理上支障があるとき。

(観覧等の許可の取消し等)

第12条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、観覧等の許可に係る条件を変更し、又は当該許可を取り消すことができる。

- (1) 観覧等の許可を受けた者が、この条例又はこれに基づく規則に違反したとき。
- (2) 観覧等の許可を受けた目的又は観覧等の許可に係る条件に違反したとき。
- (3) 災害その他の事故により、施設を使用することができなくなったとき。

(4) その他公益上特に必要があるとき。

(観覧料等の納入時期)

第13条 第7条第2項に規定する観覧料、第8条第2項に規定する特別観覧料及び第9条第2項に規定する市民ギャラリーの使用料(以下「観覧料等」という。)は、その観覧等の許可を受けた際に納入しなければならない。ただし、市長が相当の理由があると認めるときは、後納することができる。

(平30条例12・一部改正)

(観覧料等の減免)

第14条 市長は、特別の理由があると認めるときは、観覧料等を減額し、又は免除することができる。

(平30条例12・一部改正)

(観覧料等の不還付)

第15条 既に納入した観覧料等は還付しない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、その一部又は全部を還付することができる。

(平30条例12・一部改正)

(特別の設備等の使用)

第16条 第9条第1項の規定に基づき市民ギャラリーの使用の許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、当該施設に特別の設備をし、又は付随する器具以外の器具を使用しようとするときは、教育委員会の許可を受けなければならない。

(使用权の譲渡禁止)

第17条 使用者は、使用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

(原状回復の義務)

第18条 使用者は、市民ギャラリーの使用を終了したとき、又は第12条第1号若しくは第2号の規定に該当して使用の許可を取り消されたときは、直ちに原状に回復しなければならない。

(損害賠償の義務)

第19条 美術館の施設若しくは設備又は美術作品等を損傷し、又は滅失した者は、これにより生じた損害額を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めるときは、その額を減額し、又は免除することができる。

(平30条例12・一部改正)

(入館の制限等)

第20条 教育委員会は、美術館の秩序を乱し、若しくは乱すおそれのある者の入館を禁止し、又はその者に対して退館を命ずることができる。

(販売又は営業行為の禁止)

第21条 美術館内においては、教育委員会の許可を受けずに美術館の入館者に物品を販売し、又は営業行為をしてはならない。

(運営協議会の設置)

第22条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、府中市美術館運営協議会(以下「運営協議会」という。)を美術館に置く。

2 運営協議会は、委員12人以内をもって組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者

(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者

(3) 学識経験を有する者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 運営協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

(平24条例4・一部改正)

(選定委員会の設置)

第23条 美術作品等の収集及び評価について審議するため、府中市美術品収集選定委員会(以下「選定委員会」という。)を美術館に置く。

2 選定委員会は、教育委員会が委嘱する学識経験を有する委員6人以内をもって組織する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 選定委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

(委任)

第24条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が別に定める。

付 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(美術館の供用開始)

2 美術館の供用開始の日は、教育委員会規則で定める。

付 則(平成14年6月26日条例第15号)

この条例は、公布の日から施行する。

付 則(平成24年3月30日条例第4号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

付 則(平成30年3月13日条例第12号)

(施行期日)

1 この条例は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める日から施行する。

(1) 第13条ただし書、第14条、第15条ただし書、第19条及び別表第1の改正規定 公布の日

(2) 別表第3の改正規定及び次項の規定 平成30年7月1日

(経過措置)

2 この条例による改正後の府中市美術館条例の規定は、平成31年3月16日(以下「適用日」という。)以後の使用について適用し、適用日前の使用及び平成30年7月1日前に使用の許可の申込みがされている適用日以後の使用については、なお従前の例による。

別表第1(第7条)

(平30条例12・一部改正)

●美術館観覧料

区分	1人1回につき	
	個人	団体(20人以上)
常設展	一般	200円
	高校生・大学生	100円
	小学生・中学生	50円
企画展	企画展が行われる都度市長が定める額	

備考

1 常設展とは、常設展示室における美術館の収蔵する美術作品等の展示をいう。

2 企画展とは、常設展以外の特別な企画に基づく展示をいう。

3 高校生・大学生とは、高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者をいう。

- 4 小学生・中学生とは、小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者をいう。
- 5 学齢に達しない者の観覧料は、無料とする。
- 6 企画展の観覧料を納入した者は、常設展の観覧料は、無料とする。

別表第2(第8条)

●特別観覧料

利用区分	料金
模写・模造	1点1日につき 1,000円
撮影	1点1日につき 3,000円
熟覧	1点1日につき 300円
原板使用	1点1日につき 2,000円

別表第3(第9条)

(平30条例12・一部改正)

●市民ギャラリー使用料

区分		使用料
市内に居住している者	全面使用	20,000円
	2分の1使用	10,000円
市外に居住している者	全面使用	40,000円
	2分の1使用	20,000円

備考

- 1 この使用料は、午前10時から午後5時までの全日使用料とする。
- 2 使用の延長は、美術館の開館時間が延長されている場合に限り認めるものとし、その使用料は、1時間につき全日使用料の20パーセントの額とする。この場合において、100円未満の端数が生じたときは、その端数金額を切り捨てるものとする。

府中市美術館条例施行規則

平成11年11月1日

教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、府中市美術館条例(平成11年9月府中市条例第17号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

(観覧券の交付)

第2条 府中市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、府中市美術館(以下「美術館」という。)の常設展又は企画展を観覧しようとする者に観覧料と引換えに観覧券(第1号様式)を交付する。

2 観覧券の発券時間は、午前10時から午後4時30分までとする。ただし、教育委員会が開館時間外に観覧券の交付を必要と認める場合は、これを変更することができる。

(使用の申込み)

第3条 条例第3条第5号に規定する市民ギャラリー(以下「市民ギャラリー」という。)を使用しようとする者(以下「使用者」という。)は、府中市美術館市民ギャラリー使用申込書(第2号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

2 市民ギャラリーの申込期間は、次表のとおりとする。

区分	申込期間
市内に居住する者	使用日の12月前から前日まで
市外に居住する者	使用日の6月前から前日まで

(使用期間)

第4条 市民ギャラリーの使用期間は、原則として1週間を1単位とし、引き続き使用する場合は、4週間を限度とする。

(使用の許可)

第5条 教育委員会は、第3条の規定による申込みについて適当と認めるときは、府中市美術館市民ギャラリー使用許可書(第3号様式)を交付する。

(使用の範囲)

第6条 教育委員会は、使用者が美術に関する展覧会等を開催する場合に限り、市民ギャラリーの使用を許可するものとする。ただし、当該展覧会等の開催が収益を目的としているときは、使用を許可しない。

(使用の変更等の届出)

第7条 使用者が市民ギャラリーの使用を変更し、又は取り消そうとするときは、府中市美術館市民ギャラリー使用変更・取消申出書(第4号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

2 市民ギャラリーの使用の変更に係る前項の申出は、使用日の3月前までに行わなければならない。

3 市民ギャラリーの使用の変更は、教育委員会が相当の理由があると認める場合に限り、許可するものとする。

(観覧料等の減免)

第8条 条例第14条の規定により美術館の観覧料等を免除することができる場合は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 市内の中学生以下の者が常設展又は企画展を観覧する場合
- (2) 次に掲げる者が常設展又は企画展を観覧する場合

ア 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者

イ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者

ウ 戦傷病者特別援護法(昭和38年法律第168号)第4条に規定する戦傷病者手帳の交付を受けている者

エ 原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律(平成6年法律第117号)第2条に規定する被爆者手帳の交付を受けている者

オ 東京都愛の手帳交付要綱(昭和42年民児精発第58号)第1条に規定する愛の手帳(これに類する療育手帳等を含む。)の交付を受けている者

カ アからオまでに掲げる者のほか、障害者基本法(昭和45年法律第84号)第2条第1号に規定する障害者であることを明らかにすることができる書類を有する者

(3) 前号の場合において介助者が同行する場合(介助者が複数で同行する場合における観覧料の免除対象人数は1人とする。)

(4) 市内に居住する70歳以上の者が常設展を観覧する場合

(5) 市又は教育委員会が主催し、又は共催する事業で市民ギャラリーを使用する場合

(6) 府中市立学校若しくは市内の幼稚園の教育活動で又は市内の保育所の保育活動で市民ギャラリーを使用する場合

2 前項に定めるもののほか、教育委員会が特に必要があると認めるときは、美術館の観覧料等を減額し、又は免除することができる。

- 3 条例第14条の規定による観覧料の減額又は免除を受けようとする者は、観覧しようとする際に、減額又は免除の対象であることを示すことにより教育委員会に申し込み、承認を得なければならない。ただし、教育委員会が特に理由があると認める場合は、この限りでない。
- 4 条例第14条の規定による市民ギャラリーの使用料又は特別観覧料の減額又は免除を受けようとする者は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定めるときに、府中市美術館使用料等減額・免除申込書(第5号様式)により教育委員会に申込みをしなければならない。
 - (1) 市民ギャラリー使用料 第3条第1項の規定による申込みのとき。
 - (2) 特別観覧料 第10条第1項の規定による申請のとき。
- 5 教育委員会は、前項に規定する申込みについて承認するとき、府中市美術館使用料等減額・免除承認書(第6号様式)を交付する。

(平30教委規則18・全改)

(観覧料等の還付)

第9条 条例第15条ただし書により還付する額は、別表に定めるとおりとする。

(特別観覧の申請)

- 第10条 条例第8条に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ府中市美術館特別観覧許可申請書(第7号様式)により教育委員会に申請しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項に規定する申請について適当と認めるときは、府中市美術館特別観覧許可書(第8号様式)を交付する。

(特別観覧の場所)

第11条 特別観覧は、教育委員会が指定する場所において行わなければならない。

(図書等の館内閲覧等)

第12条 美術館に所蔵されている図書、文献その他資料の閲覧等は、図書室その他の美術館内の所定の場所で行うものとする。

(遵守事項)

- 第13条 美術館の入館者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。
- (1) 美術作品等に触れないこと。
 - (2) 美術作品等の近くでインク等を使用しないこと。
 - (3) 所定の場所以外で喫煙又は飲食をしないこと。
 - (4) 危険物を持ち込まないこと。
 - (5) 畜類を伴い入れないこと。
 - (6) 他の入館者に迷惑をかけること。
 - (7) その他館長が必要と認めて指示する事項

(運営協議会の運営等)

- 第14条 条例第22条に規定する府中市美術館運営協議会(以下「運営協議会」という。)は、美術館の運営について、館長の諮問に応じ審議し、答申するほか、館長に対し意見を述べる。
- 2 運営協議会に会長及び副会長を置く。

- 3 会長及び副会長は、委員の互選による。
- 4 会長は会務を総理し、運営協議会を代表する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(運営協議会の会議)

- 第15条 運営協議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。
- 2 運営協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
 - 3 運営協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 4 会議は公開を原則とする。ただし、会長が必要があると認めるときは、これを非公開とすることができる。

(選定委員会の運営等)

- 第16条 条例第23条に規定する府中市美術品収集選定委員会(以下「選定委員会」という。)は、美術館における美術作品等の収集について、館長の諮問に応じ審議し、答申する。
- 2 選定委員会に委員長及び副委員長を置く。
 - 3 委員長及び副委員長は、委員の互選による。
 - 4 委員長は会務を総理し、選定委員会を代表する。
 - 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(選定委員会の会議)

- 第17条 選定委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。
- 2 選定委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
 - 3 選定委員長は、会議において関係職員に対し説明又は資料の提出を求めることができる。
 - 4 会議は、非公開とする。

(雑則)

第18条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

付 則

この規則は、公布の日から施行する。

付 則(平成15年4月1日教委規則第3号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

付 則(平成30年4月24日教委規則第18号)

(施行期日)

- 1 この規則は、公布の日から施行する。

(適用区分)

- 2 この規則による改正後の第8条第1項第5号及び第6号、同条第4項並びに第5項の規定は、平成31年3月16日以後の府中市美術館の市民ギャラリーの使用について適用し、同日前の府中市美術館の市民ギャラリーの使用については、なお従前の例による。

(経過措置)

- 3 この規則の施行の際、この規則による改正前の府中市美術館条例施行規則第5号様式及び第6号様式による用紙で、現に残存するものは、所要の修正を加え、なお使用することができる。

第1号様式(表)(第2条)(省略)

別表(第9条)

市民ギャラリー使用料還付表

使用者の責任でない理由によって使用することができないとき。	公益上又は市の特別の必要により使用許可を取り消すとき。	使用日の3月前までに使用の取消しを申請し、教育委員会が相当の理由があると認めるとき。	使用日の2月前までに使用の取消しを申請し、教育委員会が相当の理由があると認めるとき。	使用日の1月前までに使用の取消しを申請し、教育委員会が相当の理由があると認めるとき。
使用料の100%			使用料の50%	使用料の25%

第1号様式(表)(第2条)

観 覧 券 府中市美術館	No.	No.	観 覧 券
-----------------	-----	-----	-------

府中市美術館運営規程

平成12年8月30日

教育委員会規程第2号

府中市美術館運営規程(平成11年10月教育委員会規程第3号)の全部を改正する。

(目的)

第1条 この規程は、府中市美術館(以下「美術館」という。)の運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(職の設置)

第2条 美術館に館長及び副館長を置く。

2 館長は、地方公務員法(昭和25年法律第261号)第3条第3項第3号に規定する特別職とする。

(令2教委規程5・一部改正)

(職務)

第3条 館長は、美術館の運営に関し助言を行い、美術館を代表する。

(平20教委規程4・令2教委規程5・一部改正)

第4条 副館長は、府中市職務権限規程(昭和45年7月府中市訓令第8号)に定めるもののほか、府中市教育委員会事務局職務権限規程(昭和52年11月教育委員会規程第15号)の例により職務を行い、権限を行使するほか、教育委員会の指揮を受け、博物館法第4条第2項に規定する業務を行う。

(平20教委規程4・全改、令2教委規程5・一部改正)

(権限行使の基準)

第5条 この規程に定めのない事項については、府中市教育委員会事務局の例による。

付 則

この規程は、平成12年9月1日から施行する。

付 則(平成20年3月21日教委規程第4号)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

付 則(令和2年3月26日教委規程第5号)

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

2 | 組織(令和2年4月~令和4年3月)

府中市—文化スポーツ部—美術館

館長	藪野 健	平成27年4月—
副館長	相馬修央	平成30年4月—
副館長補佐	鎌田 享	令和2年4月—
管理係		
係長	尾崎伸雄	平成28年4月—
事務職員	古田ちひろ	平成29年4月—
	江上哲之	令和2年4月—令和4年1月
学芸係		
係長	鎌田 享	平成31年4月—
学芸員(事務職員)	金子信久	平成12年10月—
	神山亮子	平成12年10月—
	音ゆみ子	平成17年4月—
	小林真結	平成24年4月—
	大澤真理子	平成30年4月—
学芸員(再任用)	志賀秀孝	令和2年4月—
教育普及担当		
学芸員(主査)	武居利史	平成18年4月—令和4年3月
〈加盟団体〉		
日本博物館協会	登録	平成12年2月24日
全国美術館会議	加盟	平成9年6月19日
美術館連絡協議会	加盟	平成13年4月

3 | 各種委員会(名簿)

■府中市美術館運営協議会(任期2年)

平成30年9月1日—令和2年8月31日

会長	薩摩雅登
副会長	谷矢哲夫
委員	江川雄一
	隠岐由紀子
	上村貴子
	栗原昭良
	寺田慎吾
	堀江一男
	松浦浩司
	松林真澄
	吉田裕子
	米谷一志

令和2年12月18日—令和4年11月30日

会長	谷矢哲夫
副会長	橋本善八
委員	持田 晃
	寺田慎吾
	佐伯 智
	隠岐由紀子
	高尾戸美
	金田実生
	吉田裕子
	堀江一男
	清水正人
	瑞慶覧香織

■府中市美術品収集選定委員会(任期2年)

平成30年11月1日—令和2年10月31日

委員長	薩摩雅登
副委員長	田中晴久
委員	児島 薫
	佐川美智子
	永井龍之介
	山梨絵美子

令和2年12月18日—令和4年11月30日

委員長	田中晴久
副委員長	佐川美智子
委員	児島 薫
	永井龍之介
	平野 到
	山梨絵美子

11 | 利用案内

1 | 開館時間、休館日、観覧料など

■開館時間

午前10時から午後5時まで(展示室への最終入場は午後4時30分まで)

■休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)

国民の祝日の翌日(平日の場合)

年末年始、展示替えの期間

■観覧料(1人につき)

		個人	団体(20名以上)
常設展	一般	200円	150円
	高校生・大学生	100円	80円
	小学生・中学生	50円	30円
企画展	展覧会ごとに定める		

※未就学児及び障害者手帳等をお持ちの方は無料。

■府中っ子学びのパスポート

府中市内在住、在学の小・中学生は、「府中っ子学びのパスポート」を提示すると、いずれの展覧会も無料で観覧可能。

■府中市美術館メンバーシップ

入会から1年間、何度でも全ての展覧会を無料で観覧できるほか、「府中市美術館だより」(年2回発行)の送付、館内カフェ、ショップにおける割引などの特典がある。

[会費] 一般 2,500円

高校生・大学生 1,500円

小学生・中学生 800円

[団体会費] 一般2,000円

高校生・大学生 1,200円

小学生・中学生 640円

[学校・法人会費] 100,000円

[賛助会員会費] 個人 5,000円

団体・企業 30,000円

大学 50,000円

2 | 館内設備

・バリアフリー対応(車椅子)

展示室をはじめ、館内の全ての設備を車椅子で利用可能。

・だれでもトイレ

1階と2階に1カ所ずつ。おむつ替えシートを完備。

・貸出物

ベビーカー(2台)、車椅子(4台)

・駐車場

身体障害者用の駐車スペースあり(美術館地下)

3 | 交通案内

■電車利用の場合

・京王線府中駅から

1 ちゅうバス(多磨町行き)「府中市美術館」下車すぐ

府中駅バスターミナル7番乗り場より、8時から毎時30分間隔で運行

2 京王バス武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)「天神町二丁目」下車すぐ

3 京王バス武蔵小金井駅南口行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分

4 京王バス国分寺駅南口行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分

・京王線東府中駅北口から

1 徒歩17分

2 ちゅうバス(府中駅行き)「府中市美術館」下車すぐ

8時5分から毎時30分間隔で運行

・JR中央線武蔵小金井駅南口から

1 京王バス府中駅行き(一本木経由)「一本木」下車すぐ

2 京王バス府中駅行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分

・JR中央線国分寺駅南口から

1 京王バス府中駅行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分

■自動車をご利用の場合

・中央自動車道調布インターチェンジから約3.5キロメートル

・中央自動車道国立・府中インターチェンジから約4.4キロメートル

・八王子方面からのアクセスは、府中スマートインターチェンジをご利用いただけます。ETC搭載車のみ通行可能です。

4 | 所在地

〒183-0001 東京都府中市浅間町1の3 都立府中の森公園内

TEL: 042-336-3371 (代表)

FAX: 042-335-7576

ハローダイヤル: 050-5541-8600

ホームページ: <https://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>

府中市美術館年報

令和2-3年度

編集

府中市美術館

印刷

株式会社アトミ

発行

府中市美術館 ©2023
東京都府中市浅間町1-3

発行日

令和5年3月

ANNUAL REPORTS OF FUCHU ART MUSEUM
April 2020-March 2022

Edited by

Fuchu Art Museum

Printed by

atomi Co., Ltd.

Published by

Fuchu Art Museum ©2023
1-3 Sengen-cho, Fuchu-shi, Tokyo, Japan

Published in

March 2023